

5. 参考資料

5.1 実態調査 福祉用具貸与事業所調査票

「福祉用具及び住宅改修に関するエビデンス構築に向けた研究事業」
「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」

福祉用具貸与事業所調査票

■ 本調査の目的

- 平成 30 年度より、福祉用具貸与については、福祉用具専門相談員が機能や価格帯の異なる複数の商品を利用者に提示するほか、利用者に交付する福祉用具貸与計画書をケアマネジャーにも交付すること等が義務付けられ、住宅改修については福祉専門職など知見を備えた者が関与する等の仕組みを全国に広げることとされています。
- 福祉用具貸与等にあたっては、利用者の置かれている環境等を踏まえながら、専門的知識や経験に基づき提供していくことが一層求められています。
- 本調査は、こうした制度改正内容に係る実態や、求められる福祉用具専門相談員の専門性について把握することを目的として実施するものです。

■ 記入にあたってのお願いとご注意

- 貴福祉用具貸与事業所の「福祉用具専門相談員である管理者」の方がご回答ください。管理者が福祉用具専門相談員でない場合は、「貴事業所において最も経験年数の長い福祉用具専門相談員」の方がご記入下さい。）
- 特に指定の無い限り、**平成 30 年 12 月 1 日時点**の状況についてご回答下さい。
- 特に指定の無い限り、選択肢の番号 1 つを選んで○印をお付け下さい。
- （ ）の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- 数字を記入する欄が 0（ゼロ）の場合は「0」とご記入下さい。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で**平成 30 年 12 月 27 日（木）まで**にご返送下さい。

■ 調査に関するお問い合わせ先

福祉用具及び住宅改修に関する調査 事務局 ※お問い合わせの際は調査票名をお伝えください
TEL：0120-010-448（平日 平日10時～12時、13時～17時）
FAX（03-6826-5060）は24時間受け付けます。
メール：h30fukushiyogu@mri-ra.co.jp

1. 貴事業所の基本情報について

(1) 事業所の所在地	() 都・道・府・県 () 市・区・町・村			
(2) 事業の実施地域における保険者数	()			
(3) 介護保険の事業所登録年	平成 () 年	事業所の介護保険レンタルの利用者数 (11 月分)	人	
(4) 事業所における福祉用具の調達方法 (○はひとつ)	1. 主に自社で調達・保有している 2. 主にレンタル卸を利用している 3. 「1」と「2」を併用している			
(5) 貴法人が運営する福祉用具貸与事業所の総数	1. 1 か所 (貴事業所のみ) 2. 2～10 か所 3. 11 か所以上			
(6) 事業所の職員体制		常勤実人数	非常勤実人数	常勤換算数
	福祉用具専門相談員	人	人	人
	うち住環境コーディネーター 2 級以上の職員	人	人	人
	事務職員・その他	人	人	人

④ 制度改正により、複数商品を提示するためにどのような対応をしましたか (○はいくつでも)	1. オン・ザ・ジョブ・トレーニング（現任訓練）を実施した 2. 説明会や講習会を受講した（受講の内容： ） 3. 商品についての勉強会を開催または参加した 4. 特にない 5. その他（ ）
⑤ 複数商品を提示することによる効果・影響 (○はいくつでも)	1. 福祉用具専門相談員が利用者の自己決定・自己選択を後押しでき、納得感につながる 2. 書面を用いて複数提示することにより、その他のスタッフやケアマネジャーと情報共有できる 3. 書面を用いて複数提示することにより、選定過程の見える化につながる 4. 書面を用いて複数提示することにより、適切なサービス提供につながる 5. 福祉用具専門相談員の説明能力の向上により、専門性が向上する 6. 福祉用具専門相談員に知識や説明能力が必要となり、意識が向上する 7. ケアマネジャーやその他の職種に対して説明する機会が増えることにより、福祉用具専門相談員の専門性を発揮することができる 8. 他の専門職（ケアマネジャー、リハ専門職等）からの用具の指定に対して、説明することをきっかけに、連携が強化できる 9. 特にない 10. その他（ ）
⑥ 利用者・家族への効果・影響 (○はいくつでも)	1. 利用者や家族の福祉用具に対する関心が高まる 2. 利用者や家族の自己決定・自己選択につながる 3. サービス利用に対する利用者、家族の納得感が高まる 4. 説明される内容が多く、自分（利用者）に合う福祉用具を選択することが難しく、混乱をきたす 5. 福祉用具専門相談員から説明を受け、内容を理解するまでに時間がかかり、利用者や家族の負担が増える 6. 特にない 7. その他（ ）
⑦ 複数商品を提示する上での課題 (○はいくつでも)	1. 福祉用具専門相談員の福祉用具の適用や新商品などに関する知識が不足している 2. 福祉用具専門相談員の説明・提案能力が不足している 3. 適切に複数商品を提示できるよう福祉用具専門相談員の教育・育成が必要である 4. 複数提案に係る記録（入力）に時間がかかり、福祉用具専門相談員の負担が増える 5. 複数商品について利用者や家族に説明し、ご理解いただくことに時間がかかる 6. 機種によっては、複数商品の提示が難しい場合がある （例： ） 7. 他の専門職（ケアマネジャー、リハ専門職等）から用具を提案される場合の対応に困る 8. 急な退院時の対応などの際に複数商品の提示が難しい 9. 特にない 10. その他（ ）

（２）福祉用具貸与計画書のケアマネジャーへの交付

平成 30 年 4 月より、福祉用具貸与計画書をケアマネジャーに交付することが求められています。これについて貴事業所の状況をお答えください。

① 貴事業所では、従来からケアマネジャーに計画書を交付していましたか (○はひとつ)	1. 従来からケアマネジャーに福祉用具貸与計画書を交付していた 2. これまでは交付していなかった
---	--

② 平成 30 年 4 月以降、貴事業所では、ケアマネジャーに交付する書類として、貸与の目標や具体的なサービス内容のほか、どのような書類を交付していますか（○はいくつでも）	1. 利用者の基本情報 2. 機能や価格帯の異なる複数商品を掲載した書類 3. 全国平均貸与価格が掲載された書類 4. 提案理由等が掲載された書類 5. 特にない 6. その他（ ）
③ ケアマネジャーの反応（○はいくつでも）	1. 福祉用具の種類や特徴についての理解が深まった 2. 選定の経緯や理由の説明をきっかけに、コミュニケーションがとりやすくなった 3. 福祉用具専門相談員の専門性について理解が深まり、互いの役割分担が明確になった 4. 今後のケアプラン作成の参考とする意識がみられるようになった 5. 書類を確認・管理するための手間がかかる印象（負担感）を持った 6. 事業所によって様式が違うため内容をご理解いただきにくい 7. 計画書に記載された内容についての問い合わせが来る（増える）ようになった 8. 特にない 9. その他（ ）
④ 福祉用具貸与計画書をケアマネジャーに交付することによる効果・影響（○はいくつでも）	1. 選定の経緯や理由が把握でき、利用者の支援に活用してもらえる 2. 福祉用具の種類や特徴についての理解が深まる 3. 福祉用具専門相談員の専門性についての理解が深まる 4. ケアマネジャーとのコミュニケーションがとりやすくなる 5. ケアマネジャーとのコミュニケーションの機会が増えたことにより連携関係がよくなった 6. 福祉用具専門相談員とケアマネジャーの役割が明確化した 7. 特にない 8. その他（ ）
⑤ 計画書をケアマネジャーに交付する上での課題（○はいくつでも）	1. ケアマネジャーへの交付・説明の時間を確保しにくい 2. ケアマネジャーへの説明に時間がかかる 3. ケアマネジャーが福祉用具貸与計画書を確認してくれているか疑問がある 4. 文書が多くなり管理の負担が増大する 5. ケアマネジャーが制度改正の内容について十分に理解していない 6. 特にない 7. その他（ ）

（３）全国平均貸与価格の説明について 平成 30 年 10 月より、全国平均貸与価格の説明が求められています。平均貸与価格の説明について、貴事業所の状況をお答えください。 ※貸与価格の上限設定に伴う価格の変更や説明とは区別して、ここでは「全国平均貸与価格」についてのみお答えください。	
① 貴事業所では、全国平均貸与価格の説明に対応して、価格を変更しましたか（○はいくつでも）	1. 自社の価格が全国平均貸与価格より高い場合に価格を下げた商品がある →価格を下げた（下げるに至った） （理由： ） 2. 自社の価格が全国平均貸与価格より低い場合に価格を上げた商品がある →価格を上げた（上げるに至った） （理由： ） 3. 全国平均貸与価格の説明への対応として、価格を変更した商品はない
② 価格を下げた場合、コスト削減を実施しましたか（○はいくつでも）	1. 仕入れ価格（購入）を下げるための交渉をした （具体的に： ） 2. レンタル卸費用を下げるための交渉をした （具体的に： ） 3. サービスの効率化をはかった （具体的に： ） 4. 特にない 5. その他（ ）

③ 利用者に自社の価格についての理解を得るために、次のような対応をしましたか (○はいいくつでも)	1. 全国平均賃与価格より自社の価格が高い(又は低い)場合、自社の強みの明確化および説明内容について検討した 2. 利用者・家族への説明方法について事業所内で統一した対応方針を示した 3. 利用者・家族への説明方法についての事業所内で研修等を実施した 4. 説明用に自社の強み等についての説明資料(リーフレット等)を作成した 5. (質の高いサービスを強みとするため) 相談員のスキル向上のための取り組みを行った a 勉強会や研修の機会を増やした b 経験の浅い相談員は、スキルのある相談員と一緒に訪問するようにした c その他() 6. 特にない 7. その他()
④ 全国平均価格を示すことにより期待される効果・影響 (○はいいくつでも)	1. 自社の賃与価格が他社と比べて高くないことを証明できる 2. 自社の独自性や強みを説明する機会が増える 3. 利用者との価格面での合意形成ができる 4. ケアマネジャーとの価格面での合意形成ができる 5. 特にない 6. その他()
⑤ 全国平均価格を示す上での課題 (○はいいくつでも)	1. 福祉用具専門相談員の説明・提案能力が不足している 2. 価格が優先されがちになり、サービスの質の低下が懸念される 3. 事業所として説明方法の統一化が難しい 4. 特にない 5. その他()

(4) 住宅改修について			
① 住宅改修の実施状況	1. 住宅改修を行っている 2. 住宅改修を行っていない		
※②～⑩については、住宅改修を行っている事業者のみ回答ください。			
② 委託の有無	1. 委託している → ③にもご回答ください 2. 委託していない → ③の回答は不要です	③ 委託業者の数	事業者
④ 住宅改修事業の年間実施件数	件	⑤ 住宅改修専属従業者数	人
⑥ 住宅改修事業の採算性について	1. どちらかといえば良い 2. どちらともいえない 3. どちらかといえば良くない		
平成30年7月より、ケアマネジャーが利用者に対し、住宅改修の見積を複数事業所から取得するよう、説明すること等とされています。これについて貴事業所の状況をお答えください。			
⑦ 事業所の対応 (○はいいくつでも)	1. 従来から一定金額以上については、複数見積に対応していた 2. 平成30年度から複数見積に対応している 3. 対応した事例がない(又は対応していない) 4. その他()		
⑧ 専門職との連携について (○はいいくつでも)	1. 施工に際して、関連職員(リハ専門職・建築関係者)と連携している 2. 病院・施設からの退院・退所に向けた病院・施設のリハ専門職の家庭訪問に同行する 3. 今後は連携したい 4. 特にない 5. その他()		
⑨ 住宅改修について複数見積を取得することによる効果・影響 (○はいいくつでも)	1. 利用者にとっての選択肢が増え、利用者本位の選択が可能となる 2. 事業所間の競争が生じることにより、提案の質が高まる 3. 利用者の価格面での納得感が増す 4. 特にない 5. その他()		
⑩ 提示価格(材料費、工事費等を含む)のうち見積作成にかかる時間	見積作成にかかる所要時間 平均 約()分 ※見積作成は、住宅改修の種類、写真等番号、改修場所、改修部分、名称、商品名・規格・寸法等、介護保険対象部分、算出根拠 等		
⑪ 住宅の状況や改修内容に応じて利用者宅の写真のみで見積書を作成する比率	約()割		

⑫ 複数見積を取得する上での課題 (○はいくつでも)	1. 価格が優先されがちになり、質の確保が懸念される 2. 入院中の申請など緊急時の改修に対応できない懸念がある 3. 見積対応のためのコストや時間が増大し、コスト構造に影響する 4. 特にない 5. その他 ()	
⑬ 平成30年7月以降の受注件数の状況(前年度比較) (○はひとつ)	1. 受注件数が増えた 2. 受注件数は減った 3. 以前と変わらない 1～3の状況になった 要因・理由(自由記述)	
住宅改修の利用に際して、本年度より、建築専門職、リハビリテーション専門職等が適切に関与する仕組みが保険者において進められています。これについてお答えください。		
⑭ 保険者の取り組みとして確認されたものがある場合は、その保険者の数を教えてください。	・保険者による住宅改修支給申請書の審査の際に、建築専門職、リハビリテーション専門職等により点検を行う取り組み	保険者数 ()
	・住宅改修の実施前又は実施の際に、実際に改修を行う住宅をリハビリテーション専門職が訪問し、点検を行う取り組み	保険者数 ()
⑮ ⑭に関連する事業者の取り組みの変化 (⑭について1以上ご記入の方のみご回答ください。) (○はいくつでも)	1. 見積り作成にあたって、施工が必要な根拠(見積内容)を従来以上に意識するようになった 2. 保険者による点検の専門性が増したため、より水準の高い施工につながるようになった 3. 取り組みの変化はない 4. その他 ()	

4. 福祉用具の提供におけるリハビリテーションの専門職等との連携状況

福祉用具の提供におけるリハビリテーションの専門職等との連携状況についてご回答下さい。 (○はいくつでも)			
サービス提供場面	連携の有無	連携している場合、連携の内容について お答えください	
		連携している専門職	専門職の所属
① アセスメント (再アセスメント時)	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()
② 用具の選定・見直し	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()
③ 搬入・設置	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()

福祉用具の提供におけるリハビリテーションの専門職等との連携状況についてご回答下さい。			
(○はいくつでも)			
サービス提供場面	連携の有無	連携している場合、連携の内容について お答えください	
		連携している専門職	専門職の所属
④ 利用指導・適合調整	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()
⑤ モニタリング	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()
⑥ サービス担当 会議	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()
⑦ その他	1. すべてのケースで連携している 2. ほとんどのケースで連携している 3. 一部のケースで連携している 4. 連携していない	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. その他 ()	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテーション 3. 通所リハビリテーション 4. 病院 5. その他 ()
⑧ 専門職等との連携による効果 (自由記述)			

「福祉用具及び住宅改修に関するエビデンス構築に向けた研究事業」
「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」

居宅介護支援事業所調査票

■ 本調査の目的

- ・平成30年度より、福祉用具貸与については、福祉用具専門相談員が機能や価格帯の異なる複数の商品を利用者に提示するほか、利用者に交付する福祉用具貸与計画書を介護支援専門員にも交付すること等が義務付けられました。また、住宅改修については福祉専門職など知見を備えた者が関与する等の仕組みを全国に広げることとされています。
- ・福祉用具貸与等にあたっては、利用者の置かれている環境等を踏まえながら、専門的知識や経験に基づき提供していくことが一層求められています。
- ・本調査は、こうした制度改革に係る実態を把握することを目的として、介護支援専門員の皆様を対象として実施するものです。

■ 記入にあたってのお願いとご注意

【回答をお願いする方について】

- ・福祉用具貸与サービスについてお伺いするため、以下の方にご回答をお願いいたします。

現在、福祉用具貸与サービスを利用している利用者を複数担当している介護支援専門員：1名

【記入方法について】

- ・特に指定の無い限り、平成30年12月1日時点の状況についてご回答下さい。
- ・特に指定の無い限り、選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。
- ・（ ）の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- ・数字を記入する欄が0（ゼロ）の場合は「0」とご記入下さい。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で平成30年12月27日（木）までにご返送下さい。

■ 調査に関するお問い合わせ先・返送先

福祉用具及び住宅改修に関する調査 事務局 ※お問い合わせの際は調査票名をお伝えください
TEL：0120-010-448（平日 平日10時～12時、13時～17時）
FAX（03-6826-5060）は24時間受け付けます。
メール：h30fukushiyogu@mri-ra.co.jp

貴事業所の基本情報について

事業所の所在地	() 都・道府・県	介護保険の事業所登録年	平成()年
給付管理を行っている実利用者数	居宅介護支援	人	介護予防支援
事業所に併設しているサービス (○はいくつでも)	1. 病院・診療所・歯科診療所 2. 訪問介護（介護予防含む） 3. 訪問看護（介護予防含む） 4. 訪問リハビリテーション（介護予防含む） 5. 通所介護（介護予防含む） 6. 通所リハビリテーション（介護予防含む） 7. 福祉用具貸与・販売（介護予防含む） 8. 認知症対応型通所介護（介護予防含む） 9. 地域包括支援センター 10. 介護老人福祉施設（地域密着型を含む） 11. 介護老人保健施設 12. 介護医療院 13. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（介護予防含む） 14. 併設しているサービスはない 15. その他（ ）		
事業所の職員体制		常勤実人数	非常勤実人数
	介護支援専門員	人	人
	事務職員・その他	人	人

1. あなた自身のことについて

(1) 介護支援専門員としての業務経験年数	年	(2) 主任介護支援専門員資格の有無	1. あり	2. なし
(3) 現在、「介護支援専門員」のほかに保有している資格 (○はいくつでも)	1. 医師 2. 歯科医師 3. 薬剤師 4. 保健師 5. 助産師 6. 看護師 7. 准看護師 8. 理学療法士 9. 作業療法士 10. 言語聴覚士 11. 社会福祉士 12. 介護福祉士 13. 視能訓練士 14. 義肢装具士 15. 歯科衛生士 16. 栄養士 17. 精神保健福祉士 18. 介護福祉士養成のための実務者研修（旧ホムパ®-1級） 19. 介護職員初任者研修（旧ホムパ®-2級） 20. 旧ホムパ®-3級 21. 福祉用具専門相談員 22. 2級建築士 23. その他（ ）			
(4) 現在担当している利用者について	人	うち、福祉用具貸与サービスの提供を受けている利用者数		
	人	うち、平成30年4月以降の新規利用者および福祉用具貸与に関するケアプラン変更があった利用者		
		新規利用者：	人	
		福祉用具貸与のケアプランを変更した利用者：	人	

2. 福祉用具貸与事業所や福祉用具専門相談員との関わりについて

(1) 普段、通常業務では福祉用具専門相談員とどのような連携をしていますか。 (○はいくつでも)	1. 新製品等の情報提供を受けている 2. 福祉用具貸与事業所等が主催する勉強会に参加している 3. 福祉用具の導入の必要性について相談する 4. 福祉用具を導入したい利用者について、適切な用具について意見を求める 5. 導入したい福祉用具をあらかじめ選定した上で、調達を依頼する 6. 福祉用具の導入を検討する際、一緒に利用者宅を訪問する 7. その他（ ）
(2) 日常的に関わりのある福祉用具専門相談員の人数	人

3. 平成 30 年度制度改正に伴う対応について

(1) 平成 30 年 4 月より、福祉用具貸与サービスについて以下のことが求められています。

A. 福祉用具貸与事業所から、介護支援専門員へ福祉用具貸与計画書を交付すること

B. 福祉用具専門相談員は、利用者に対して複数商品を提示すること

C. 福祉用具専門相談員は、利用者に対して全国平均貸与価格について説明すること（平成 30 年 10 月より）

これらについてお答えください。※同封の「ふくせん福祉用具サービス計画書」のご案内参照

① 平成 30 年 4 月の制度改正前から福祉用具貸与計画書を提供されていましたか。 (○はひとつ)	1. 提供されていた → 担当していた利用者のうち 約 割 2. 提供されたことはない	
平成 30 年 10 月以降 に提供されている福祉用具貸与計画についてお答えください。		
② (上記 A および B に関連して) 提供された福祉用具貸与計画書のうち、次のような内容が記載されているおおよその割合をご回答ください。 記載されていない場合は「0」をご記入ください。	1. 提案した複数の商品名が記載されている割合	約 割
	2. 提案する理由が記載されている割合	約 割
③ (上記 A および C に関連して) 提供された福祉用具貸与計画書のうち、全国平均価格等について次のような内容が記載されているおおよその割合をご回答ください。 記載されていない場合は「0」をご記入ください。	1. 提案した複数の商品の全国平均価格が記載されている割合	約 割
	2. 最終的に選定された商品の全国平均価格が記載されている割合	約 割
	3. 貸与価格の上限が記載されている割合	約 割
	4. その他 ()	約 割
④ (上記 A に関連して) 提供された福祉用具貸与計画書の活用方法 (○はいくつでも)	1. 記載された福祉用具の特徴や選定理由等について福祉用具専門相談員に説明を求める 2. 価格について福祉用具専門相談員に説明を求める 3. 福祉用具計画の内容を参考にして、ケアプランを見直す 4. サービス担当者会議で、福祉用具専門相談員に説明を求める 5. 多職種（ヘルパーなど）への情報提供に活用している 6. 特にない 7. その他 ()	
⑤ (上記 A に関連して) 福祉用具貸与計画書が提供されることにより、期待される効果・影響 (○はいくつでも)	1. 選定の経緯や理由が把握でき、利用者の支援に活用できる 2. 福祉用具の種類や特徴についての理解が深まる 3. 福祉用具専門相談員の専門性についての理解が深まる 4. 福祉用具専門相談員とのコミュニケーションがとりやすくなる 5. 福祉用具専門相談員とのコミュニケーションの機会が増えたことにより連携促進につながる 6. 福祉用具専門相談員とケアマネジャーの役割が明確化する 7. 目標や課題の認識共有が図れる 8. 特にない 9. その他 ()	
⑥ (上記 A に関連して) 福祉用具計画書が提供される上での課題 (○はいくつでも)	1. 受け取りや読み込みの業務負担が増える 2. 福祉用具専門相談員から説明を受ける時間を確保しにくい 3. 文書が多くなり管理の負担が増大する 4. 特にない 5. その他 ()	

5.3 実態調査 クロス集計表

5.3.1 事業所規模別の比較

法人が運営する福祉用具貸与事業所の総数による事業所の対応について示した。

(1) 複数商品の提示

図表 5-1 従来から、複数商品を提示していたか

	件数	を従来提示から複数提示した商品	商品これまでに提示して複数な商品	無回答
全体	1,246	1,000 80.3%	240 19.3%	6 0.5%
1か所(貴事業所のみ)	820	649 79.1%	167 20.4%	4 0.5%
2～10か所	258	221 85.7%	37 14.3%	
11か所以上	145	112 77.2%	33 22.8%	

図表 5-2 (従来から複数商品を提示していた事業所について)提示内容の記録

	件数	あり	き振なりし記返(提示がてな確内い認容)でを	無回答
全体	1,000	322 32.2%	638 63.8%	40 4.0%
1か所(貴事業所のみ)	649	206 31.7%	417 64.3%	26 4.0%
2～10か所	221	79 35.7%	129 58.4%	13 5.9%
11か所以上	112	32 28.6%	79 70.5%	1 0.9%

図表 5-3 複数商品を提示するために、現在どのような様式を用いているか

	件数	この複数商品を用いた新しい提示様式を用いている	従来の提示様式を用いている	上記「2」以外の提示様式を用いている	提示様式は用いていない	その他	無回答
全体	1,246	808 64.8%	101 8.1%	41 3.3%	70 5.6%	8 0.6%	218 17.5%
1か所(貴事業所のみ)	820	502 61.2%	80 9.8%	39 4.8%	62 7.6%	5 0.6%	132 16.1%
2～10か所	258	174 67.4%	11 4.3%	2 0.8%	6 2.3%	2 0.8%	63 24.4%
11か所以上	145	119 82.1%	9 6.2%				17 11.7%

図表 5-4 制度改正により、複数商品を提示するためにどのような対応をしたか(複数回答)

	件数	オンライン・ワークショップを実施した	説明会や講習会を受講した	商品に関する勉強会を開催した	特になし	その他	無回答
全体	1,246	153 12.3%	290 23.3%	524 42.1%	424 34.0%	66 5.3%	25 2.0%
1か所(貴事業所のみ)	820	77 9.4%	169 20.6%	331 40.4%	317 38.7%	36 4.4%	14 1.7%
2～10か所	258	37 14.3%	80 31.0%	133 51.6%	60 23.3%	7 2.7%	8 3.1%
11か所以上	145	38 26.2%	31 21.4%	54 37.2%	41 28.3%	22 15.2%	1 0.7%

図表 5-5 複数商品を提示することによる効果・影響(複数回答)

	件数	福祉用具専門相談員が利用者への自己決定・自己選択を後押しできた	書面を用いた複数提示することにより、情報共有、その他の効果	書面を用いた複数提示することにより、適切な見え方、理解が得られた	書面を用いた複数提示することにより、適切なサービス提供につながった	福祉用具専門相談員の説明能力の向上により、専門性が向上した	福祉用具専門相談員に知識や説明能力が必要となり、意識が向上した	ケアマネジャーやその他の職種に対して専門説明する機会が増えることにより、福祉用具専門説明の専門性が高まった	他の専門職(ケアマネジャー、リハ専門職等)との連携が強化された	特になし	その他	無回答
全体	1,246	517 41.5%	322 25.8%	420 33.7%	342 27.4%	383 30.7%	472 37.9%	271 21.7%	258 20.7%	161 12.9%	75 6.0%	17 1.4%
1か所(貴事業所のみ)	820	343 41.8%	198 24.1%	254 31.0%	209 25.5%	244 29.8%	305 37.2%	171 20.9%	171 20.9%	117 14.3%	57 7.0%	11 1.3%
2～10か所	258	100 38.8%	70 27.1%	93 36.0%	65 25.2%	89 34.5%	101 39.1%	53 20.5%	53 20.5%	30 11.6%	11 4.3%	4 1.6%
11か所以上	145	64 44.1%	48 33.1%	67 46.2%	63 43.4%	44 30.3%	58 40.0%	39 26.9%	32 22.1%	11 7.6%	6 4.1%	

図表 5-6 利用者・家族への効果・影響（複数回答）

	件数	利用 者や 家族 の 福祉 用具 に 対 す る 関 心 が 高 ま る	利用 者 や 家族 の 自 己 決 定 ・ 自 己 選 択 に つ な が る	納 得 感 が 高 ま る	サ ー ビ ス 利 用 に 対 す る 利 用 者 、 家 族 の	説 明 さ れ る 内 容 が 多 く 、 自 分 （ 利 用 者 ） に 合 う 福 祉 用 具 を 選 択 す る こ と が 難 し く 、 混 乱 を き た す	福 祉 用 具 専 門 相 談 員 か ら 説 明 を 受 け 、 利 用 者 や 家 族 の 負 担 が 増 え る	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全体	1,246	271 21.7%	512 41.1%	561 45.0%	505 40.5%	532 42.7%	98 7.9%	52 4.2%	19 1.5%	
1か所（貴事業所のみ）	820	179 21.8%	327 39.9%	351 42.8%	332 40.5%	352 42.9%	67 8.2%	39 4.8%	14 1.7%	
2～10か所	258	53 20.5%	102 39.5%	126 48.8%	117 45.3%	125 48.4%	19 7.4%	8 3.1%	3 1.2%	
11か所以上	145	36 24.8%	72 49.7%	75 51.7%	48 33.1%	46 31.7%	12 8.3%	4 2.8%		

図表 5-7 利用者・家族への効果・影響（ポジティブ・ネガティブ）（複数回答）

	件数	ポジティブな回答	ネガティブな回答	特になし	無回答
全体	1,246	836 67.1%	680 54.6%	98 7.9%	31 2.5%
1か所（貴事業所のみ）	820	534 65.1%	450 54.9%	67 8.2%	25 3.0%
2～10か所	258	173 67.1%	153 59.3%	19 7.4%	4 1.6%
11か所以上	145	113 77.9%	65 44.8%	12 8.3%	

図表 5-8 複数商品を提示する上での課題（複数回答）

	件数	福祉用具専門相談員の福祉用具の適用や新商品などに関する知識が不足している	福祉用具専門相談員の説明・提案能力が不足している	育成が必要である	適切に福祉用具専門相談員の教育・育成ができるよう	複数提案に係る記録（入力）に時間がかかる	複数商品について利用者や家族に説明し、ご理解いただくことに時間がかかる	機種によっては、複数商品の提示が難しい場合がある	他の専門職（ケアマネジャー、リハ専門職等）から用具を提案される場合の対応に困る	数商品の提示が難しい	急な退院時の対応などの際に複数商品の提示が難しい	特にない	その他	無回答
全体	1,246	185 14.8%	139 11.2%	380 30.5%	911 73.1%	505 40.5%	486 39.0%	265 21.3%	700 56.2%	34 2.7%	53 4.3%			18 1.4%
1か所（貴事業所のみ）	820	124 15.1%	83 10.1%	221 27.0%	588 71.7%	329 40.1%	331 40.4%	174 21.2%	453 55.2%	27 3.3%	41 5.0%			14 1.7%
2～10か所	258	42 16.3%	35 13.6%	83 32.2%	205 79.5%	104 40.3%	107 41.5%	63 24.4%	156 60.5%	4 1.6%	6 2.3%			2 0.8%
11か所以上	145	16 11.0%	18 12.4%	68 46.9%	104 71.7%	62 42.8%	38 26.2%	22 15.2%	79 54.5%	3 2.1%	5 3.4%			

1) 福祉用具貸与計画書のケアマネジャーへの交付

図表 5-9 従来からケアマネジャーに計画書を交付していたか

	件数	従来からケアマネジャーに福祉用具貸与計画書を交付していた	これまででは交付してなかった	無回答
全体	1,246	1,076 86.4%	159 12.8%	11 0.9%
1か所(貴事業所のみ)	820	684 83.4%	127 15.5%	9 1.1%
2～10か所	258	236 91.5%	22 8.5%	
11か所以上	145	139 95.9%	6 4.1%	

図表 5-10 ケアマネジャーの反応（複数回答）

	件数	福祉用具の種類や特徴についての理解が深まった	選定の経緯や理由の説明がとりやすくなった	担当の専門性や役割が明確になった	福祉用具専門相談員の専門性について理解が深まった	今後のケアプラン作成の参考となる意識がみられるようになった	書類を確認・管理するための手間がかかる印象（負担感）を持った	事業所によって様式が違うため内容をご理解いただくにくい	計画書に記載された内容について質問がなくなった	特になし	その他	無回答
全体	1,246	236 18.9%	265 21.3%	156 12.5%	166 13.3%	337 27.0%	139 11.2%	30 2.4%	454 36.4%	42 3.4%	7 0.6%	
1か所（貴事業所のみ）	820	146 17.8%	148 18.0%	100 12.2%	86 10.5%	217 26.5%	75 9.1%	16 2.0%	327 39.9%	24 2.9%	4 0.5%	
2～10か所	258	52 20.2%	62 24.0%	33 12.8%	44 17.1%	74 28.7%	38 14.7%	7 2.7%	78 30.2%	14 5.4%	1 0.4%	
11か所以上	145	36 24.8%	51 35.2%	21 14.5%	34 23.4%	38 26.2%	22 15.2%	5 3.4%	42 29.0%	4 2.8%		

図表 5-11 福祉用具貸与計画書をケアマネジャーに交付することによる効果・影響（複数回答）

	件数	選定の経緯や理由が把握でき、利用者の支援に活用してもらえる	福祉用具の種類や特徴についての理解が深まる	福祉用具専門相談員の専門性についての理解が深まる	ケアマネジャーとのコミュニケーションがとりやすくなる	ケアマネジャーとのコミュニケーションの機会が増えたことにより連携促進につながっている	福祉用具専門相談員とケアマネジャーの役割が明確化した	特にない	その他	無回答
全体	1,246	320 25.7%	313 25.1%	216 17.3%	340 27.3%	217 17.4%	158 12.7%	395 31.7%	31 2.5%	20 1.6%
1か所（貴事業所のみ）	820	201 24.5%	207 25.2%	135 16.5%	187 22.8%	119 14.5%	101 12.3%	282 34.4%	20 2.4%	13 1.6%
2～10か所	258	56 21.7%	68 26.4%	51 19.8%	84 32.6%	56 21.7%	37 14.3%	72 27.9%	7 2.7%	2 0.8%
11か所以上	145	60 41.4%	36 24.8%	28 19.3%	63 43.4%	39 26.9%	16 11.0%	34 23.4%	4 2.8%	1 0.7%

図表 5-12 計画書をケアマネジャーに交付する上での課題（複数回答）

	件数	ケアマネジャーへの交付・説明の時間を確保しにくい	ケアマネジャーへの説明に時間がかかる	ケアマネジャーが福祉用具貸与計画書を認めてくれないか疑問がある	文書が多くなり管理の負担が増大する	ケアマネジャーが十分に理解できていない	特になし	その他	無回答
全体	1,246	326 26.2%	150 12.0%	580 46.5%	720 57.8%	219 17.6%	202 16.2%	28 2.2%	22 1.8%
1か所(貴事業所のみ)	820	209 25.5%	96 11.7%	357 43.5%	467 57.0%	134 16.3%	136 16.6%	18 2.2%	14 1.7%
2～10か所	258	57 22.1%	31 12.0%	145 56.2%	163 63.2%	57 22.1%	31 12.0%	7 2.7%	7 2.7%
11か所以上	145	51 35.2%	21 14.5%	66 45.5%	76 52.4%	21 14.5%	35 24.1%	2 1.4%	

2) 全国平均貸与価格の説明について

図表 5-13 全国平均貸与価格の説明に対応して、価格を変更したか（複数回答）

	件数	格を下げた（下げた）（価格が全国平均貸与価格より高）	格を上げた（上げた）（価格が全国平均貸与価格より低）	て、全国平均貸与価格を変更したの説明はない対応とし	無回答
全体	1,246	784 62.9%	138 11.1%	410 32.9%	23 1.8%
1か所（貴事業所のみ）	820	554 67.6%	85 10.4%	241 29.4%	11 1.3%
2～10か所	258	159 61.6%	32 12.4%	84 32.6%	5 1.9%
11か所以上	145	58 40.0%	19 13.1%	80 55.2%	3 2.1%

図表 5-14 価格を下げた場合、コスト削減を実施したか（複数回答）

	件数	を仕下げる（価格の購入交渉）	たげる（レンタルの卸費用を下）	はサ（サービスの効率化を）	特（ない）	その他	無回答
全体	1,246	156 12.5%	355 28.5%	71 5.7%	566 45.4%	50 4.0%	180 14.4%
1か所（貴事業所のみ）	820	99 12.1%	244 29.8%	30 3.7%	386 47.1%	30 3.7%	99 12.1%
2～10か所	258	30 11.6%	75 29.1%	17 6.6%	113 43.8%	16 6.2%	37 14.3%
11か所以上	145	24 16.6%	31 21.4%	23 15.9%	56 38.6%	3 2.1%	42 29.0%

図表 5-15 利用者に自社の価格についての理解を得るための対応（複数回答）

	件数	全国平均貸与価格より低い場合、自社の強みの価格が確かなことを説明し、内容について検討した	利用者が家族への説明方法について事業所内で統一した対応方針を示した	利用者が家族への説明方法について事業所内で研修等を実施した	説明用に自社の強み等について作成した説明資料（リーフレット等）を作成した	相談員の高いスキル向上のための取り組みを行った（質の高いサービスの向上のための取り組み）	特になし	その他	無回答
全体	1,246	465 37.3%	418 33.5%	160 12.8%	69 5.5%	134 10.8%	387 31.1%	20 1.6%	22 1.8%
1か所（貴事業所のみ）	820	272 33.2%	247 30.1%	75 9.1%	26 3.2%	74 9.0%	297 36.2%	16 2.0%	14 1.7%
2～10か所	258	111 43.0%	92 35.7%	50 19.4%	17 6.6%	31 12.0%	59 22.9%	2 0.8%	3 1.2%
11か所以上	145	78 53.8%	72 49.7%	32 22.1%	26 17.9%	28 19.3%	23 15.9%	2 1.4%	1 0.7%

図表 5-16 全国平均貸与価格を示すことにより期待される効果・影響（複数回答）

	件数	自社の貸与価格が他社と比べて高くないことを証明できる	説明する機会が増える	利用者の同意形成ができる	価格面での合意形成が期待できる	特になし	その他	無回答
全体	1,246	418 33.5%	198 15.9%	255 20.5%	246 19.7%	425 34.1%	80 6.4%	30 2.4%
1か所（貴事業所のみ）	820	298 36.3%	98 12.0%	166 20.2%	163 19.9%	279 34.0%	57 7.0%	21 2.6%
2～10か所	258	74 28.7%	44 17.1%	45 17.4%	45 17.4%	100 38.8%	18 7.0%	4 1.6%
11か所以上	145	36 24.8%	56 38.6%	40 27.6%	36 24.8%	39 26.9%	5 3.4%	1 0.7%

図表 5-17 全国平均貸与価格を示す上での課題（複数回答）

	件数	説明・提案能力が不足している	福祉用具専門相談員の不足	低価格が懸念される質の低下	価格が優先されがちになり、サービスの質の低下	事業所としての説明方法の統一が難しい	特になし	その他	無回答
全体	1,246	104 8.3%	885 71.0%	145 11.6%	178 14.3%	135 10.8%		44 3.5%	
1か所（貴事業所のみ）	820	67 8.2%	553 67.4%	88 10.7%	136 16.6%	82 10.0%		35 4.3%	
2～10か所	258	32 12.4%	195 75.6%	43 16.7%	30 11.6%	22 8.5%		3 1.2%	
11か所以上	145	5 3.4%	122 84.1%	13 9.0%	9 6.2%	30 20.7%		2 1.4%	

3) 住宅改修について

図表 5-18 住宅改修の実施状況

	件 数	住 宅 改 修 を 行 っ て	住 宅 改 修 を 行 っ て い な い	無 回 答
全体	1,246	983 78.9%	255 20.5%	8 0.6%
1か所(貴事業所のみ)	820	601 73.3%	212 25.9%	7 0.9%
2～10か所	258	235 91.1%	23 8.9%	
11か所以上	145	130 89.7%	15 10.3%	

図表 5-19 (住宅改修を行っている事業所における) 委託の有無

	件 数	委 託 し て い る	委 託 し て い な い	無 回 答
全体	983	723 73.6%	247 25.1%	13 1.3%
1か所(貴事業所のみ)	601	417 69.4%	175 29.1%	9 1.5%
2～10か所	235	186 79.1%	47 20.0%	2 0.9%
11か所以上	130	111 85.4%	19 14.6%	

図表 5-20 (住宅改修を行っている事業所における) 住宅改修事業の採算性について

	件 数	良 ど ち ら か と い え ば	い ど ち ら と も い え な	良 ど ち ら か と い え ば	無 回 答
全体	983	158 16.1%	438 44.6%	367 37.3%	20 2.0%
1か所(貴事業所のみ)	601	104 17.3%	291 48.4%	197 32.8%	9 1.5%
2～10か所	235	37 15.7%	110 46.8%	81 34.5%	7 3.0%
11か所以上	130	13 10.0%	31 23.8%	83 63.8%	3 2.3%

図表 5-21 （住宅改修を行っている事業所における）事業所の対応（複数回答）

	件数	従来から一定金額見直しを している	平成30年度から 見直しを している	対応した事例が ない	その他	無回答
全体	983	296 30.1%	316 32.1%	286 29.1%	100 10.2%	23 2.3%
1か所(貴事業所のみ)	601	164 27.3%	173 28.8%	215 35.8%	54 9.0%	15 2.5%
2～10か所	235	75 31.9%	103 43.8%	50 21.3%	17 7.2%	4 1.7%
11か所以上	130	51 39.2%	35 26.9%	18 13.8%	28 21.5%	2 1.5%

図表 5-22 （住宅改修を行っている事業所における）専門職との連携について（複数回答）

	件数	専門職・建築関係者と連携している	向けた・訪問・同行・退院・専門職に の病・施設・からの退院・専門職に の向けた・訪問・同行・退院・専門職に	今後は連携したい	特にない	その他	無回答
全体	983	653 66.4%	751 76.4%	69 7.0%	48 4.9%	30 3.1%	9 0.9%
1か所(貴事業所のみ)	601	398 66.2%	433 72.0%	51 8.5%	37 6.2%	13 2.2%	6 1.0%
2～10か所	235	158 67.2%	199 84.7%	13 5.5%	9 3.8%	2 0.9%	2 0.9%
11か所以上	130	87 66.9%	107 82.3%	3 2.3%	1 0.8%	15 11.5%	

図表 5-23 （住宅改修を行っている事業所における）住宅改修について複数見積を取得することによる効果・影響（複数回答）

	件数	利が 増え る こと が 本 位 の 選 択 肢	高 ま る こ と の 競 争 が 生 じ る	感 利 が 増 す の 価 格 面 で の 納 得	特にない	その他	無回答
全体	983	339 34.5%	162 16.5%	349 35.5%	208 21.2%	220 22.4%	20 2.0%
1か所(貴事業所のみ)	601	199 33.1%	86 14.3%	200 33.3%	141 23.5%	132 22.0%	12 2.0%
2～10か所	235	89 37.9%	42 17.9%	84 35.7%	49 20.9%	48 20.4%	5 2.1%
11か所以上	130	45 34.6%	33 25.4%	61 46.9%	14 10.8%	36 27.7%	1 0.8%

図表 5-24 （住宅改修を行っている事業所における）複数見積を取得する上での課題
（複数回答）

	件数	るり 価 格 が 優 先 さ れ な い	念の 改修 中の 申請 など 緊急 懸	入 院 中 の 影 響 す る	構 造 に 対 応 す る	見 積 が 増 大 し 、 コ ス ト	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全体	983	707 71.9%	561 57.1%	595 60.5%	40 4.1%	78 7.9%	16 1.6%		
1か所(貴事業所のみ)	601	406 67.6%	331 55.1%	361 60.1%	27 4.5%	52 8.7%	11 1.8%		
2～10か所	235	181 77.0%	145 61.7%	147 62.6%	10 4.3%	13 5.5%	3 1.3%		
11か所以上	130	110 84.6%	77 59.2%	77 59.2%	1 0.8%	12 9.2%	1 0.8%		

「福祉用具及び住宅改修に関するエビデンス構築に向けた研究事業」

追跡調査票

■記入にあたってのご注意

- ・ この調査票は調査の対象となるご利用者の方を担当している方がご記入下さい。
- ・ 担当者の観察・見立てに基づいて回答していただいて構いません。必要に応じて、利用者や主たる介護者の方に聞き取りを実施して、回答してください。
- ・ 特に指定の無い限り、選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。
- ・ () の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- ・ 数字を記入する欄が0（ゼロ）の場合は「0」とご記入下さい。
- ・ **ID は、昨年度調査の「定点観測調査 実施状況管理表」と同じ番号を記入してください。IDが不明な場合は、「不明」とご記入ください。**

事業所番号

事業所名

1. ご利用者情報

記入日	平成 30 年 () 月 () 日	I D	()	イニ シャル	(姓) (名) (,)	介護度 ※	※H30年9月1日時点 ● 要支援 (1・2) ● 要介護 (1・2・ 3・4・5) ● 申請中
年齢 ※	() 歳 ※H30年 9月1日時点	性別	1. 男性 2. 女性	利用 開始月	1. H29年3月 2. H29年9月		
福祉用具貸与 サービスの利用 状況	1. 利用継続中 2. 利用中断期間が あり再開した 3. 利用中止※		中断期間 利用中断 の場合理由	平成 3 0 年 月 ~平成 3 0 年 月 1. 入院・入所 2. そのほか ()		具体的に：	
中止時期	平成 30 年 月		利用中止 の場合理由	1. 自立 2. 入院・入所 3. ADL の改善 (目標の達成等) 4. 福祉用具が合わなかった 5. そのほか ()		具体的に：	

※3.利用中止の方は、以下の問いはご回答不要です。

2. 基本情報

問 1. 主介護者	1. 配偶者 2. 子ども／子どもの配偶者 3. なし 4. その他 ()	問 2. 居住 形態	1. 独居 2. 家族と同居	
問 3. 用具導入 のきっかけ	1. 医療施設等からの退所・退院 2. 介護保険の新規申請 3. その他 ()	問 4. 住居	1. 戸建て 2. 集合住宅	a.持ち家 b.賃貸
問 5. 今回の福祉用具導入に伴う、介護保険による住宅改修の有無、内容	1. 改修あり } → ●改修の内容（複数選択可） 2. 改修実施予定 } 3. 改修なし } 1. 手すりの取り付け 2. 段差の解消 3. 滑りの防止及び移動の円滑化等のための床又は通路面の材料の変更 4. 引き戸等への扉の取替え 5. 洋式便器等への便器の取替え 6. その他 ()			

問6．身長・体重 （過去1か月以内の測定値）	過去1か月以内の記録 1. なし 2. あり →下記に記入 身長（ ）cm 体重（ ）kg 測定日 平成30年（ ）月（ ）日		問7．昨年度調査以降の入院や病気・怪我の有無	1. 病気・怪我なし 2. 病気・怪我はあるが、入院・入所なし →内容（ ） 3. 入院・入所あり →内容（ ）	
問8．疾患	1. 骨関節疾患 2. 脳血管疾患 3. 心疾患 4. パーキンソン病 5. がん 6. その他進行性疾患 7. 呼吸器系疾患 8. その他（ ）				
問9．麻痺	1. なし 2. 単麻痺 3. 片麻痺 4. 対麻痺 5. 四肢麻痺				
問10．認知症の診断有無	1. あり 2. 診断はなく、症状もみられない 3. 診断はないが、認知症が疑われる				
問11．他サービスの利用状況 過去1か月の利用状況についてご回答ください。 （利用ありの場合は、週あたり または 月あたりの利用日数を記入してください）					
(1) 通所介護 （デイサービス）	1. 利用なし 2. 利用あり 週・月 （ ）日	(2) 通所リハビリテーション （デイクア）	1. 利用なし 2. 利用あり 週・月（ ）日	(5) 訪問介護	1. 利用なし 2. 利用あり 週・月（ ）日
(2) 訪問入浴	1. 利用なし 2. 利用あり 週・月 （ ）日	(4) 訪問看護	1. 利用なし 2. 利用あり 週・月（ ）日	(6) 訪問リハビリテーション	1. 利用なし 2. 利用あり 週・月（ ）日
(7) その他	【サービス名】（ ） 【頻度】（ 週・月 ）回				

3. 利用者の状況 (必要に応じて、利用者・介護者に聞き取りを実施して回答)

問 1. 指わっかテスト	(本人の) ふくらはぎの最も太い部分を (本人の) 両手の親指と人さし指で囲んだとき、(寝たきりなどで、できない場合は「4」を選択)		
	1. 囲めない	2. ちょうど囲める	3. 隙間ができる 4. テストができない
問 2. 転倒の回数	転倒した回数……………過去 1 か月に () 回 転倒しそうになった回数…過去 1 か月に () 回 ※「転倒」の定義は、利用者、ご家族の主観的な判断で構いません		
問 3. ADL (日常生活動作) (Barthel Index) 点数に○をつけてください			
項目	点数	質問内容	
(1) 食事	10	自立 (テーブルや皿から、自分で食事を口に運び、標準的時間内に食べ終わることができる。自助具などを装着して食事する場合も含む)	
	5	部分介助 (たとえば、おかずを切って細かくしてもらう、自助具を装着してもらう、など)	
	0	全介助	
(2) 車椅子からベッドへの移動	15	自立 (車いすを使っていない場合を含む。車いす利用者の場合、車いすですべてに安全に近づき、ブレーキ、フットレストを操作し、ベッドに移動し、横になり、ベッド脇で座位姿勢をとり、車いすの向きを変えることができる。必要に応じて、逆の動作をしてベッドから車いすに移乗できる)	
	10	軽度の部分介助または監視を要する (移乗の過程で最小限の援助が必要である、または、移乗動作のある部分で、監視や助言が必要である)	
	5	座ることは可能であるがほぼ全介助	
	0	全介助または不可能	
(3) 整容	5	自立 (洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃りを自分で行える)	
	0	部分介助または不可能	

(4) トイレ動作	10 5 0	自立（衣服の操作、後始末ができる。ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄を行える） 部分介助（体を支える、衣服の操作、後始末に介助を要する） 全介助または不可能
(5) 入浴	5 0	自立（体を洗う、シャワーを使う、浴槽に入る、などの全ての動作を行える） 部分介助または不可能
(6) 歩行	15 10 5 0	45 メートル以上の歩行が可能（ 車いす、歩行器以外の補装具 の使用の有無は問わない。義足、松葉杖、杖を使用して、45 メートル以上の歩行ができれば 15 点） 歩行器の使用を含む介助のもと、45 メートル以上の歩行が可能 車いすで 45 メートル以上の移動が可能（歩行不能の場合） 上記以外
(7) 階段昇降	10 5 0	自立（介助や関しなしに昇降ができる。手すり、杖、松葉杖などの使用の有無は問わないが、杖や松葉杖は自分で運ぶことができる。） 介助または監視を要する 不能
(8) 着替え	10 5 0	自立（靴を履く、ファスナーの上げ下ろし、装具の着脱を含む） 部分介助（標準的な時間内に、半分以上は自分で行える） 上記以外
(9) 排便コントロール	10 5 0	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外
(10) 排尿コントロール	10 5 0	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外

問 4. 意欲の指標（Vitality Index） 点数に○をつけてください

項目	点数	質問内容	項目	点数	質問内容
(1) 起床	2 1 0	いつも定時に起床している 起こさないと起床しないことがある 自分から起床することはない	(4) 排泄	2 1 0	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿排便を伝える 時々、尿意便意を伝える 排泄に全く関心がない
(2) 意思疎通	2 1 0	自分から挨拶する、話し掛ける 挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔が見られる 反応がない	(5) リハビリ・活動	2 1 0	自らリハに向かう、リクレーションに積極的に参加することを求める 促されて向かう 拒否、無関心
(3) 食事	2 1 0	自分から進んで食べようとする 促されると食べようとする 食事に関心がない、全く食べようとしな			

問 5. 貸与中の福祉用具（**自費購入品・自費レンタルは除く**）の利用状況：過去 1 か月の状況について記入
貸与の有無に加えて、利用目的に応じた適切な頻度で使えているかを選択してください（適切な頻度で使えている場合は「十分に使っている」）。

介護保険の福祉用具貸与サービスを利用していない用具は、空欄にせず、「貸与なし」に○をつけてください。

(1) 特殊寝台・特殊寝台付属品	1. 貸与なし → [十分に使っている] 2. 貸与あり → [あまり使っていない]	(7) 移動用リフト	1. 貸与なし → [十分に使っている] 2. 貸与あり → [あまり使っていない]
(2) 手すり	1. 貸与なし → [十分に使っている] 2. 貸与あり → [あまり使っていない]	(8) スロープ	1. 貸与なし → [十分に使っている] 2. 貸与あり → [あまり使っていない]
(3) 車いす・車いす付属品	1. 貸与なし → [十分に使っている] 2. 貸与あり → [あまり使っていない]	(9) 歩行補助つえ	1. 貸与なし → [十分に使っている] 2. 貸与あり → [あまり使っていない]

(4) 歩行器	1. 貸与なし 2. 貸与あり → [十分に使っている] [あまり使っていない]	(10) 排泄関連用具	1. 貸与なし 2. 貸与あり → [十分に使っている] [あまり使っていない]
(5) 徘徊感知器	1. 貸与なし 2. 貸与あり → [十分に使っている] [あまり使っていない]	(11) 床ずれ防止用具	1. 貸与なし 2. 貸与あり → [十分に使っている] [あまり使っていない]
(6) 体位変換器	1. 貸与なし 2. 貸与あり → [十分に使っている] [あまり使っていない]	(12) 今回の訪問時の用具の交換	1. あり 2. なし
		(13) 今回の訪問時の利用指導	1. 実施あり 2. 実施なし

問 6. 福祉用具の利用目標、現在の目標達成状況

(1)平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更	1. 無 2. 有 変更時期 () 月	(2) (変更した場合) 理由	1. 利用目標を達成した 2. 利用目標の水準が高すぎた 3. その他	具体的に：					
(3) (利用目標の変更があった場合) 用具によって支援したい動作 (複数選択可)	(4)利用目標におけるキーワード (複数選択可、数字に○) ※新規利用者・継続利用者の方 両方								(5) 目標の達成度(□にチェック)
	安全・安心	安定・転倒防止	安楽・姿勢の保持	自立度の向上	自立度の維持	外出	社会参加・交流	介護負担の軽減	
(例) a.寝返り	①	2	3	4	5	6	7	⑧	☐ 達成 ☒ 一部達成 ☐ 未達成
a.寝返り	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
b.起き上がり	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
c.立ちあがり	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
d.移乗	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
e.座位	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
f.屋内歩行	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
g.屋外歩行	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
h.移動 (歩行ができない場合)	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成

(3) (利用目標の変更があった場合) 用具によって支援したい動作 (複数選択可)	(4) 利用目標におけるキーワード (複数選択可、数字に○) ※新規利用者・継続利用者の方両方								(5) 目標の達成度(□にチェック)
	安全・安心	安定・転倒防止	安楽・姿勢の保持	自立度の向上	自立度の維持	外出	社会参加・交流	介護負担の軽減	
i.排泄	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
j.入浴	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
k.食事	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成
l.更衣	1	2	3	4	5	6	7	8	☐ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成

問 7. 日常生活への満足度：過去 1 か月の状況について記入してください			
(1) あなた(利用者ご本人)は現在健康だと思いますか？	1. 健康でない 2. あまり健康でない 3. まあまあ健康である 4. 健康である	(3) あなた(利用者ご本人)は、ご自分の日常生活全般について満足していますか。	1. 満足している 2. まあ満足している 3. やや不満である 4. 不満である
(2) あなた(利用者ご本人)は現在、どの程度生きがい(喜びやたのしみ)を感じていますか。	1. 十分感じている 2. 多少感じている 3. あまり感じていない 4. まったく感じていない	(4) ここまでの項目で主にご回答いただいているのは	1. ご利用者本人 2. 主たる介護者 3. ご利用者本人と主たる介護 4. その他 ()

4. 介護者の負担感 (主たる介護者がいない場合は、無回答で構いません)

問 1. 介護負担の状況：下記の項目について、介護者がどのように感じているか、該当するものに○をつけてください。(最近 1 か月について、お答えください)				
質問内容	非常に そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
(1) 世話はたいした重荷ではない	1	2	3	4
(2) 趣味・学習・その他の社会的活動などのために使える自分の自由な時間が持てなくて困る	1	2	3	4
(3) 世話の苦労があっても、前向きに考えていこうと思う	1	2	3	4
(4) 世話で家事や子育てなどに手が回らなくて困る	1	2	3	4
(5) 介護サービスの利用は、親族や近所に気兼ねがある	1	2	3	4
(6) 世話で精神的には、もう精いっぱいである	1	2	3	4
(7) 自分が最期までみてあげたいと思う	1	2	3	4
(8) 世話していると、自分の健康のことが心配になってしまう	1	2	3	4

質問内容	非常に そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
(9) お世話のために、経済的負担が大きくて困る	1	2	3	4
(10) お世話のことで、家族・親族と意見があわなくて困る	1	2	3	4
(11) お世話のために、夜眠れなくて困る	1	2	3	4
(12) 介護を受けている方本人の希望や反応を、言葉で確認できなくて困る	1	2	3	4

問 2. 主たる介護者の生活への満足度（最近 1 か月について、お答えください）

(1) あなたは現在健康だと思いますか？	1. 健康でない 2. あまり健康でない 3. まあまあ健康である 4. 健康である	(3) あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか。	1. 満足している 2. まあ満足している 3. やや不満である 4. 不満である
(2) あなたは現在、どの程度生きがい（喜びやたのしみ）を感じていますか。	1. 十分感じている 2. 多少感じている 3. あまり感じていない 4. まったく感じていない	(4) 主たる介護者の方への聞き取りの方法は	1. 訪問時に対面で聞き取り 2. 別日に電話で聞き取り 3. 主たる介護者本人が記入 4. その他（ ）

5. E-SAS 評価用紙（必要に応じて、利用者・介護者に聞き取りを実施して回答）

日本理学療法士協会が開発した E-SAS に、一部注釈を加えて使用しています。また、原版には、一定距離を歩くのにかかる所要時間を計測する項目（Time Up&To Go Test）がありますが、本調査では実施しないため、回答欄を設けていません。

問 1. 「生活のひろがり」 項目ごとにそれぞれ一つだけお選びください。

生活空間レベル 1	(1) この 4 週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。	1. はい 2. いいえ
	(2) この 4 週間で、上記生活空間に何回行きましたか。 ※「上記生活空間」＝「あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋」	1. 週 1 回未満 2. 週 1 ～ 3 回 3. 週 4 ～ 6 回 4. 毎日
	(3) 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。 ※一度でも使った場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
	(4) 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。 ※一度でも他者の助けが必要だった場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
生活空間レベル 2	(5) この 4 週間、玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。	1. はい 2. いいえ
	(6) この 4 週間で、上記生活空間に何回行きましたか。 ※「上記生活空間」＝「玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外」	1. 週 1 回未満 2. 週 1 ～ 3 回 3. 週 4 ～ 6 回 4. 毎日
	(7) 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。 ※一度でも使った場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
	(8) 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。 ※一度でも他者の助けが必要だった場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
生活空間レベル 3	(9) この 4 週間、自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に外出しましたか。	1. はい 2. いいえ
	(10) この 4 週間で、上記生活空間に何回行きましたか。 ※「上記生活空間」＝「自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所」	1. 週 1 回未満 2. 週 1 ～ 3 回 3. 週 4 ～ 6 回 4. 毎日
	(11) 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。 ※一度でも使った場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
	(12) 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。 ※一度でも他者の助けが必要だった場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ

生活空間レベル4	(13) この4週間、近隣よりも離れた場所（ただし町内）に外出しましたか。	1. はい 2. いいえ
	(14) この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。 ※「上記生活空間」＝「近隣よりも離れた場所（ただし町内）」	1. 週1回未満 2. 週1～3回 3. 週4～6回 4. 毎日
	(15) 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。 ※一度でも使った場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
	(16) 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。 ※一度でも他者の助けが必要だった場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
生活空間レベル5	(17) この4週間、町外に外出しましたか。	1. はい 2. いいえ
	(18) この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。 ※「上記生活空間」＝「町外」	1. 週1回未満 2. 週1～3回 3. 週4～6回 4. 毎日
	(19) 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。 ※一度でも使った場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ
	(20) 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。 ※一度でも他者の助けが必要だった場合は「1. はい」に回答	1. はい 2. いいえ

問2. 「ころばない自信」 項目ごとにそれぞれ一つだけお選びください。

※下記の行為そのものではなく、その行為を行う際に、転ばないでできる自信の程度を教えてください。

(1) 服を着たり、脱いだりする。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある	(6) 玄関チャイムや電話に応答する。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある
(2) 簡単な食事の用意をする。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある	(7) 家の周りを歩く。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある
(3) お風呂に入る。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある	(8) 洋服タンスや引き出しのものを取る。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある
(4) 椅子から立ったり座ったりする。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある	(9) ちょっとした家事（掃除など）をすませる。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある
(5) 布団に入ったり布団から起き上がる。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある	(10) 簡単な買い物をする。	1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. まあ自信がある 4. 大変自信がある

問3. 「自宅での入浴動作」 項目ごとにそれぞれ一つだけお選びください。

《 通所施設などでしか入浴していない場合は、自宅で行うことを考えて当てはまる能力になります 》

(1) 着替えはできますか。	1. 一人でしている 2. 見守りが必要 3. 介助が必要	(4) 髪の毛（頭）を洗えますか。	1. 一人でしている 2. 見守りが必要 3. 介助が必要
----------------	-------------------------------------	-------------------	-------------------------------------

(2) 浴室への移動はできますか。	1. 一人でしている 2. 見守りが必要 3. 介助が必要	(5) 浴槽への出入りはできますか。	1. 一人でしている 2. 見守りが必要 3. 介助が必要
(3) 体を洗えますか。	1. 一人でしている 2. 見守りが必要 3. 介助が必要		

問4. 「休まず歩ける距離」 下記の中から一つだけお選びください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 1. 10m 未満 | 2. 10m～50m 未満 | 3. 50m～100m 未満 |
| 4. 100m～500m 未満 | 5. 500m～1 km 未満 | 6. 1 km 以上 |

問5. 「人とのつながり」 項目ごとにそれぞれ一つだけお選びください。

(1) 少なくとも月に1回以上、顔を合わせる機会や消息をとりあう親戚や兄弟は何人ぐらいいますか。	0. 0人 1. 1人 2. 2人 3. 3～4人 4. 5～8人 5. 9人以上	(4) あなたが個人的なことで、気兼ねなく話することができる友人は何人ぐらいいますか。	0. 0人 1. 1人 2. 2人 3. 3～4人 4. 5～8人 5. 9人以上
(2) 少なくとも月に1回以上、顔を合わせる機会をもち、消息をとりあう友人は何人ぐらいいますか。	0. 0人 1. 1人 2. 2人 3. 3～4人 4. 5～8人 5. 9人以上	(5) あなたが手助けを求めることができるような、身近に感じる親戚や兄弟は何人ぐらいいますか。	0. 0人 1. 1人 2. 2人 3. 3～4人 4. 5～8人 5. 9人以上
(3) あなたが個人的なことでも、気兼ねなく話することができる親戚や兄弟は何人ぐらいいますか。	0. 0人 1. 1人 2. 2人 3. 3～4人 4. 5～8人 5. 9人以上	(6) あなたが手助けを求めることができるような、身近に感じる友人は何人ぐらいいますか。	0. 0人 1. 1人 2. 2人 3. 3～4人 4. 5～8人 5. 9人以上

6. 上記までの項目以外で、福祉用具貸与サービスの利用によって感じられた効果がございましたら、下記の欄にご自由にご記入ください。

7. 追跡調査項目用紙（必要に応じて、利用者・介護者に聞き取りを実施して回答）

問 1. 貸与中の福祉用具（自費購入品・自費レンタルは除く）の直近の利用状況
貸与している福祉用具ごとにご回答ください。（①複数回答可）

(1) 特殊寝台・ 特殊寝台 付属品	① 用具利用における 支援の内容	1.起き上がり支援 2.移乗支援 3.立ち上がり支援 4.褥瘡予防 5.姿勢の保持（食事等） 6.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(2) 手すり	① 用具利用における 支援の内容	1.移動支援（屋内） 2.立ち上がり支援 3.移乗支援 4.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(3) 車いす・ 車いす付 属品	① 用具利用における 支援の内容	1.移動支援（屋内） 2.移動支援（屋外） 3.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(4) 歩行器	① 用具利用における 支援の内容	1.移動支援（屋内） 2.移動支援（屋外） 3.移乗支援 4.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(5) 徘徊感知 器	① 用具利用における 支援の内容	1.見守り支援（昼） 2.見守り支援（夜間） 3.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：

(6) 体位変換器	① 用具利用における支援の内容	1.褥瘡予防（就寝時） 2.褥瘡予防（終日） 3.姿勢の保持 4.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(7) 移動用リフト	① 用具利用における支援の内容	1.段差の移動支援 2.別フロアへの移動支援 3.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(8) スロープ	① 用具利用における支援の内容	1.段差の移動支援（車いす） 2.段差の移動支援（歩行） 3.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(9) 歩行補助つえ	① 用具利用における支援の内容	1.移動支援（屋内） 2.移動支援（屋外） 3.移乗支援 4.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：
(10) 排泄関連用具	① 用具利用における支援の内容	1.排泄の支援（本人） 2.排泄の支援（介助者） 3.その他（ ）
	② 介助者の有無	1.有 2.無
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：

(11) 床ずれ防 止用具	① 用具利用における 支援の内容	1.褥瘡予防（就寝時のみ） 2.褥瘡予防（終日） 3.その他（ ）		
	② 介助者の有無	1.有 2.無		
	③ 操作の慣れ 平成 30 年 1 月比	1.慣れた 2.やや慣れた 3.変わらない 4.慣れていない		
	④ 利用頻度 平成 30 年 1 月比	1.増えた 2.やや増えた 3.変化なし 4.やや減った 5.減った 変化の理由：		
問 3 前回調査以降の 介護サービス利 用状況の変化	1. 介護サービスの利用が 減った 2. 特に変化なし 3. 介護サービスの利用が 増えた	（変化した場 合）具体的な 変化の内容と 理由	変化の内容： 理由：	
介護負担の変化	1. 介護時間が軽減 2. 身体的負担が軽減 3. 精神的負担が軽減 4. 変化なし	（変化した場 合）具体的な 変化の内容と 理由	変化の内容： 理由：	
問 4. リハビリテーション専門職との連携の状況について項目ごとにそれぞれ一つだけお選びください。				
（１）連携して いる専門職	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. 言語聴覚士 4. その他 （ ）	（２）連携 の 内 容 と 頻 度	連携内容： 頻度：	
（３）連携して いる専門職の所 属	1. 訪問看護 2. 訪問リハビリテ ーション 3. 通所リハビリテ ーション 4. 病院 5. そのほか （ ）	（４）連携 の タイ ミ ング（複数 回答）	1. アセスメント（再アセスメント）の際 2. 用具の選定・見直しの際 3. 搬入・設置の際 4. 利用指導・適合調整の際 5. モニタリングの際 6. サービス担当者会議の際 7. その他（ ）	

質問項目は以上です。

記入洩れ等がないか、今一度ご確認の上、事務局に提出してください。

5.5 追跡調査 集計・分析結果

5.5.1 追跡調査単純集計結果（人数、％）

利用者情報

福祉用具貸与サービス利用状況												
	総計	2.利用中断期間があり再開した					3利用中止					無回答
		1.利用継続中	入院・入所		そのほか 無回答含む	1:自立	2:入院入所	3:ADLの改善 (目標の達成等)	4:福祉用具が 合わなかった	5:その他 無回答含む		
1. H29年3月「継続」	905 100.0%	653 72.2%	41 4.5%	38 4.2%	3 0.3%	207 22.9%	13 1.4%	127 14.0%	9 1.0%	1 0.1%	57 6.3%	4 0.4%
2. H29年9月「新規」	1,102 100.0%	780 70.8%	57 5.2%	55 5.0%	2 0.2%	264 24.0%	19 1.7%	129 11.7%	27 2.5%	0 0.0%	89 8.1%	1 0.1%

	総計			
	性別			
	1:男性	2:女性	無回答	
1.H29年3月「継続」	905 100.0%	335 37.0%	549 60.7%	21 2.3%
2.H29年9月「新規」	1,102 100.0%	421 38.2%	642 58.3%	39 3.5%

総計															
福祉用具貸与サービス利用状況															
	1:利用継続中	2:利用中断期間があり再開した										3利用中止			無回答
		1:男性			2:女性			無回答							
		1:男性	2:女性	無回答	1:男性	2:女性	無回答	1:男性	2:女性	無回答	1:男性	2:女性	無回答		
1.H29年3月「継続」	905 100.0%	653 72.2%	223 24.6%	417 46.1%	13 1.4%	41 4.5%	13 1.4%	27 3.0%	1 0.1%	207 22.9%	99 10.9%	101 11.2%	7 0.8%	4 0.4%	
2.H29年9月「新規」	1,102 100.0%	780 70.8%	268 24.3%	493 44.7%	19 1.7%	57 5.2%	31 2.8%	23 2.1%	3 0.3%	264 24.0%	121 11.0%	126 11.4%	17 1.5%	1 0.1%	

総計	介護度									
	要支援					要介護				
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	
1.H29年3月「継続」	905 100.0%	83 9.2%	143 15.8%	151 16.7%	188 20.8%	113 12.5%	78 8.6%	38 4.2%	3 0.3%	108 11.9%
2.H29年9月「新規」	1,102 100.0%	127 11.5%	185 16.8%	193 17.5%	203 18.4%	118 10.7%	92 8.3%	40 3.6%	2 0.2%	142 12.9%
1:利用継続中										
	介護度									
	要支援					要介護				
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	
1.H29年3月「継続」	653 100.0%	70 10.7%	116 17.8%	126 19.3%	140 21.4%	90 13.8%	53 8.1%	27 4.1%	1 0.2%	30 4.6%
2.H29年9月「新規」	780 100.0%	103 13.2%	151 19.4%	147 18.8%	167 21.4%	86 11.0%	56 7.2%	31 4.0%	0 0.0%	39 5.0%
2:利用中断期間があり再開した										
	介護度									
	要支援					要介護				
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	
1.H29年3月「継続」	41 100.0%	3 7.3%	12 29.3%	3 7.3%	10 24.4%	5 12.2%	5 12.2%	3 7.3%	0 0.0%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	57 100.0%	6 10.5%	5 8.8%	15 26.3%	9 15.8%	6 10.5%	10 17.5%	3 5.3%	1 1.8%	2 3.5%
3:利用中止										
	介護度									
	要支援					要介護				
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	
1.H29年3月「継続」	207 100.0%	10 4.8%	14 6.8%	20 9.7%	37 17.9%	18 8.7%	20 9.7%	8 3.9%	2 1.0%	78 37.7%
2.H29年9月「新規」	264 100.0%	18 6.8%	29 11.0%	31 11.7%	27 10.2%	26 9.8%	25 9.5%	6 2.3%	1 0.4%	101 38.3%

※「全て回答あり」の利用者

	福祉用具貸与サービス利用状況									
	1.利用継続中					2.利用中断期間が済み再開した				
	1:利用継続中		2:利用中断期間が済み再開した			3:利用中止		4:福祉用具が 合わなかった		
	1:男性	2:女性	1:自立	2:入院入所	3:ADLの改善 (目標の達成 等)	4:福祉用具が 合わなかった	5:その他 無回答含む	1:自立	2:入院入所	3:ADLの改善 (目標の達成 等)
1.H29年3月「継続」	752	573	147	8	95	1	37	147	8	95
	100.0%	76.2%	19.5%	1.1%	12.6%	0.1%	4.9%	19.5%	1.1%	12.6%
2.H29年9月「新規」	872	663	174	10	86	2	57	174	10	86
	100.0%	76.0%	20.0%	1.1%	9.9%	0.2%	6.5%	20.0%	1.1%	9.9%

	性別			
	1:男性		2:女性	
	1:男性	2:女性	1:男性	2:女性
1.H29年3月「継続」	752	278	456	18
	100.0%	37.0%	60.6%	2.4%
2.H29年9月「新規」	872	321	520	31
	100.0%	36.8%	59.6%	3.6%

	福祉用具貸与サービス利用状況									
	1.利用継続中					2.利用中断期間が済み再開した				
	1:利用継続中		2:利用中断期間が済み再開した			3:利用中止		4:福祉用具が 合わなかった		
	1:男性	2:女性	1:自立	2:入院入所	3:ADLの改善 (目標の達成 等)	4:福祉用具が 合わなかった	5:その他 無回答含む	1:自立	2:入院入所	3:ADLの改善 (目標の達成 等)
1.H29年3月「継続」	752	573	147	8	95	1	37	147	8	95
	100.0%	76.2%	19.5%	1.1%	12.6%	0.1%	4.9%	19.5%	1.1%	12.6%
2.H29年9月「新規」	872	663	174	10	86	2	57	174	10	86
	100.0%	76.0%	20.0%	1.1%	9.9%	0.2%	6.5%	20.0%	1.1%	9.9%

総計		介護度							
		要支援						要介護	
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
1.H29年3月「継続」	752 100.0%	73 9.7%	127 16.9%	130 17.3%	159 21.1%	93 12.4%	62 8.2%	28 3.7%	77 10.2%
2.H29年9月「新規」	872 100.0%	111 12.7%	155 17.8%	153 17.5%	170 19.5%	91 10.4%	67 7.7%	29 3.3%	94 10.8%

1:利用継続中		介護度							
		要支援						要介護	
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	61 10.6%	105 18.3%	111 19.4%	127 22.2%	77 13.4%	44 7.7%	22 3.8%	25 4.4%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	94 14.2%	130 19.6%	124 18.7%	144 21.7%	70 10.6%	45 6.8%	25 3.8%	31 4.7%

2:利用中断期間があり再開した		介護度							
		要支援						要介護	
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
1.H29年3月「継続」	29 100.0%	2 6.9%	10 34.5%	3 10.3%	8 27.6%	3 10.3%	2 6.9%	1 3.4%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	34 100.0%	4 11.8%	3 8.8%	7 20.6%	8 23.5%	3 8.8%	6 17.6%	1 2.9%	1 2.9%

3利用中止		介護度							
		要支援						要介護	
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
1.H29年3月「継続」	147 100.0%	10 6.8%	11 7.5%	15 10.2%	23 15.6%	13 8.8%	16 10.9%	5 3.4%	52 35.4%
2.H29年9月「新規」	174 100.0%	13 7.5%	22 12.6%	22 12.6%	18 10.3%	18 10.3%	15 8.6%	3 1.7%	62 35.6%

※「1.:利用継続中」の利用者

総計	介護度（第1回の回答）									
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	
1.H29年3月「継続」	573	66	91	110	135	79	50	27	3	12
	100.0%	11.5%	15.9%	19.2%	23.6%	13.8%	8.7%	4.7%	0.5%	2.1%
2.H29年9月「新規」	663	91	113	108	128	83	51	25	58	6
	100.0%	13.7%	17.0%	16.3%	19.3%	12.5%	7.7%	3.8%	8.7%	0.9%

総計	介護度									
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	
1.H29年3月「継続」	573	61	105	111	127	77	44	22	1	25
	100.0%	10.6%	18.3%	19.4%	22.2%	13.4%	7.7%	3.8%	0.2%	4.4%
2.H29年9月「新規」	663	94	130	124	144	70	45	25	0	31
	100.0%	14.2%	19.6%	18.7%	21.7%	10.6%	6.8%	3.8%	0.0%	4.7%

1.H29年3月「継続」

総計	追跡調査票 介護度														
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答						
要支援1	573	61	105	111	127	77	44	22	1	25					
要支援2	66	41	12	6	2	1	0	0	0	4					
要介護1	91	11	67	5	2	2	0	1	1	2					
要介護2	110	2	12	65	18	5	2	1	0	5					
要介護3	135	2	8	18	79	16	5	2	0	5					
要介護4	79	1	2	8	19	38	6	1	0	4					
要介護5	50	1	2	6	4	6	26	2	0	3					
申請中	27	0	0	1	2	6	3	14	0	1					
無回答	3	0	0	1	0	1	1	0	0	0					
	12	3	2	1	1	2	1	1	0	1					

2.H29年9月「新規」

総計	追跡調査票 介護度														
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答						
要支援1	663	94	130	124	144	70	45	25	0	31					
要支援2	91	56	18	9	5	0	0	0	0	3					
要介護1	113	17	72	10	7	1	0	0	0	6					
要介護2	108	6	11	62	18	3	2	1	0	5					
要介護3	128	2	6	23	72	14	5	2	0	4					
要介護4	83	2	7	8	16	38	6	1	0	5					
要介護5	51	1	2	3	14	5	19	4	0	3					
申請中	25	0	0	2	1	3	8	11	0	0					
無回答	58	7	13	6	11	6	5	5	0	5					
	6	3	1	1	0	0	0	1	0	0					

基本情報

総計					
		主介護者			
		配偶者	子ども/子供の 配偶者	なし	その他
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	203 35.4%	227 39.6%	99 17.3%	34 5.9%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	248 37.4%	248 37.4%	108 16.3%	49 7.4%

総計			
		居住形態	
		独居	家族と同居
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	149 26.0%	406 70.9%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	164 24.7%	485 73.2%

総計					
		用具導入のきつかけ			
		医療施設等か らの退所・退院	介護保険の新 規申請	その他	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	203 35.4%	245 42.8%	88 15.4%	37 6.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	253 38.2%	277 41.8%	93 14.0%	40 6.0%

総計									
		戸建て				住居 集合住宅			
		持ち家	賃貸	無回答	無回答	持ち家	賃貸	無回答	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	415 72.4%	373 65.1%	7 1.2%	35 6.1%	127 22.2%	71 12.4%	19 3.3%	31 5.4%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	490 73.9%	427 64.4%	15 2.3%	48 7.2%	139 21.0%	88 13.3%	14 2.1%	34 5.1%

総計									
		住宅改修の有無				改修内容 ※複数回答			
		改修あり	改修実施予定	なし	無回答	床または通路面 の材料変更	引き戸等への扉 の取替え	便器の取換え	その他
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	194 33.9%	2 0.3%	352 61.4%	25 4.4%	93.8%	11 5.7%	2 1.0%	1 0.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	204 30.8%	2 0.3%	430 64.9%	27 4.1%	94.1%	15 7.4%	1 0.5%	1 0.5%

※左記「住宅改修あり」の改修内容

総計	過去1か月以内の身長体重の記録			
	なし		あり	
	無回答		無回答	
1.H29年3月「継続」	573	368	180	25
	100.0%	64.2%	31.4%	4.4%
2.H29年9月「新規」	663	439	197	27
	100.0%	66.2%	29.7%	4.1%

総計	昨年度調査以降の入院や病気・怪我の有無			
	病気・怪我はないが、入院・入所なし		入院・入所あり	
	無回答		無回答	
1.H29年3月「継続」	573	418	75	35
	100.0%	72.9%	13.1%	6.1%
2.H29年9月「新規」	663	512	74	38
	100.0%	77.2%	11.2%	5.7%

疾患 ※複数回答					
総計	骨関節疾患		脳血管疾患		心疾患
	なし		なし		なし
	あり		あり		あり
1.H29年3月「継続」	112	84	48	30	23
	19.5%	14.7%	8.4%	5.2%	4.0%
2.H29年9月「新規」	140	104	44	29	22
	21.1%	15.7%	6.6%	4.4%	3.3%

総計	その他進行性疾患		呼吸器系疾患		その他
	なし		なし		なし
	あり		あり		あり
1.H29年3月「継続」	16	16	22	115	20.1%
	2.8%	2.8%	3.8%	20.1%	
2.H29年9月「新規」	13	13	15	139	21.0%
	2.0%	2.0%	2.3%	21.0%	

総計	麻痺			
	片麻痺		四肢麻痺	
	なし		なし	
1.H29年3月「継続」	573	444	18	3
	100.0%	77.5%	3.1%	0.5%
2.H29年9月「新規」	663	524	16	5
	100.0%	79.0%	2.4%	0.8%

総計	認知症の診断有無			
	診断なし		診断あり	
	あり		あり	
1.H29年3月「継続」	573	79	404	23
	100.0%	13.8%	70.5%	4.0%
2.H29年9月「新規」	663	89	464	36
	100.0%	13.4%	70.0%	5.4%

総計	1.H29年3月「継続」	過去1カ月の利用状況		
		利用なし	利用あり	無回答
	通所介護	573 100.0%	226 39.4%	270 47.1% 77 13.4%
	訪問入浴	573 100.0%	405 70.7%	21 3.7% 147 25.7%
	通所リハ	573 100.0%	346 60.4%	98 17.1% 129 22.5%
	訪問看護	573 100.0%	384 67.0%	58 10.1% 131 22.9%
	訪問介護	573 100.0%	324 56.5%	132 23.0% 117 20.4%
	訪問リハ	573 100.0%	384 67.0%	50 8.7% 139 24.3%

3.利用者の状況

総計		指わつかテスト			
		囲めない	ちよと囲める	隣側ができる	テストができる
	1.H29年3月「継続」	573 100.0%	87 15.2%	212 37.0%	178 31.1% 78 13.6% 18 3.1%
	2.H29年9月「新規」	663 100.0%	98 14.8%	266 40.1%	200 30.2% 77 11.6% 22 3.3%

総計	2.H29年9月「新規」	過去1カ月の利用状況		
		利用なし	利用あり	無回答
	通所介護	663 100.0%	272 41.0%	300 45.2% 91 13.7%
	訪問入浴	663 100.0%	0 0.0%	478 72.1% 18 2.7% 167 25.2%
	通所リハ	663 100.0%	0 0.0%	391 59.0% 136 20.5% 153 23.1%
	訪問看護	663 100.0%	0 0.0%	442 66.7% 68 10.3% 145 21.9%
	訪問介護	663 100.0%	663 100.0%	372 56.1% 146 22.0% 159 24.0%
	訪問リハ	663 100.0%	0 0.0%	451 68.0% 53 8.0%

総計		転倒した回数											
		0	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6
	1.H29年3月「継続」	573 100.0%	403 70.3%	62 10.8%	3 0.5%	16 2.8%	2 0.3%	6 1.0%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.3%	1 0.2%	0 0.0%
	2.H29年9月「新規」	663 100.0%	481 72.5%	58 8.7%	3 0.5%	21 3.2%	3 0.5%	7 1.1%	1 0.2%	4 0.6%	0 0.0%	2 0.3%	1 0.2%

総計		転倒しそうになった回数											
		0	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6
	1.H29年3月「継続」	573 100.0%	275 48.0%	69 12.0%	10 1.7%	50 8.7%	14 2.4%	33 5.8%	2 0.3%	12 2.1%	7 1.2%	16 2.8%	0 0.0%
	2.H29年9月「新規」	663 100.0%	338 51.0%	77 11.6%	5 0.8%	54 8.1%	16 2.4%	38 5.7%	3 0.5%	15 2.3%	1 0.2%	24 3.6%	2 0.3%

1.H29年3月「継続」	総計					
	0	5	10	15	無回答	
ADL 食事	573 100.0%	21 3.7%	93 16.2%	454 79.2%	-	5 0.9%
ADL 車椅子からベッドへの移動	573 100.0%	20 3.5%	33 5.8%	83 14.5%	409 71.4%	28 4.9%
ADL 整容	573 100.0%	135 23.6%	433 75.6%	-	-	5 0.9%
ADL トイレ動作	573 100.0%	37 6.5%	121 21.1%	409 71.4%	-	6 1.0%
ADL 入浴	573 100.0%	303 52.9%	262 45.7%	-	-	8 1.4%
ADL 歩行	573 100.0%	70 12.2%	71 12.4%	204 35.6%	221 38.6%	7 1.2%
ADL 階段昇降	573 100.0%	130 22.7%	230 40.1%	208 36.3%	-	5 0.9%
ADL 着替え	573 100.0%	53 9.2%	156 27.2%	358 62.5%	-	6 1.0%
ADL 排便コントロール	573 100.0%	41 7.2%	118 20.6%	407 71.0%	-	7 1.2%
ADL 排尿コントロール	573 100.0%	36 6.3%	142 24.8%	388 67.7%	-	7 1.2%

Barthel Index	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
総計(欠損除く)	537	611	1148
	57	52	109
	59	65	124
	116	140	256
85以上	305	354	659

2.H29年9月「新規」	総計					
	0	5	10	15	無回答	
ADL 食事	663 100.0%	17 2.6%	87 13.1%	556 83.9%	-	3 0.5%
ADL 車椅子からベッドへの移動	663 100.0%	13 2.0%	33 5.0%	103 15.5%	479 72.2%	35 5.3%
ADL 整容	663 100.0%	140 21.1%	517 78.0%	-	-	6 0.9%
ADL トイレ動作	663 100.0%	34 5.1%	141 21.3%	484 73.0%	-	4 0.6%
ADL 入浴	663 100.0%	319 48.1%	337 50.8%	-	-	7 1.1%
ADL 歩行	663 100.0%	77 11.6%	58 8.7%	251 37.9%	270 40.7%	7 1.1%
ADL 階段昇降	663 100.0%	128 19.3%	252 38.0%	276 41.6%	-	7 1.1%
ADL 着替え	663 100.0%	43 6.5%	198 29.9%	419 63.2%	-	3 0.5%
ADL 排便コントロール	663 100.0%	46 6.9%	118 17.8%	491 74.1%	-	8 1.2%
ADL 排尿コントロール	663 100.0%	49 7.4%	128 19.3%	479 72.2%	-	7 1.1%

Barthel Index	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
構成比	100.0%	100.0%	100.0%
	10.6%	8.5%	9.5%
	11.0%	10.6%	10.8%
	21.6%	22.9%	22.3%
85以上	56.8%	57.9%	57.4%
平均	76.15	78.14	77.21
標準偏差	25.80	24.05	24.90

1.H29年3月「継続」	総計			
	0	1	2	無回答
意欲の指標 起床	573 100.0%	12 2.1%	119 20.8%	435 75.9%
意欲の指標 意思疎通	573 100.0%	9 1.6%	151 26.4%	407 71.0%
意欲の指標 食事	573 100.0%	6 1.0%	93 16.2%	467 81.5%
意欲の指標 排泄	573 100.0%	18 3.1%	74 12.9%	468 81.7%
意欲の指標 リハビリ活動	573 100.0%	52 9.1%	195 34.0%	309 53.9%
				17 3.0%

意欲の指標	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
総計(欠損除く)	553	646	1199
	57	53	110
	73	90	163
	165	205	370
	258	298	556

2.H29年9月「新規」	総計			
	0	1	2	無回答
意欲の指標 起床	663 100.0%	16 2.4%	133 20.1%	510 76.9%
意欲の指標 意思疎通	663 100.0%	7 1.1%	166 25.0%	485 73.2%
意欲の指標 食事	663 100.0%	4 0.6%	113 17.0%	542 81.7%
意欲の指標 排泄	663 100.0%	18 2.7%	69 10.4%	563 84.9%
意欲の指標 リハビリ活動	663 100.0%	77 11.6%	201 30.3%	369 55.7%
				16 2.4%

意欲の指標	(第1回の回答)利用開始月	
	「継続」	「新規」
構成比	100.0%	100.0%
	10.3%	8.2%
	13.2%	13.9%
	29.8%	31.7%
	46.7%	46.1%
平均	8.5	8.6
標準偏差	1.9	1.8

1.H29年3月「継続」	総計						
	利用状況 特殊譲台・特殊譲台 付属品	貸与なし	貸与あり			無回答	
			十分使っている	あまり使っていない	無回答		
	573 100.0%	307 53.6%	228 39.8%	214 37.3%	4 0.7%	10 1.7%	38 6.6%
利用状況 手すり	573 100.0%	221 38.6%	320 55.8%	303 52.9%	2 0.3%	15 2.6%	32 5.6%
利用状況 車いす・車いす付属品	573 100.0%	379 66.1%	145 25.3%	128 22.3%	10 1.7%	7 1.2%	49 8.6%
利用状況 歩行器	573 100.0%	318 55.5%	212 37.0%	194 33.9%	9 1.6%	9 1.6%	43 7.5%
利用状況 徘徊感知器	573 100.0%	503 87.8%	9 1.6%	5 0.9%	1 0.2%	3 0.5%	61 10.6%
利用状況 体位変換器	573 100.0%	510 89.0%	6 1.0%	4 0.7%	0 0.0%	2 0.3%	57 9.9%
利用状況 移動用リフト	573 100.0%	495 86.4%	18 3.1%	17 3.0%	0 0.0%	1 0.2%	60 10.5%
利用状況 スロープ	573 100.0%	453 79.1%	62 10.8%	59 10.3%	1 0.2%	2 0.3%	58 10.1%
利用状況 歩行補助つえ	573 100.0%	477 83.2%	39 6.8%	32 5.6%	5 0.9%	2 0.3%	57 9.9%
利用状況 排泄関連用具	573 100.0%	506 88.3%	9 1.6%	6 1.0%	1 0.2%	2 0.3%	58 10.1%
利用状況 床ずれ防止用具	573 100.0%	465 81.2%	52 9.1%	46 8.0%	0 0.0%	6 1.0%	56 9.8%

2.H29年9月「新規」	総計						
	利用状況 特殊譲台・特殊譲台 付属品	貸与なし	貸与あり			無回答	
			十分使っている	あまり使っていない	無回答		
	663 100.0%	382 57.6%	234 35.3%	216 32.6%	1 0.2%	17 2.6%	47 7.1%
利用状況 手すり	663 100.0%	258 38.9%	373 56.3%	343 51.7%	0 0.0%	30 4.5%	32 4.8%
利用状況 車いす・車いす付属品	663 100.0%	439 66.2%	174 26.2%	146 22.0%	11 1.7%	17 2.6%	50 7.5%
利用状況 歩行器	663 100.0%	385 58.1%	238 35.9%	213 32.1%	10 1.5%	15 2.3%	40 6.0%
利用状況 徘徊感知器	663 100.0%	594 89.6%	6 0.9%	4 0.6%	0 0.0%	2 0.3%	63 9.5%
利用状況 体位変換器	663 100.0%	596 89.9%	8 1.2%	7 1.1%	0 0.0%	1 0.2%	59 8.9%
利用状況 移動用リフト	663 100.0%	582 87.8%	17 2.6%	12 1.8%	0 0.0%	5 0.8%	64 9.7%
利用状況 スロープ	663 100.0%	536 80.8%	66 10.0%	56 8.4%	1 0.2%	9 1.4%	61 9.2%
利用状況 歩行補助つえ	663 100.0%	534 80.5%	66 10.0%	55 8.3%	1 0.2%	10 1.5%	63 9.5%
利用状況 排泄関連用具	663 100.0%	592 89.3%	8 1.2%	6 0.9%	0 0.0%	2 0.3%	63 9.5%
利用状況 床ずれ防止用具	663 100.0%	569 85.8%	35 5.3%	30 4.5%	0 0.0%	5 0.8%	59 8.9%

総計	今回訪問時の用具の交換			
	あり		なし	
	573	26	483	64
1.H29年3月「継続」	100.0%	4.5%	84.3%	11.2%
2.H29年9月「新規」	663	53	557	53
	100.0%	8.0%	84.0%	8.0%

総計	福祉用具の利用目標の変更に理由							
	有				無			
	達成	未達成	無回答	その他	達成	未達成	無回答	その他
1.H29年3月「継続」	573	492	54	19	6	26	3	27
	100.0%	85.9%	9.4%	3.3%	1.0%	4.5%	0.5%	4.7%
2.H29年9月「新規」	663	574	64	34	4	19	7	25
	100.0%	86.6%	9.7%	5.1%	0.6%	2.9%	1.1%	3.8%

総計	福祉用具の利用目標の変更に理由											
	有						無					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	無回答	無回答
1.H29年3月「継続」	573	492	54	1	1	8	2	5	6	5	17	27
	100.0%	85.9%	9.4%	0.2%	0.2%	1.4%	0.3%	0.9%	1.0%	0.9%	3.0%	4.7%
2.H29年9月「新規」	663	574	64	2	1	2	5	4	15	7	19	25
	100.0%	86.6%	9.7%	0.3%	0.2%	0.3%	0.8%	0.6%	2.3%	1.1%	2.9%	3.8%

総計	福祉用具の利用目標の変更に理由											
	有						無					
	達成	未達成	無回答	達成	未達成	無回答	達成	未達成	無回答	達成	未達成	無回答
1.H29年3月「継続」	573	492	256	0	236	54	49	0	5	17	0	10
	100.0%	85.9%	44.7%	0.0%	41.2%	9.4%	8.6%	0.0%	0.9%	3.0%	0.0%	1.7%
2.H29年9月「新規」	663	574	288	0	286	64	55	0	9	15	0	10
	100.0%	86.6%	43.4%	0.0%	43.1%	9.7%	8.3%	0.0%	1.4%	2.3%	0.0%	1.5%

	総計	日常生活の満足度 利用者本人の健康状態				
		1健康でない		2あまり健康でない		無回答
		45 7.9%	162 28.3%	275 48.0%	78 13.6%	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%					13 2.3%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	33 5.0%	196 29.6%	318 48.0%	108 16.3%	8 1.2%

	総計	日常生活の満足度 利用者本人の日常生活の満足				
		1満足している		2まあ満足している		無回答
		115 20.1%	347 60.6%	73 12.7%	18 3.1%	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%					20 3.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	137 20.7%	408 61.5%	87 13.1%	12 1.8%	19 2.9%

	総計	日常生活の満足度 利用者本人の生きがい				
		1十分感じている		2多少感じている		無回答
		137 23.9%	277 48.3%	135 23.6%	8 1.4%	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%					16 2.8%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	133 20.1%	355 53.5%	151 22.8%	12 1.8%	12 1.8%

	総計	ここまでの項目の主な回答者			
		1利用者本人	2主たる介護者	3利用者本人と主たる介護者	4その他
		363 63.4%	158 27.6%	23 4.0%	4 0.7%
1.H29年3月「継続」	573 100.0%				25 4.4%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	429 64.7%	170 25.6%	41 6.2%	1 0.2%

総計						
	主たる介護者の生活への満足度 健康状態					
	1健康でない	2あまり健康でない	3まあまあ健康である	4健康である	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	15 2.6%	90 15.7%	199 34.7%	91 15.9%	178 31.1%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	17 2.6%	110 16.6%	238 35.9%	111 16.7%	187 28.2%

	総計					
	主たる介護者の生活への満足度 日常生活全般の満足感					
	1満足している	2まあ満足している	3やや不満である	4不満である	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	87 15.2%	253 44.2%	48 8.4%	5 0.9%	180 31.4%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	100 15.1%	313 47.2%	50 7.5%	8 1.2%	192 29.0%

総計	主たる介護者の生活への満足度 生きがい							
		2多少感じている		3あまり感じている		4まったく感じている		無回答
		1十分感じている						
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	99 17.3%	227 39.6%	64 11.2%	4 0.7%		179 31.2%	
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	108 16.3%	289 43.6%	65 9.8%	11 1.7%		190 28.7%	

総計	主たる介護者への聞き取り方法					
	1 訪問時対面 で		2 別日に電話 で	3 主たる介護 者本人が記入	4 その他 思わない	無回答
1. H29年3月「継続」	573 100.0%	337 58.8%	21 3.7%	20 3.5%	4 0.7%	191 33.3%
2. H29年9月「新規」	663 100.0%	399 60.2%	40 6.0%	21 3.2%	2 0.3%	201 30.3%

総計		介護者の負担感			
		1 非常に思う	2 少し思う	3 あまりそう思わない	4 全くそう思わない
1. H29年3月「継続」					
世話はいいた重荷ではない	573 100.0%	94 16.4%	144 25.1%	116 20.2%	39 6.8%
自分の自由な時間が持てなくて困る	573 100.0%	24 4.2%	131 22.9%	148 25.8%	90 15.7%
世話の苦労があっても、前向きに考えていこうと思う	573 100.0%	179 31.2%	175 30.5%	29 5.1%	10 1.7%
世話で家事や子育てなどに手が回らなくて困る	573 100.0%	12 2.1%	89 15.5%	151 26.4%	140 24.4%
介護サービスの利用は、親族や近所に気兼ねがある	573 100.0%	9 1.6%	43 7.5%	149 26.0%	190 33.2%
世話で精神的にはもう精いっぱいである	573 100.0%	15 2.6%	74 12.9%	159 27.7%	145 25.3%
自分が最期までみてあげたいと思う	573 100.0%	242 42.2%	112 19.5%	21 3.7%	16 2.8%
世話をしていると自分の健康のことか心配になる	573 100.0%	51 8.9%	186 32.5%	99 17.3%	57 9.9%
世話のために経済的負担が大きくなる	573 100.0%	18 3.1%	71 12.4%	177 30.9%	126 22.0%
世話のことで家族・親族と意見があわなくて困る	573 100.0%	5 0.9%	41 7.2%	159 27.7%	188 32.8%
世話のために夜眠れなくて困る	573 100.0%	12 2.1%	66 11.5%	152 26.5%	161 28.1%
本人の希望や反応が言葉で確認できなくて困る	573 100.0%	13 2.3%	71 12.4%	112 19.5%	195 34.0%

介護者の負担	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
総計(欠損除く)	384	458	842
	20以下	132	148
	21～25	123	148
	26～30	90	119
31以上	39	43	82

総計		介護者の負担感			
		1 非常に思う	2 少し思う	3 あまりそう思わない	4 全くそう思わない
2. H29年9月「新規」					
世話はいいた重荷ではない	663 100.0%	104 15.7%	200 30.2%	124 18.7%	44 6.6%
自分の自由な時間が持てなくて困る	663 100.0%	22 3.3%	171 25.8%	180 27.1%	100 15.1%
世話の苦労があっても、前向きに考えていこうと思う	663 100.0%	181 27.3%	225 33.9%	52 7.8%	14 2.1%
世話で家事や子育てなどに手が回らなくて困る	663 100.0%	17 2.6%	90 13.6%	188 28.4%	177 26.7%
介護サービスの利用は、親族や近所に気兼ねがある	663 100.0%	11 1.7%	60 9.0%	183 27.6%	217 32.7%
世話で精神的にはもう精いっぱいである	663 100.0%	22 3.3%	87 13.1%	202 30.5%	161 24.3%
自分が最期までみてあげたいと思う	663 100.0%	286 43.1%	138 20.8%	29 4.4%	17 2.6%
世話をしていると自分の健康のことか心配になる	663 100.0%	65 9.8%	196 29.6%	134 20.2%	74 11.2%
世話のために経済的負担が大きくなる	663 100.0%	15 2.3%	93 14.0%	224 33.8%	141 21.3%
世話のことで家族・親族と意見があわなくて困る	663 100.0%	4 0.6%	47 7.1%	204 30.8%	218 32.9%
世話のために夜眠れなくて困る	663 100.0%	11 1.7%	73 11.0%	207 31.2%	183 27.6%
本人の希望や反応が言葉で確認できなくて困る	663 100.0%	15 2.3%	60 9.0%	164 24.7%	234 35.3%

介護者の負担	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
構成比	100.0%	100.0%	100.0%
	34.4%	32.3%	33.3%
	32.0%	32.3%	32.2%
	23.4%	26.0%	24.8%
85以上	10.2%	9.4%	9.7%
平均	22.8	23.0	22.9
標準偏差	5.8	5.7	5.8

生活空間レベル1 自宅で寝ている場所以外の部屋

	総計	4週間で生活空間レベル1に行ったか		
		1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	537 93.7%	22 3.8%	14 2.4%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	611 92.2%	32 4.8%	20 3.0%

生活空間レベル1 自宅で寝ている場所以外の部屋に行った

	総計	何回行ったか			
		1 週1回未満	2 週1～3回	3 週4～6回	4 毎日
1.H29年3月「継続」	537 100.0%	13 2.4%	62 11.5%	50 9.3%	411 76.5%
2.H29年9月「新規」	611 100.0%	15 2.5%	56 9.2%	40 6.5%	500 81.8%
					1 0.2%
					0 0.0%

生活空間レベル1 自宅で寝ている場所以外の部屋に行った

	総計	移動するために補助用具・特別な器具を使用した		
		1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	537 100.0%	283 52.7%	252 46.9%	2 0.4%
2.H29年9月「新規」	611 100.0%	304 49.8%	302 49.4%	5 0.8%

生活空間レベル1 自宅で寝ている場所以外の部屋に行った

	総計	他者の助けが必要だった		
		1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	537 100.0%	165 30.7%	364 67.8%	8 1.5%
2.H29年9月「新規」	611 100.0%	158 25.9%	443 72.5%	10 1.6%

生活空間レベル2 玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外

	総計	4週間で生活空間レベル2に行ったか		
		1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	503 87.8%	47 8.2%	23 4.0%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	583 87.9%	53 8.0%	27 4.1%

生活空間レベル2 玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に行った

	総計	何回行ったか			
		1 週1回未満	2 週1～3回	3 週4～6回	4 毎日
1.H29年3月「継続」	503 100.0%	39 7.8%	191 38.0%	108 21.5%	164 32.6%
2.H29年9月「新規」	583 100.0%	45 7.7%	236 40.5%	114 19.6%	188 32.2%
					0 0.0%

生活空間レベル2 玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に行った

	総計	移動するために補助用具・特別な器具を使用した		
		1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	503 100.0%	319 63.4%	180 35.8%	4 0.8%
2.H29年9月「新規」	583 100.0%	356 61.1%	225 38.6%	2 0.3%

生活空間レベル2 玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に行った

	総計	他者の助けが必要だった		
		1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	503 100.0%	223 44.3%	271 53.9%	9 1.8%
2.H29年9月「新規」	583 100.0%	236 40.5%	341 58.5%	6 1.0%

生活空間レベル3 自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所

	4週間で生活空間レベル3に行ったか		
	1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	474 82.7%	78 13.6%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	538 81.1%	98 14.8%

生活空間レベル3 自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に出出した

	何回行ったか			
	1 週1回未満	2 週1～3回	3 週4～6回	4 毎日
1.H29年3月「継続」	474 100.0%	59 12.4%	267 56.3%	95 20.0%
2.H29年9月「新規」	538 100.0%	88 16.4%	279 51.9%	108 20.1%

生活空間レベル3 自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に出出した

	移動するために補助用具・特別な器具を使用した		
	1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	474 100.0%	335 70.7%	138 29.1%
2.H29年9月「新規」	538 100.0%	384 71.4%	151 28.1%

生活空間レベル3 自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に出出した

	他者の助けが必要だった		
	1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	474 100.0%	260 54.9%	210 44.3%
2.H29年9月「新規」	538 100.0%	282 52.4%	251 46.7%

生活空間レベル4 近隣よりも離れた場所（ただし町内）

	4週間で生活空間レベル4に行ったか		
	1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	397 69.3%	161 28.1%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	445 67.1%	194 29.3%

生活空間レベル4 近隣よりも離れた場所（ただし町内）に出出した

	何回行ったか			
	1 週1回未満	2 週1～3回	3 週4～6回	4 毎日
1.H29年3月「継続」	397 100.0%	110 27.7%	212 53.4%	56 14.1%
2.H29年9月「新規」	445 100.0%	119 26.7%	260 58.4%	53 11.9%

生活空間レベル4 近隣よりも離れた場所（ただし町内）に出出した

	移動するために補助用具・特別な器具を使用した		
	1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	397 100.0%	293 73.8%	102 25.7%
2.H29年9月「新規」	445 100.0%	322 72.4%	121 27.2%

生活空間レベル4 近隣よりも離れた場所（ただし町内）に出出した

	他者の助けが必要だった		
	1 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	397 100.0%	252 63.5%	139 35.0%
2.H29年9月「新規」	445 100.0%	259 58.2%	185 41.6%

生活空間レベル5 町外

総計		4週間生活空間レベル5に行ったか			
		1 はい		2 いいえ	
		1 はい	2 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	272 47.5%	281 49.0%	20 3.5%	
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	302 45.6%	334 50.4%	27 4.1%	

生活空間レベル5 町外に外出した

総計		何回行ったか				
		1 週1回未満	2 週1～3回	3 週4～6回	4 毎日	無回答
		1 週1回未満	2 週1～3回	3 週4～6回	4 毎日	無回答
1.H29年3月「継続」	272 100.0%	130 47.8%	107 39.3%	28 10.3%	6 2.2%	1 0.4%
2.H29年9月「新規」	302 100.0%	152 50.3%	125 41.4%	21 7.0%	4 1.3%	0 0.0%

生活空間レベル5 町外に外出した

総計		移動するために補助用具・特別な器具を使用した			
		1 はい		2 いいえ	
		1 はい	2 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	272 100.0%	201 73.9%	70 25.7%	1 0.4%	
2.H29年9月「新規」	302 100.0%	221 73.2%	78 25.8%	3 1.0%	

生活空間レベル5 町外に外出した

総計		他者の助けが必要だった			
		1 はい		2 いいえ	
		1 はい	2 はい	2 いいえ	無回答
1.H29年3月「継続」	272 100.0%	191 70.2%	79 29.0%	2 0.7%	
2.H29年9月「新規」	302 100.0%	181 59.9%	118 39.1%	3 1.0%	

E-SAS 「生活の広がり」	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
	「継続」	「新規」	総計
総計(欠損除く)	278	325	603
20以下	28	44	72
21～25	24	27	51
26～30	36	34	70
31以上	190	220	410

E-SAS「生活の広がり」	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
	「継続」	「新規」	総計
構成比	100.0%	100.0%	100.0%
20以下	10.1%	13.5%	11.9%
21～25	8.6%	8.3%	8.5%
26～30	12.9%	10.5%	11.6%
31以上	68.3%	67.7%	68.0%
平均	41.3	41.4	41.3
標準偏差	19.4	20.9	20.2

総計		E-SAS「継続」				E-SAS「こぼさない自信」			
		1 全く自信がない	2 あまり自信がない	3 まあ自信がある	4 大変自信がある	無回答	1 全く自信がない	2 あまり自信がない	3 まあ自信がある
1. H29年3月「継続」									
服を着たり脱いだりする	573 100.0%	64 11.2%	147 25.7%	242 42.2%	106 18.5%	14 2.4%			
簡単な食事を用意する	573 100.0%	189 33.0%	128 22.3%	165 28.8%	76 13.3%	15 2.6%			
お風呂に入る	573 100.0%	149 26.0%	187 32.6%	170 29.7%	54 9.4%	13 2.3%			
椅子から立ちたり座ったりする	573 100.0%	51 8.9%	144 25.1%	272 47.5%	92 16.1%	14 2.4%			
布団に入ったり布団から起き上がる	573 100.0%	52 9.1%	113 19.7%	291 50.8%	101 17.6%	16 2.8%			
玄関のチャイムや電話に応答する	573 100.0%	159 27.7%	146 25.5%	182 31.8%	68 11.9%	18 3.1%			
家の周りを歩く	573 100.0%	166 29.0%	186 32.5%	170 29.7%	37 6.5%	14 2.4%			
洋服ダンスや引き出しのものを取る	573 100.0%	98 17.1%	152 26.5%	227 39.6%	82 14.3%	14 2.4%			
ちよとした家事（掃除など）をすませる	573 100.0%	184 32.1%	196 34.2%	135 23.6%	43 7.5%	15 2.6%			
簡単な買い物をする	573 100.0%	246 42.9%	166 29.0%	111 19.4%	34 5.9%	16 2.8%			

E-SAS 「こぼさない自信」 総計(欠損除く)	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
20以下	545	626	1171
21～25	199	205	404
26～30	115	138	253
31以上	152	170	322
	79	113	192

総計	2. H29年9月「新規」	E-SAS「継続」				E-SAS「こぼさない自信」			
		1 全く自信がない	2 あまり自信がない	3 まあ自信がある	4 大変自信がある	無回答	1 全く自信がない	2 あまり自信がない	3 まあ自信がある
	服を着たり脱いだりする	663 100.0%	57 8.6%	181 27.3%	264 39.8%	143 21.6%			18 2.7%
	簡単な食事を用意する	663 100.0%	194 29.3%	156 23.5%	189 28.5%	104 15.7%			20 3.0%
	お風呂に入る	663 100.0%	145 21.9%	224 33.8%	197 29.7%	78 11.8%			19 2.9%
	椅子から立ちたり座ったりする	663 100.0%	44 6.6%	188 28.4%	287 43.3%	124 18.7%			20 3.0%
	布団に入ったり布団から起き上がる	663 100.0%	46 6.9%	164 24.7%	305 46.0%	124 18.7%			24 3.6%
	玄関のチャイムや電話に応答する	663 100.0%	161 24.3%	186 28.1%	180 27.1%	117 17.6%			19 2.9%
	家の周りを歩く	663 100.0%	176 26.5%	217 32.7%	191 28.8%	56 8.4%			23 3.5%
	洋服ダンスや引き出しのものを取る	663 100.0%	111 16.7%	159 24.0%	264 39.8%	108 16.3%			21 3.2%
	ちよとした家事（掃除など）をすませる	663 100.0%	186 28.1%	229 34.5%	155 23.4%	65 9.8%			28 4.2%
	簡単な買い物をする	663 100.0%	253 38.2%	187 28.2%	157 23.7%	44 6.6%			22 3.3%

E-SAS「こぼさない自信」	(第1回の回答)利用開始月	
	「継続」	「新規」
構成比	100.0%	100.0%
20以下	36.5%	32.7%
21～25	21.1%	22.0%
26～30	27.9%	27.2%
31以上	14.5%	18.1%
平均	23.5	24.2
標準偏差	7.3	7.6

総計		自宅での入浴動作				
		1人でしている	2見守りが必要	3介助が必要	無回答	
1.H29年3月「継続」	着替え	573 100.0%	336 58.6%	91 15.9%	133 23.2%	13 2.3%
	浴室への移動	573 100.0%	293 51.1%	114 19.9%	152 26.5%	14 2.4%
	体を洗う	573 100.0%	265 46.2%	95 16.6%	196 34.2%	17 3.0%
	洗髪	573 100.0%	268 46.8%	99 17.3%	189 33.0%	17 3.0%
	浴槽への出入り	573 100.0%	221 38.6%	94 16.4%	239 41.7%	19 3.3%

E-SAS 「自宅での入浴動作」 総計(欠損除く)	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
0～2	546	633	1179
3～5	155	148	303
6～8	92	101	193
9以上	86	97	183
	213	287	500

総計	2.H29年9月「新規」	自宅での入浴動作				
		1人でしている	2見守りが必要	3介助が必要	無回答	
	着替え	663 100.0%	427 64.4%	89 13.4%	126 19.0%	21 3.2%
	浴室への移動	663 100.0%	371 56.0%	128 19.3%	145 21.9%	19 2.9%
	体を洗う	663 100.0%	333 50.2%	111 16.7%	198 29.9%	21 3.2%
	洗髪	663 100.0%	350 52.8%	102 15.4%	191 28.8%	20 3.0%
	浴槽への出入り	663 100.0%	287 43.3%	115 17.3%	235 35.4%	26 3.9%

E-SAS「自宅での入浴動作」	(第1回の回答)利用開始月		
	「継続」	「新規」	総計
構成比	100.0%	100.0%	100.0%
	28.4%	23.4%	25.7%
	16.8%	16.0%	16.4%
	15.8%	15.3%	15.5%
	39.0%	45.3%	42.4%
平均	5.8	6.4	6.1
標準偏差	3.9	3.8	3.9

総計	休まず歩ける距離				
	1.10m未満	2.10m～50m未満	3.50m～100m未満	4.100m～500m未満	5.500m～1km未満
1.H29年3月「継続」	573	157	193	81	27
	100.0%	27.4%	33.7%	14.1%	4.7%
2.H29年9月「新規」	663	162	238	95	45
	100.0%	24.4%	35.9%	14.3%	6.8%

E-SAS 「休まず歩ける距離」	(第1回の回答)利用開始月	
	「継続」	「新規」
総計(欠損除く)	554	643
	431	495
	123	148

総計	人のつながり				
	0.0人	1.1人	2.2人	3.3～4人	5.9人以上
1.H29年3月「継続」	573	98	124	133	19
	100.0%	17.1%	21.6%	23.2%	3.3%
2.H29年9月「新規」	663	194	84	106	21
	100.0%	29.3%	12.7%	16.0%	3.2%
あななが個人的なことで、気兼ねが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	573	105	138	147	11
	100.0%	18.3%	24.1%	25.7%	1.9%
あななが個人的なことで、気兼ねが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	573	172	109	110	14
	100.0%	30.0%	19.0%	19.2%	2.4%
あななが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	573	101	135	157	8
	100.0%	17.6%	23.6%	27.4%	1.4%
あななが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	573	211	101	114	8
	100.0%	36.8%	17.6%	19.9%	1.4%

E-SAS 「人のつながり」	(第1回の回答)利用開始月	
	「継続」	「新規」
総計(欠損除く)	543	638
	121	132
	161	206
	132	165
15以上	129	135

E-SAS「休まず歩ける距離」	(第1回の回答)利用開始月	
	「継続」	「新規」
構成比	100.0%	100.0%
	77.8%	77.0%
	22.2%	23.0%
平均	2.4	2.5
標準偏差	1.3	1.4

総計	人のつながり				
	0.0人	1.1人	2.2人	3.3～4人	5.9人以上
2.H29年9月「新規」	663	102	150	187	39
	100.0%	15.4%	22.6%	28.2%	5.9%
あななが個人的なことで、気兼ねが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	663	214	113	155	26
	100.0%	32.3%	17.0%	23.4%	3.9%
あななが個人的なことで、気兼ねが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	663	100	173	202	6
	100.0%	15.1%	26.1%	30.5%	0.9%
あななが個人的なことで、気兼ねが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	663	189	126	160	9
	100.0%	28.5%	19.0%	24.1%	1.4%
あななが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	663	108	166	203	7
	100.0%	16.3%	25.0%	30.6%	1.1%
あななが手助けを求めていることか、できる友人は人々からいますか	663	241	133	138	7
	100.0%	36.3%	20.1%	20.8%	1.1%

E-SAS「人のつながり」	(第1回の回答)利用開始月	
	「継続」	「新規」
構成比	100.0%	100.0%
	22.3%	21.4%
	29.7%	31.1%
	24.3%	25.1%
15以上	23.8%	22.4%
平均	9.8	9.8
標準偏差	6.2	6.0

総計	利用状況 特殊選台・特殊選台付属品					
	貸与なし	貸与あり	貸与あり			無回答
			介助者有	介助者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573	307	228	111	106	38
	100.0%	53.6%	39.8%	19.4%	18.5%	6.6%
2.H29年9月「新規」	663	382	234	115	112	47
	100.0%	57.6%	35.3%	17.3%	16.9%	7.1%

総計	特殊選台・特殊選台付属品 操作の慣れ (平成30年1月比)					
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらぬ	4.慣れていない	無回答	
1.H29年3月「継続」	228	151	26	38	0	13
	100.0%	66.2%	11.4%	16.7%	0.0%	5.7%
2.H29年9月「新規」	234	156	35	30	1	12
	100.0%	66.7%	15.0%	12.8%	0.4%	5.1%

総計	利用状況 手すり					
	貸与なし	貸与あり	貸与あり			無回答
			介助者有	介助者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573	221	320	79	223	32
	100.0%	38.6%	55.8%	13.8%	38.9%	5.6%
2.H29年9月「新規」	663	258	373	90	261	32
	100.0%	38.9%	56.3%	13.6%	39.4%	4.8%

総計	手すり 操作の慣れ (平成30年1月比)			
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらぬ	4.慣れていない
1.H29年3月「継続」	320	241	14	47
	100.0%	75.3%	4.4%	14.7%
2.H29年9月「新規」	373	284	19	46
	100.0%	76.1%	5.1%	12.3%

総計	利用状況 特殊選台・特殊選台付属品における支援の内容 (複数回答)					
	起き上がり支援	移乗支援	立ち上がり支援	褥瘡予防	姿勢の保持 (食事等)	その他
1.H29年3月「継続」	228	200	86	163	38	3
	100.0%	87.7%	37.7%	71.5%	16.7%	1.3%
2.H29年9月「新規」	234	204	84	160	26	0
	100.0%	87.2%	35.9%	68.4%	11.1%	0.0%

総計	特殊選台・特殊選台付属品 利用頻度 (平成30年1月比)					
	1.増えた	2.やや増えた	3.変化なし	4.やや減った	5.減った	無回答
1.H29年3月「継続」	228	26	24	163	0	14
	100.0%	11.4%	10.5%	71.5%	0.0%	6.1%
2.H29年9月「新規」	234	18	26	176	1	13
	100.0%	7.7%	11.1%	75.2%	0.4%	5.6%

総計	利用状況 手すりにおける支援の内容 (複数回答)			
	移動支援 (屋内)	立ち上がり支援	移乗支援	その他
1.H29年3月「継続」	320	170	195	42
	100.0%	53.1%	60.9%	13.1%
2.H29年9月「新規」	373	202	210	48
	100.0%			

総計	手すり 利用頻度 (平成30年1月比)				
	1.増えた	2.やや増えた	3.変化なし	4.やや減った	5.減った
1.H29年3月「継続」	320	46	18	235	1
	100.0%	14.4%	5.6%	73.4%	0.3%
2.H29年9月「新規」	373	53	26	263	2
	100.0%	14.2%	7.0%	70.5%	0.5%

総計	利用状況 車いす・車いす付属品				
	貸与なし	貸与あり	利用状況 車いす・車いす付属品		
			介助者有	介助者無	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	379 66.1%	145 25.3%	31 5.4%	6 1.0%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	439 66.2%	174 26.2%	34 5.1%	18 2.7%

総計	車いす・車いす付属品 操作の慣れ (平成30年1月比)			
	1.慣れた	2.やや慣れた		4.慣れていない
		3.変わらぬ	4.慣れていない	
1.H29年3月「継続」	145 100.0%	95 65.5%	16 11.0%	27 18.6%
2.H29年9月「新規」	174 100.0%	106 60.9%	24 13.8%	29 16.7%

総計	利用状況 歩行器				
	貸与なし	貸与あり	利用状況 歩行器		
			介助者有	介助者無	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	318 55.5%	212 37.0%	60 10.5%	146 25.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	385 58.1%	238 35.9%	72 10.9%	153 23.1%

総計	歩行器 操作の慣れ (平成30年1月比)			
	1.慣れた	2.やや慣れた		4.慣れていない
		3.変わらぬ	4.慣れていない	
1.H29年3月「継続」	212 100.0%	160 75.5%	17 8.0%	29 13.7%
2.H29年9月「新規」	238 100.0%	165 69.3%	31 13.0%	27 11.3%

総計	利用状況 車いす・車いす付属品における支援の内容			
	移動支援 (屋内)	移動支援 (屋外)	その他	
			移動支援	その他
1.H29年3月「継続」	145 100.0%	75 51.7%	118 81.4%	1 0.7%
2.H29年9月「新規」	174 100.0%	80 46.0%	138 79.3%	2 1.1%

総計	車いす・車いす付属品 利用頻度 (平成30年1月比)				
	1.増えた	2.やや増えた		5.減った	無回答
		3.変化なし	4.やや減った		
1.H29年3月「継続」	145 100.0%	24 16.6%	14 9.7%	97 66.9%	3 2.1%
2.H29年9月「新規」	174 100.0%	24 13.8%	18 10.3%	106 60.9%	7 4.0%

総計	利用状況 歩行器における支援の内容 (複数回答)			
	移動支援 (屋内)	移動支援 (屋外)	移乗支援	その他
1.H29年3月「継続」	212 100.0%	115 54.2%	122 57.5%	1 0.5%
2.H29年9月「新規」	238 100.0%	123 51.7%	134 56.3%	0 0.8%

総計	歩行器 利用頻度 (平成30年1月比)				
	1.増えた	2.やや増えた		5.減った	無回答
		3.変化なし	4.やや減った		
1.H29年3月「継続」	212 100.0%	28 13.2%	17 8.0%	153 72.2%	4 1.9%
2.H29年9月「新規」	238 100.0%	47 19.7%	38 16.0%	124 52.1%	11 4.6%

総計	利用状況 徘徊感知器					
	貸与なし	貸与あり	介助者有			無回答
			介助者有	介助者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	503 88%	9 2%	7 1%	0 0%	2 11%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	594 89.6%	6 0.9%	2 0.3%	2 0.3%	63 9.5%

総計	徘徊感知器 操作の備れ (平成30年1月比)					
	1.備れた	2.やや備れた		3.変わらぬ		無回答
		1	1	4	1	
1.H29年3月「継続」	900.0%	11.1%	11.1%	44.4%	11.1%	22.2%
2.H29年9月「新規」	6 100.0%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%

総計	利用状況 体位変換器					
	貸与なし	貸与あり	介助者有			無回答
			介助者有	介助者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	510 89.0%	6 1.0%	4 0.7%	0 0.0%	2 0.3%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	596 89.9%	8 1.2%	5 0.8%	1 0.2%	2 0.3%

総計	体位変換器 操作の備れ (平成30年1月比)					
	1.備れた	2.やや備れた		3.変わらぬ		無回答
		3	0	1	0	
1.H29年3月「継続」	6 100.0%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	2 33.3%
2.H29年9月「新規」	8 100.0%	4 50.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%

総計	利用状況 徘徊感知器における支援の内容 (複 数回答)					
	見守り支援 (昼)	見守り支援 (夜間)	その他			無回答
			見守り支援 (昼)	見守り支援 (夜間)	その他	
1.H29年3月「継続」	9 100.0%	2 22%	7 78%	0 0%	0 0%	2 22.2%
2.H29年9月「新規」	6 100.0%	3 50.0%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%

総計	徘徊感知器 利用頻度 (平成30年1月比)					
	1.増えた	2.やや増えた		3.変化なし		無回答
		2	1	3	0	
1.H29年3月「継続」	9 100.0%	22.2%	11.1%	33.3%	0.0%	22.2%
2.H29年9月「新規」	6 100.0%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%

総計	利用状況 体位変換器における支援の内容 (複数回答)					
	荷重予防 (就寝時)	荷重予防 (終日)	姿勢の保持			その他
			荷重予防 (就寝時)	荷重予防 (終日)	姿勢の保持	
1.H29年3月「継続」	6 100.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%
2.H29年9月「新規」	8 100.0%	2 25.0%	3 37.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%

総計	体位変換器 利用頻度 (平成30年1月比)					
	1.増えた	2.やや増えた		3.変化なし		無回答
		1	0	3	0	
1.H29年3月「継続」	6 100.0%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	2 33.3%
2.H29年9月「新規」	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%	1 12.5%	2 25.0%

総計	利用状況 移動用ソフト					
	貸与なし	貸与あり	紹介者有			無回答
			2.貸与あり	3.貸与なし	4.貸与なし	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	495 86.4%	18 3.1%	14 2.4%	3 0.5%	60 10.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	582 87.8%	17 2.6%	7 1.1%	3 0.5%	64 9.7%

総計	移動用ソフト 操作の慣れ (平成30年1月比)					
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらぬ	4.慣れていない	無回答	
					5.減った	6.増えた
1.H29年3月「継続」	18 100.0%	9 50.0%	2 11.1%	6 33.3%	0 0.0%	1 5.6%
2.H29年9月「新規」	17 100.0%	8 47.1%	0 0.0%	2 11.8%	0 0.0%	7 41.2%

総計	利用状況 スロープ					
	貸与なし	貸与あり	紹介者有			無回答
			2.貸与あり	3.貸与なし	4.貸与なし	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	453 79.1%	62 10.8%	37 6.5%	14 2.4%	11 1.9%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	536 80.8%	66 10.0%	39 5.9%	18 2.7%	9 1.4%

総計	スロープ 操作の慣れ (平成30年1月比)					
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらぬ	4.慣れていない	無回答	
					5.減った	6.増えた
1.H29年3月「継続」	62 100.0%	30 48.4%	4 6.5%	17 27.4%	0 0.0%	11 17.7%
2.H29年9月「新規」	66 100.0%	41 62.1%	4 6.1%	12 18.2%	0 0.0%	9 13.6%

総計	利用状況 移動用ソフトにおける支援の内容 (複数回答)					
	1.H29年3月「継続」	100.0%	18	移動用ソフトへの移動支援		
				2.貸与あり	3.貸与なし	4.貸与なし
2.H29年9月「新規」	3 100.0%	17 100.0%	7 41.2%	5 29.4%	0 0.0%	1 5.6%

総計	移動用ソフト 利用頻度 (平成30年1月比)					
	1.H29年3月「継続」	100.0%	18	移動用ソフト 利用頻度		
				2.貸与あり	3.貸与なし	4.貸与なし
2.H29年9月「新規」	7 100.0%	17 100.0%	3 17.6%	2 11.8%	0 0.0%	2 11.8%

総計	利用状況 スロープにおける支援の内容 (複数回答)					
	1.H29年3月「継続」	100.0%	62	スロープにおける支援の内容		
				2.貸与あり	3.貸与なし	4.貸与なし
2.H29年9月「新規」	1 100.0%	66 100.0%	37 56.1%	22 33.3%	1 1.5%	1 1.5%

総計	スロープ 利用頻度 (平成30年1月比)					
	1.H29年3月「継続」	100.0%	62	スロープ 利用頻度		
				2.貸与あり	3.貸与なし	4.貸与なし
2.H29年9月「新規」	12 19.4%	66 100.0%	44 66.7%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%

総計	利用状況 歩行補助つえ					
	貸与なし	貸与あり	介助者有			無回答
			介助者有	介助者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	477 83.2%	39 6.8%	10 1.7%	22 3.8%	7 1.2%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	534 80.5%	66 10.0%	19 2.9%	33 5.0%	14 2.1%

総計	歩行補助つえ 操作の慣れ（平成30年1月比）					
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらぬ	4.慣れていない	無回答	
1.H29年3月「継続」	39 100.0%	22 56.4%	2 5.1%	9 23.1%	0 0.0%	6 15.4%
2.H29年9月「新規」	66 100.0%	38 57.6%	7 10.6%	6 9.1%	0 0.0%	15 22.7%

総計	利用状況 排泄関連用具					
	貸与なし	貸与あり	介助者有			無回答
			介助者有	介助者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	506 88.3%	9 1.6%	4 0.7%	2 0.3%	3 0.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	592 89.3%	8 1.2%	5 0.8%	1 0.2%	2 0.3%

総計	排泄関連用具 操作の慣れ（平成30年1月比）				
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらぬ	4.慣れていない	無回答
1.H29年3月「継続」	9 100.0%	4 44.4%	1 11.1%	0 0.0%	3 33.3%
2.H29年9月「新規」	8 100.0%	5 62.5%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%

総計	利用状況 歩行補助つえにおける支援の内容（複数回答）				
	移動支援 (屋内)	移動支援 (屋外)	移乗支援	その他	
1.H29年3月「継続」	39 100.0%	26 66.7%	17 43.6%	0 0.0%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	66 100.0%	38 57.6%	26 39.4%	2 3.0%	1 1.5%

総計	歩行補助つえ 利用頻度（平成30年1月比）				
	1.増えた	2.やや増えた	3.変化なし	4.やや減った	5.減った
1.H29年3月「継続」	39 100.0%	4 10.3%	2 5.1%	26 66.7%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	66 100.0%	8 12.1%	5 7.6%	37 56.1%	1 1.5%

総計	利用状況 排泄関連用具における支援の内容（複数回答）			
	排泄の支援 (本人)	排泄の支援 (介助者)	その他	
1.H29年3月「継続」	9 100.0%	4 44.4%	2 22.2%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	8 100.0%	5 62.5%	2 25.0%	1 12.5%

総計	排泄関連用具 利用頻度（平成30年1月比）				
	1.増えた	2.やや増えた	3.変化なし	4.やや減った	5.減った
1.H29年3月「継続」	9 100.0%	0 0.0%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	0 0.0%

総計	利用状況 床ずれ防止用具					
	貸与なし	貸与あり	介護者有			無回答
			介護者有	介護者無	無回答	
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	465 81.2%	52 9.1%	32 2.3%	13 1.2%	7 9.8%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	569 85.8%	35 5.3%	22 3.3%	9 0.6%	4 8.9%

総計	床ずれ防止用具 操作の慣れ (平成30年1月比)					
	1.慣れた	2.やや慣れた	3.変わらない	4.慣れていない	無回答	
1.H29年3月「継続」	52 100.0%	27 51.9%	4 7.7%	14 26.9%	1 1.9%	6 11.5%
2.H29年9月「新規」	35 100.0%	18 51.4%	2 5.7%	11 31.4%	0 0.0%	4 11.4%

総計	前回調査以降の介護サース利用状況の変化			
	1.減った	2.特に変化なし	3.増えた	無回答
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	23 4.0%	446 77.8%	54 9.4%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	39 5.9%	499 75.3%	81 12.2%

総計	連携しているリハビリテーション専門職 (複数回答)			
	1.理学療法士	2.作業療法士	3.言語聴覚士	4.その他
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	102 17.8%	41 7.2%	3 0.5%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	144 21.7%	55 8.3%	2 0.3%

総計	リハビリテーション専門職との連携タミナミダ (複数回答)					
	1.アセスメント (再アセスメント) の際	2.用具の選定・搬入・設置の 児童の際	3.搬入・設置の 際	4.利用指導・ 適合調査の際	5.モニタリングの 際	6.サービス担当 者会議の際
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	30 5.2%	45 7.9%	11 1.9%	20 3.5%	38 6.6%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	27 4.1%	49 7.4%	10 1.5%	25 3.8%	36 5.4%

総計	利用状況 床ずれ防止用具における支援の内容 (複数回答)				
	褥瘡予防 (就寝時)	褥瘡予防 (終日)	その他		
1.H29年3月「継続」	52 100.0%	22 42.3%	27 51.9%	0 0.0%	
2.H29年9月「新規」	35 100.0%	16 45.7%	16 45.7%	1 2.9%	

総計	床ずれ防止用具 利用期間 (平成30年1月比)				
	1.増えた	2.やや増えた	3.変化なし	4.やや減った	5.減った
1.H29年3月「継続」	52 100.0%	10 19.2%	3 5.8%	32 61.5%	0 0.0%
2.H29年9月「新規」	35 100.0%	5 14.3%	1 2.9%	25 71.4%	0 0.0%

総計	介護負担の変化			
	1.介護時間 軽減	2.身体的負担 軽減	3.精神的負担 軽減	4.変化なし
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	32 5.6%	33 5.8%	16 2.8%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	38 5.7%	48 7.2%	17 2.6%

総計	連携しているリハビリテーション専門職の所属 (複数回答)			
	1.訪問介護	2.訪問リハビリ テーション	3.通所リハビリ テーション	4.病院
1.H29年3月「継続」	573 100.0%	48 8.4%	33 5.8%	81 14.1%
2.H29年9月「新規」	663 100.0%	45 6.8%	34 5.1%	112 16.9%

5.5.2 追跡調査 分析結果（参考）

(1) 基本情報

図表 5-25 麻痺

調査対象	対象数	なし	単麻痺	片麻痺	対麻痺	四肢麻痺	無回答
総数	946	740	27	111	8	11	49
	100%	78.2%	2.9%	11.7%	0.8%	1.2%	5.2%
改善	300	242	4	39	2	5	8
	100%	80.7%	1.3%	13.0%	0.7%	1.7%	2.7%
①新規85点以上	61	52	0	4	1	1	3
	100%	85.2%	0.0%	6.6%	1.6%	1.6%	4.9%
②継続85点以上	56	47	1	4	0	1	3
	100%	83.9%	1.8%	7.1%	0.0%	1.8%	5.4%
③新規80点以下	101	74	1	21	1	2	2
	100%	73.3%	1.0%	20.8%	1.0%	2.0%	2.0%
④継続80点以下	82	69	2	10	0	1	0
	100%	84.1%	2.4%	12.2%	0.0%	1.2%	0.0%
維持	298	234	11	30	4	2	17
	100%	78.5%	3.7%	10.1%	1.3%	0.7%	5.7%
悪化	348	264	12	42	2	4	24
	100%	75.9%	3.4%	12.1%	0.6%	1.1%	6.9%

(2) 他サービスの利用情報

図表 5-26 訪問入浴の利用の有無

調査対象	調査数	用訪 な問 し入 浴利	利用 問あ 入り 浴	無 回 答
総数	946	690	28	228
	100%	72.9%	3.0%	24.1%
改善	300	222	9	69
	100%	74.0%	3.0%	23.0%
①新規85点以上	61	49	0	12
	100%	80.3%	0.0%	19.7%
②継続85点以上	56	43	0	13
	100%	76.8%	0.0%	23.2%
③新規80点以下	101	76	6	19
	100%	75.2%	5.9%	18.8%
④継続80点以下	82	54	3	25
	100%	65.9%	3.7%	30.5%
維持	298	229	7	62
	100%	76.8%	2.3%	20.8%
悪化	348	239	12	97
	100%	68.7%	3.4%	27.9%

(3) 利用者の状況について

1) 利用目標におけるキーワード毎の目標達成度

図表 5-27 寝返り

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	282	230	50	2
	100%	81.6%	17.7%	0.7%
改善	98	85	13	0
	100%	86.7%	13.3%	0.0%
①新規85点以上	13	12	1	0
	100%	92.3%	7.7%	0.0%
②継続85点以上	11	11	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	39	32	7	0
	100%	82.1%	17.9%	0.0%
④継続80点以下	35	30	5	0
	100%	85.7%	14.3%	0.0%
維持	75	64	11	0
	100%	85.3%	14.7%	0.0%
悪化	109	81	26	2
	100%	74.3%	23.9%	1.8%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

図表 5-28 起き上がり

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	340	286	53	1
	100%	84.1%	15.6%	0.3%
改善	110	100	10	0
	100%	90.9%	9.1%	0.0%
①新規85点以上	17	16	1	0
	100%	94.1%	5.9%	0.0%
②継続85点以上	16	14	2	0
	100%	87.5%	12.5%	0.0%
③新規80点以下	42	39	3	0
	100%	92.9%	7.1%	0.0%
④継続80点以下	35	31	4	0
	100%	88.6%	11.4%	0.0%
維持	94	81	12	1
	100%	86.2%	12.8%	1.1%
悪化	136	105	31	0
	100%	77.2%	22.8%	0.0%

図表 5-29 座位

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	181	147	32	2
	100%	81.2%	17.7%	1.1%
改善	70	65	5	0
	100%	92.9%	7.1%	0.0%
①新規85点以上	10	10	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	9	9	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	29	26	3	0
	100%	89.7%	10.3%	0.0%
④継続80点以下	22	20	2	0
	100%	90.9%	9.1%	0.0%
維持	45	35	8	2
	100%	77.8%	17.8%	4.4%
悪化	66	47	19	0
	100%	71.2%	28.8%	0.0%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

図表 5-30 移動

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	132	96	29	7
	100%	72.7%	22.0%	5.3%
改善	32	26	4	2
	100%	81.3%	12.5%	6.3%
①新規85点以上	4	4	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	4	4	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	14	10	3	1
	100%	71.4%	21.4%	7.1%
④継続80点以下	10	8	1	1
	100%	80.0%	10.0%	10.0%
維持	37	26	8	3
	100%	70.3%	21.6%	8.1%
悪化	63	44	17	2
	100%	69.8%	27.0%	3.2%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

図表 5-31 排泄

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	161	113	44	4
	100%	70.2%	27.3%	2.5%
改善	60	47	13	0
	100%	78.3%	21.7%	0.0%
	①新規85点以上	8	8	0
		100%	100.0%	0.0%
	②継続85点以上	5	5	0
		100%	100.0%	0.0%
	③新規80点以下	25	18	7
		100%	72.0%	28.0%
	④継続80点以下	22	16	6
		100%	72.7%	27.3%
維持	44	32	11	1
	100%	72.7%	25.0%	2.3%
悪化	57	34	20	3
	100%	59.6%	35.1%	5.3%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

図表 5-32 入浴

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	132	80	40	12
	100%	60.6%	30.3%	9.1%
改善	49	27	18	4
	100%	55.1%	36.7%	8.2%
	①新規85点以上	8	6	1
		100%	75.0%	12.5%
	②継続85点以上	5	4	1
		100%	80.0%	20.0%
	③新規80点以下	20	7	11
		100%	35.0%	55.0%
	④継続80点以下	16	10	5
		100%	62.5%	31.3%
維持	33	22	8	3
	100%	66.7%	24.2%	9.1%
悪化	50	31	14	5
	100%	62.0%	28.0%	10.0%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

図表 5-33 食事

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	126	90	33	3
	100%	71.4%	26.2%	2.4%
改善	48	36	12	0
	100%	75.0%	25.0%	0.0%
	①新規85点以上	7	7	0
		100%	100.0%	0.0%
	②継続85点以上	5	4	1
		100%	80.0%	20.0%
	③新規80点以下	20	14	6
		100%	70.0%	30.0%
維持	④継続80点以下	16	11	5
		100%	68.8%	31.3%
	32	24	8	0
	100%	75.0%	25.0%	0.0%
悪化	47	30	14	3
	100%	63.8%	29.8%	6.4%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

図表 5-34 更衣

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	116	67	43	6
	100%	57.8%	37.1%	5.2%
改善	46	29	16	1
	100%	63.0%	34.8%	2.2%
	①新規85点以上	7	7	0
		100%	100.0%	0.0%
	②継続85点以上	4	4	0
		100%	100.0%	0.0%
	③新規80点以下	20	8	11
		100%	40.0%	55.0%
維持	④継続80点以下	15	10	5
		100%	66.7%	33.3%
	31	19	10	2
	100%	61.3%	32.3%	6.5%
悪化	39	19	17	3
	100%	48.7%	43.6%	7.7%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

(4) 利用者ご本人の生活への満足度

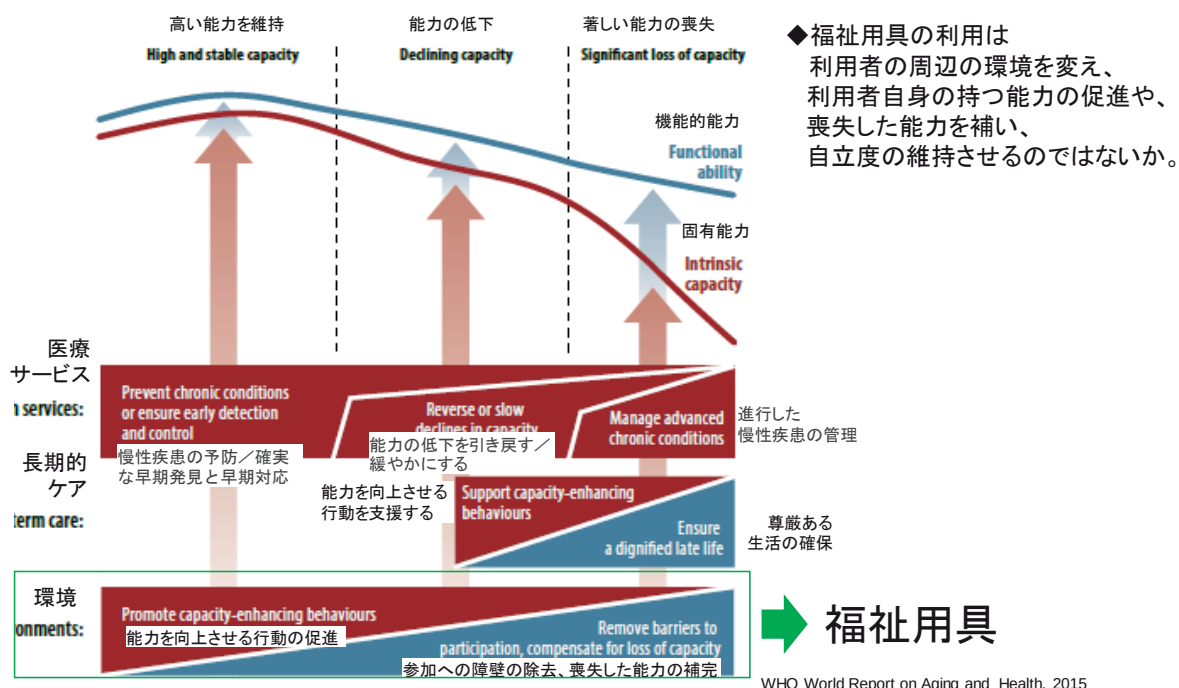
図表 5-35 あなた（利用者ご本人）は現在、どの程度生きがい（喜びやたのしみ）を感じていますか

調査対象	調査数	十分感じている	多少感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
総数	946	203	492	222	15	14
	100%	21.5%	52.0%	23.5%	1.6%	1.5%
改善	300	61	167	66	1	5
	100%	20.3%	55.7%	22.0%	0.3%	1.7%
①新規85点以上	61	13	32	14	1	1
	100%	21.3%	52.5%	23.0%	1.6%	1.6%
②継続85点以上	56	18	29	7	0	2
	100%	32.1%	51.8%	12.5%	0.0%	3.6%
③新規80点以下	101	17	64	19	0	1
	100%	16.8%	63.4%	18.8%	0.0%	1.0%
④継続80点以下	82	13	42	26	0	1
	100%	15.9%	51.2%	31.7%	0.0%	1.2%
維持	298	77	150	60	6	5
	100%	25.8%	50.3%	20.1%	2.0%	1.7%
悪化	348	65	175	96	8	4
	100%	18.7%	50.3%	27.6%	2.3%	1.1%

5.6 高齢化に伴う ADL 等の低下に関する参考資料

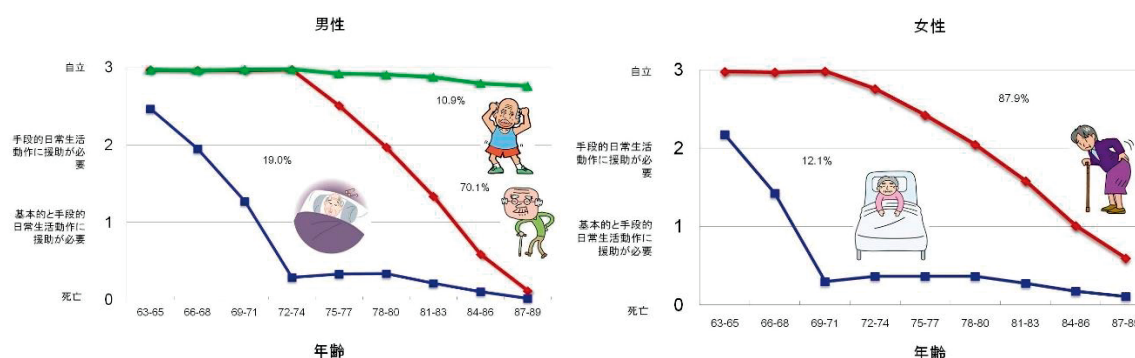
① WHO World Report on Aging and Health, 2015

調査の前提(平成29年度事業 委員会資料より)



② 全国高齢者 20 年の追跡調査

(出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』 岩波書店、2010



③ An Analysis of the Feasibility of Home Rehabilitation Among Elderly People with Proximal Femoral Fractures.

著者	Giusti, A., Barone, A., Oliveri, M., Pizzonia, M., Razzano, M., Palummeri, E., & Pioli, G.
出典	Archives of Physical Medicine and Rehabilitation, 2006; 87(6), 826–831.
概要	<目的> 股関節骨折後の高齢者における在宅リハビリテーション（home-based rehabilitation：HBR）が成功する可能性と予測因子を評価する。 <方法> 設計：12カ月のフォローアップを予定している予定の開始コホート研究。 設定：急性および亜急性のケアの実施と、イタリアの地域コミュニティにおけるフォローアップ。 参加者：非外傷性大腿骨骨折の修復後に急性整形外科ユニットから退院した、70歳以上の地域居住の高齢者（N = 199）。 介入：患者がHBRまたは施設リハビリテーション（institutional-based rehabilitation：IBR）のいずれかを行うことを選択し、実施した。HBRでは退院後に自宅に戻り、在宅でリハビリテーションを受け、IBRの場合は、退院後にリハビリテーション施設に入所してリハビリを受けた。 主要評価項目：リハビリのために帰宅した対象者の割合。退院後、3、6、および12カ月後の施設入所の割合。ベースラインおよび割合からの Barthel Index の平均値の変化、フォローアップ時に機能レベルを回復した対象者の割合。 <結果> 対象者の平均年齢：83.6±6 歳、男性の割合 14.5% <u>ベースライン時の Barthel Index Score：在宅リハビリ群 85.5±23.4、施設リハビリ群 82.4±22.6;</u> <u>12カ月後の Barthel Index Score：在宅リハビリ群 76.2±32.1、施設リハビリ住群 58.9±33.3</u> 94 名（49.7%）の患者が HBR を選択し、残り（50.3%）がリハビリ施設に退院した。ベースライン時の対象者の特性は、2 人の患者グループ（HBR、IBR）間で、居住形態（$P \leq .001$）、身体機能レベル（Barthel Index、$P = .033$; Katz Index、$P = .041$）、手段的日常生活動作能力（IADLs）（$P \leq .041$）、せん妄の発生（$P \leq .022$）に違いが見られた。追跡期間中、3、6 および 12 カ月で施設に入所した対象者の数は、それぞれ 52 人、26 人および 22 人であった。多重ロジスティック回帰モデルでは、退院時の IBR の選択に影響する唯一の有意な変数は、親族と同居していない（オッズ比 [OR] 6.7、95%信頼区間 [CI]、3.33-13.46; $P \leq .001$）等であった。Barthel Index スコア、IADL、認知状態、および年齢について調整すると、施設でリハビリテーションを受けた対象者と比較して、自宅に退院した患者は、機能低下がわずかであり、フォローアップ中の回復率が高かった（12 カ月における、Barthel Index score の変化の平均値と標準偏差：HBR 群 -11.2±24.7 対 IBR 群 -23.7±28.5、$P = .015$）。 <結論> 入院前に地域で暮らしていた、股関節骨折した高齢者集団において、HBR は、親族と一緒に暮らす対象者における IBR の実現可能な代替物と思われる。

④ The effect of two physiotherapy approaches on physical and cognitive functions and independent coping at home in stroke rehabilitation. A preliminary follow-up study

著者	Pyöriä, O., Talvitie, U., Nyrkkö, H., Kautiainen, H., Pohjolainen, T., & Kasper, V.
出典	Disability and Rehabilitation, 2007; 29(6), 503-511.
概要	<目的> Activating physiotherapy は、脳卒中後の機能回復の原則を、認知活動と身体活動の両方を必要とする学習プロセスとして支援するために使用された。本予備的研究の目的は、脳卒中患者の認知機能および身体機能ならびに家庭における自立生活に対する活性化する理学療法の影響を、従来の治療と比較して 12 カ月間のフォローアップに比べて調べることであった。 <方法> Activating physiotherapy を受けた 40 人の患者と、伝統的な療法を受けている 40 人の患者と比較した。患者の身体機能能力は、脳卒中 1 週間後および 12 カ月後に、Barthel Index (BI)、10m 歩行速度、脳卒中の姿勢制御およびバランス (PCBS) 試験、歩行距離および患者が外部なしで対処する能力を指標として測定された。認知能力は、言語、視空間機能、視覚的不注意および記憶など。特定の神経心理学的検査で測定した。 <結果> 物理的機能的能力は、12 カ月の追跡調査で両群とも有意に改善した ($p = 0.001$) が、群間に有意差は認められなかった。しかし、Activating physiotherapy 群の患者は、自宅での自立度が高く ($p = 0.042$)、1km 以上歩けるものの割合も高かった ($p = 0.012$)。追跡調査では、測定されたすべての認知機能は、Activating physiotherapy 群では有意に改善したが、伝統的治療群では有意な改善が見られなかった。 <結論> 治療を有効にすると、脳卒中患者の認知機能および身体機能の回復が進み、従来の理学療法よりも自宅での自立生活への復帰が支えられた。この点で、Activating physiotherapy は脳卒中の長期リハビリに有益な影響を及ぼすと思われる。

Table IV. Comparison between initial physical function assessment and change after 12 months of patients in the activating and traditional therapy groups.

Variables	Baseline		Change after 12 months		<i>p</i> -value between groups*
	Activating (<i>n</i> = 36) Mean (SD)	Traditional (<i>n</i> = 37) Mean (SD)	Activating Mean (95% CI)	Traditional Mean (95% CI)	
Barthel Index [†]	9.1 (4.4)	9.2 (4.2)	7.8 (6.2–9.4) [#]	6.9 (5.6–8.4) [#]	0.42
PCBS [‡]	42 (18)	42 (19)	21 (16–25) [#]	17 (10–24) [#]	0.34
10-m gait speed, m/s	0.38 (0.36)	0.36 (0.40)	0.41 (0.27–0.55) [#]	0.35 (0.22–0.48) [#]	0.44

[†]Measured on scale 0–20, higher score indicated better function; [‡]Measured on scale 9–85, higher score indicated better function;

*Analysis of covariance (ANCOVA), baseline as covariate; [#]*p*-value within group: $p < 0.001$.

⑤ 地域高齢者の健康生活調査について・第一報

～調査対象者の健康状態と活動能力の実態～

著者	水野かがみ、石原多佳子、野口典子、折居忠夫
出典	中部学院大学・中部学院短期大学 研究紀要第 10 号（2009） 151－157
概要	高齢者自身が心身ともに健康で豊かな人生を全うするための方策をたてるには高齢者の現状に関する認識と分析が必要とされる。本研究は平成 10 年に G 県 S 町（現在他町と合併）在住の歳以上の地域住民すべてを対象に生活調査を実施し、対象者の健康状態、生活の実態、保健医療福祉サービスへの要求等を把握し、さらに 3 年後に同様の調査を行ってその間の経年変化を明らかにし今後の地域福祉行政の基礎資料とすることを目的とした。 対象者の健康状態は「非常に健康である・まあまあ健康である」と回答した者が兩年とも約 6 割で、この傾向は年代とともに減少していくが、50 歳代は逆に増加傾向がみられた。「病気有り」と回答した者は約 7 割で男女別では女性の方が高い割合を示した。 病気の有無と主観的健康度との関連では、「病気有り」と回答している者でも「非常に健康である・まあまあ健康である」と、病気と共存しながらも自分の健康度を高く評価している者が約 4 割という結果であった。 対象者の活動能力について、バーセル・インデックス尺度と拡大 ADL 尺度及び体力関連項目で評価した結果、活動能力は年齢階級別では男女とも加齢とともに低下し、体力面は男女差が大きく 70 歳以降の低下傾向が顕著であった。

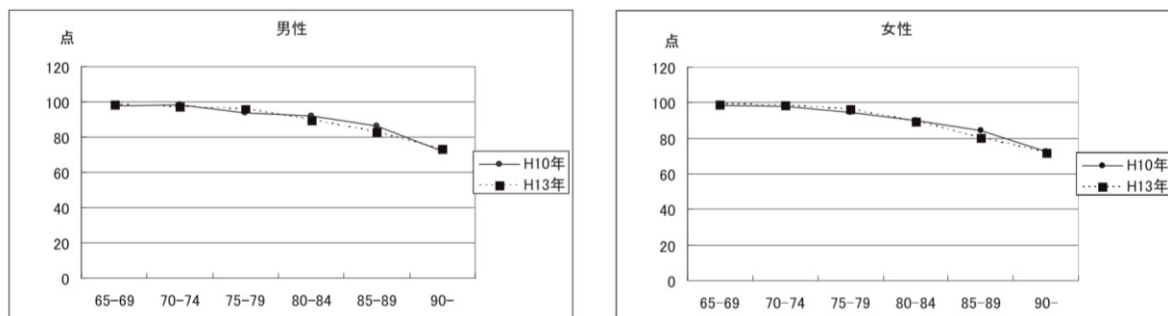


図6 バースル得点 2カ年の比較

～平成30年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）～

福祉用具及び住宅改修に関する エビデンス構築に向けた研究事業 調査結果の概要

平成31年3月

一般社団法人日本福祉用具供給協会

はじめに

本調査は平成30年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）の補助を得て、一般社団法人日本福祉用具供給協会が実施したものです。

介護保険の福祉用具については、平成30年度から、商品ごとに貸与価格が設定されるほか、機能や価格帯の異なる複数の商品を利用者に提示すること等が義務づけられました。

あわせて、住宅改修についても、平成30年度から、福祉専門職など知見を備えた者が関与する等の仕組みを全国的に広げることとなっています。

本調査では、これらの見直し内容にかかる実態を福祉用具（住宅改修）事業所及び居宅介護支援事業所に対して調査し、利用者本位で福祉用具（住宅改修）がより適切に選択されているか等の観点から調査を実施し考察を行いました。

更に、平成29年度に当協会が実施しました「福祉用具の利用に関する効果研究事業」で行った福祉用具貸与利用者に対する5回に亘る定点観測調査を踏まえて、第5回定点観測調査の更に8カ月後を追跡する調査を実施することで、福祉用具の利用効果がどのように継続しているか確認するとともに、リハビリテーション専門職等の関わりや適切な使用といった観点に重点を置き考察を行いました。

調査結果からは、平成30年度からの福祉用具（住宅改修）の制度見直しによって、より利用者本位のサービス提供がなされていることが確認された一方で、サービス提供に係る業務量が増加していることから事業所における効率化が課題となっていることが確認されました。更に、利用者の状態に適した福祉用具が選定され、利用を開始した後にも継続的に福祉用具専門相談員がリハビリテーション専門職等とともに関与し、適切に使い続けることを支援することにより、ADLの維持・改善や、QOLの維持・向上に資することが確認されました。

本報告書が、福祉用具及び住宅改修に関するエビデンスに基づいた支援の在り方に対する関係者の理解を深めるとともに、福祉用具及び住宅改修が在宅生活の基礎を担うサービスである根拠として活用されることを期待するものです。

最後に、本調査の企画及び実施にご指導賜りました検討委員の皆様並びに、アンケートやヒアリング調査にご協力をいただきました福祉用具貸与事業所及び居宅介護支援事業所の皆様に心から御礼申し上げます。

平成31年3月

一般社団法人 日本福祉用具供給協会

目次

1. 調査の概要	1
1.1 事業実施の目的	1
1.2 調査の進め方	1
1.2.1 制度見直しに係る実態並びに福祉用具（住宅改修）を用いた支援の在り方に関する実態調査の実施	1
2. 制度見直しに係る実態並びに福祉用具（住宅改修）を用いた支援の在り方に関する実態調査の実施	2
2.1 調査の目的	2
2.2 調査の方法	2
2.2.1 実態調査の設計	2
2.2.2 制度見直しに係る実態調査	3
2.3 調査の結果	5
2.3.1 平成 30 年度改正に関する実態	5
3. 先行調査で実施された定点観測調査の対象利用者に対する追跡調査	12
3.1 振り返り調査の概要	12
3.1.1 目的	12
3.1.2 調査の方法	12
3.1.3 回収状況	13
3.2 分析の考え方	13
3.3 分析結果	15
3.3.1 利用者の状態の変化に関する分析	15
3.3.2 ADL が改善した利用者に関する分析	29
3.4 追跡調査結果のまとめ	39
4. 調査結果のまとめと課題	41

4.1 調査結果のまとめ	41
4.1.1 実態調査について	41
4.1.2 追跡調査について	42
4.2 今後の課題	43
4.2.1 平成 30 年度改正への対応とサービスの質の向上について	43
4.2.2 エビデンスに基づく福祉用具貸与サービス提供について	43

1. 調査の概要

1.1 事業実施の目的

福祉用具については、平成30年度から、商品ごとに貸与価格の上限が設定されるほか、機能や価格帯の異なる複数の商品を利用者に提示すること等が義務づけられる。あわせて、住宅改修についても、平成30年度から、福祉専門職など知見を備えた者が関与する等の仕組みを全国的に広げることとなっている。

本調査では、これらの見直し内容に係る実態を福祉用具貸与事業所及び居宅介護支援事業所に対して調査し、利用者本位で福祉用具（住宅改修）がより適切に選択されているか等の観点から考察を行った。

また、過去の先行調査を踏まえた新たな利用者向け調査を実施することにより、福祉用具（住宅改修）を用いた支援の在り方、特にリハビリテーション専門職等の関わりや適切な使用といった観点に重点を置き考察を行った。考察にあたっては、専門職、学識、自治体及び福祉用具貸与事業所といった多分野からの知見を取り入れ、一体的なとりまとめを行った。

1.2 調査の進め方

1.2.1 制度見直しに係る実態並びに福祉用具（住宅改修）を用いた支援の在り方に関する実態調査の実施

(1) 制度見直しに係る実態調査（福祉用具貸与事業所向け）

予備調査を踏まえて設定された調査項目を用いて、福祉用具貸与事業所を対象とするアンケート調査を実施し、制度見直しに係る実態を調査した。

(2) 制度見直しに係る実態調査（居宅介護支援事業所向け）

予備調査を踏まえて設定された調査項目を用いて、居宅介護支援事業所を対象とするアンケート調査を実施し、制度改正に係る実態を調査した。

(3) 先行調査で実施された定点観測調査の対象利用者に対する追跡調査

平成29年度当協会老健事業「福祉用具の利用に関する効果研究事業」では、全5回にわたる定点観測調査を実施し、最終第5回目（平成30年1月実施）において約3,000人のデータを収集したところであり、この同一利用者に対して追跡調査を実施することで利用者の状態像の変化や福祉用具利用効果の分析を一層深め、支援の在り方を検討した。

2. 制度見直しに係る実態並びに福祉用具（住宅改修）を用いた支援の在り方に関する実態調査の実施

2.1 調査の目的

本調査では、これらの見直し内容にかかる実態を福祉用具貸与事業所及び居宅介護支援事業所に対して調査し、利用者本位で福祉用具（住宅改修）がより適切に選択されているか等の観点から考察を行った。

2.2 調査の方法

2.2.1 実態調査の設計

本調査では、平成 30 年度制度改正に関わる事項に関する事業所運営の実態把握を目的としている。これに対して、平成 30 年度老健事業「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」（実施主体：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会）では、福祉用具専門相談員の専門性の観点から、制度改正に伴う対応の実態を把握するための調査を実施することとされており、制度改正への対応に関する調査内容および調査対象の一部が、本調査と重複している。そこで、本調査では、2つの調査の間の一貫性の確保、調査対象者の回答負担の軽減のため、「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」を実施する一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会と連携し、合同でアンケート調査を実施することとした。

具体的には、同一の調査対象事業所（福祉用具貸与事業所、居宅介護支援事業所）に共通の調査票を送付し、それぞれの調査目的に応じて集計、分析を行った。

	「福祉用具及び住宅改修に関するエビデンス構築に向けた研究事業」（本事業）	「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」（実施主体：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会）
調査対象	- 福祉用具貸与事業所 - 居宅介護支援事業所 2 事業で共通する点	- 福祉用具貸与事業所 - 居宅介護支援事業所 ➤ より専門的知識及び経験を有する者養成研修修了者
平成 30 年度改正に関する調査事項	【福祉用具貸与】 ✓ 複数商品の提示 ✓ ケアマネジャーへの計画書交付 ✓ 全国平均価格の説明 【住宅改修】 ✓ 複数見積取得の説明（ケアマネジャー） ✓ 様式の利用	【福祉用具貸与】 ✓ 複数商品の提示 ✓ ケアマネジャーへの計画書交付 ✓ 全国平均価格の説明 —

2.2.2 制度見直しに係る実態調査

(1) 福祉用具貸与事業所向け調査

福祉用具貸与事業所を対象とするアンケート調査を実施し、制度見直しに係る実態を調査した。

- 調査対象 : 福祉用具貸与事業所 3,000 件
- 抽出方法 : 単純無作為抽出
- 調査実施時期 : 平成 30 年 11 月～12 月
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- 調査内容 : 下表のとおり

【福祉用具貸与事業所】

属 性	● 事業所属性 (法人の事業所数、福祉用具の調達方法、職員体制等) ● 回答者の属性 (役職、専門相談員の経験年数、20 時間更新研修受講)
平成 30 年度制度改正に伴う対応について	● 複数商品の提示 ● 福祉用具貸与計画書のケアマネジャーへの交付 ● 全国平均貸与価格の説明について ◇ 住宅改修について
福祉用具の提供におけるリハ専門職等との連携状況	◇ サービス提供場面ごとの連携の有無、連携している専門職、専門職の所属

※ ● : 平成 30 年度老健事業「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」
(実施主体: 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会) と共通の項目

◇ : 本事業独自の項目

(2) 居宅介護支援事業所調査

居宅介護支援事業所を対象とするアンケート調査を実施し、制度見直しに係る実態を調査した。

- 調査対象 : 居宅介護支援事業所 5,000 件
- 抽出方法 : 単純無作為抽出
- 調査実施時期 : 平成 30 年 11 月～12 月
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- 調査内容 : 下表のとおり

【居宅介護支援事業所】

属 性	● 事業所属性 (併設しているサービス、職員体制) ● 回答者の属性 (業務経験年数、福祉用具貸与サービスの提供を受けている利用者数)
貸与事業所や福祉用具専門相談員との関わり	● 福祉用具専門相談員との連携状況 ● 関わりのある福祉用具専門相談員の人数
平成 30 年度制度改正に伴う対応について	● 福祉用具貸与計画書のケアマネジャーへの交付 ● 全国平均貸与価格の記載について、利用者への効果・影響 ● 福祉用具貸与計画の活用方法、提供の効果、影響、課題 ◇ 住宅改修の複数見積取得の効果・影響、課題

※ ●：平成 30 年度老健事業「福祉用具の提供に係る必要な専門性等に関する調査研究事業」
(実施主体：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会) と共通の項目
◇：本事業独自の項目

2.3 調査の結果

回収状況については、下表のとおりであった。

図表 2-1 回収状況

	発送数	有効回答数	有効回収率
福祉用具貸与事業所	3,000	1,246	41.5%
居宅介護支援事業所	5,000	1,611	32.2%

2.3.1 平成 30 年度改正に関する実態

平成 30 年度改正に関する実態および対応について、アンケート調査より、以下のような結果が得られた。

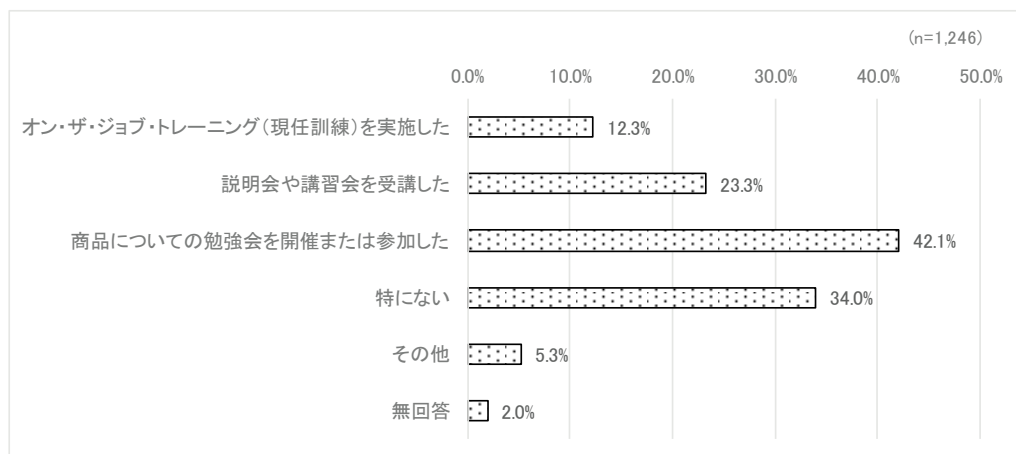
(1) 複数商品の提示

従来から複数商品を提示している事業所が 8 割以上であったが、そのうち提示内容を振り返って確認できる記録を取っていなかった事業所が 6 割以上と多かった。制度改正により複数商品の提示が求められることへの対応として、提案する複数商品について記載するための新たな様式を使用する、商品についての知識を得るための勉強会の開催などの対応が多くみられた。一方、居宅介護支援事業所に対する調査結果によれば、改正後（平成 30 年 10 月以降）に取得した福祉用具貸与計画書に複数の商品名が記載されている割合は 10 割が最も多かった（平均 58.5%）。

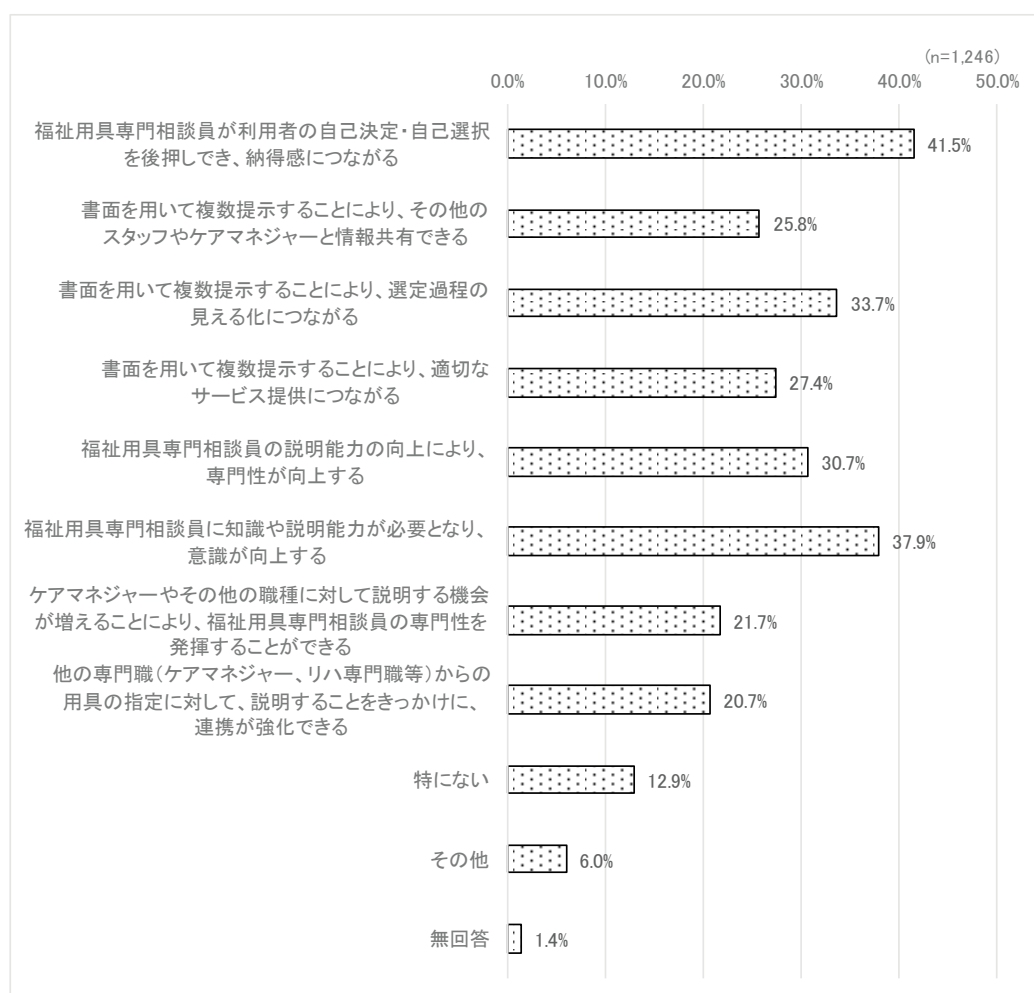
複数商品を提示することの効果・影響については、サービス利用に対する利用者、家族の納得感が高まることや、利用者の自己決定・自己選択につながることが示された。一方、課題については、複数提案に係る記録（入力）に時間がかかり、福祉用具専門相談員の負担が増えることが示された。

事業所の複数商品を提示するための対応状況別（「OJT の実施」「説明会や講習会の実施」「商品についての勉強会の開催または参加」のいずれかの対応を実施している事業所と特に対応を行っていない事業所別）に、複数商品を提示することによる利用者・家族への効果・影響の捉え方について比較したところ、いずれかの対応を行っている事業所の方が、複数商品を提示することによるポジティブな効果・影響（サービス利用に対する納得感が高まるなど）だけでなく、ネガティブな効果・影響（説明を受け理解することに時間がかかり負担が増える、自分に合う福祉用具を選択することが難しく、混乱をきたす）についても実感している割合が高かった。

図表 2-2 複数商品を提示するためにどのような対応をしたか（複数選択）



図表 2-3 複数商品を提示することによる効果・影響（複数選択）

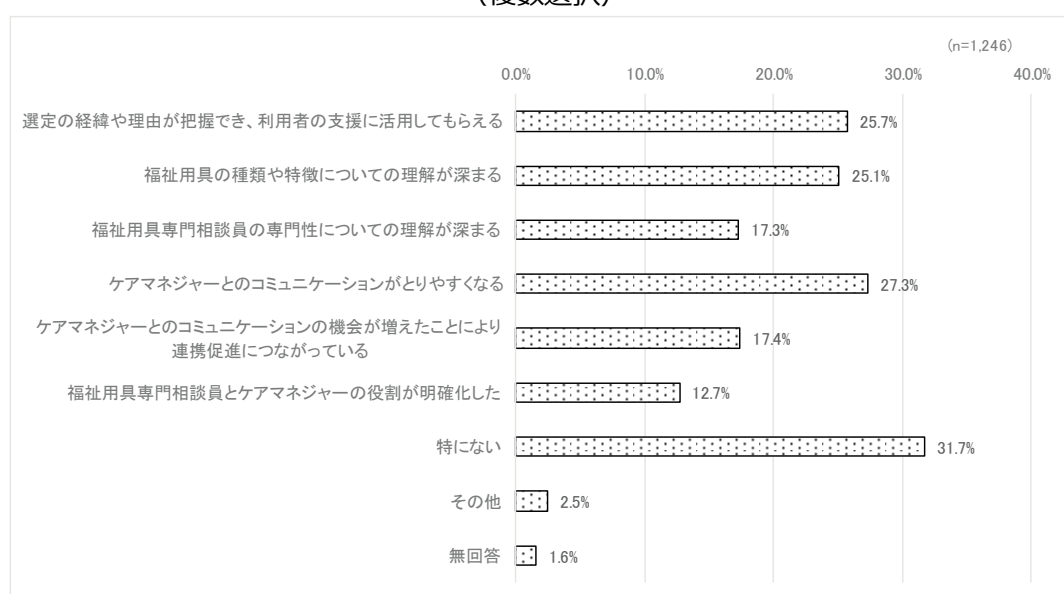


(2) 福祉用具貸与計画書の交付

従来からケアマネジャーに福祉用具貸与計画書を交付していた事業所の割合が 86.4.% と高かった。ケアマネジャーの計画書の活用方法については、サービス担当者会議で福祉用具専門相談員に説明を求める際や、記載された福祉用具の特徴や選定理由等について福祉

用具専門相談員に説明を求める際の活用が多いことがわかった。30 年度制度改正により福祉用具貸与計画書のケアマネジャーへの交付が求められることの効果・影響は、ケアマネジャーとのコミュニケーションがとりやすくなるが 3 割弱と多かった。一方で、ケアマネジャーが提供されることにより期待される効果・影響は、福祉用具の種類や特徴についての理解が深まる、選定の経緯や理由が把握でき、利用者の支援に活用できる等、肯定的な回答が約 6 割を占めていた。交付に関する課題としては、福祉用具貸与事業所、居宅介護支援事業所のいずれも、文書が多くなり管理の負担が増大するという回答が多かった。

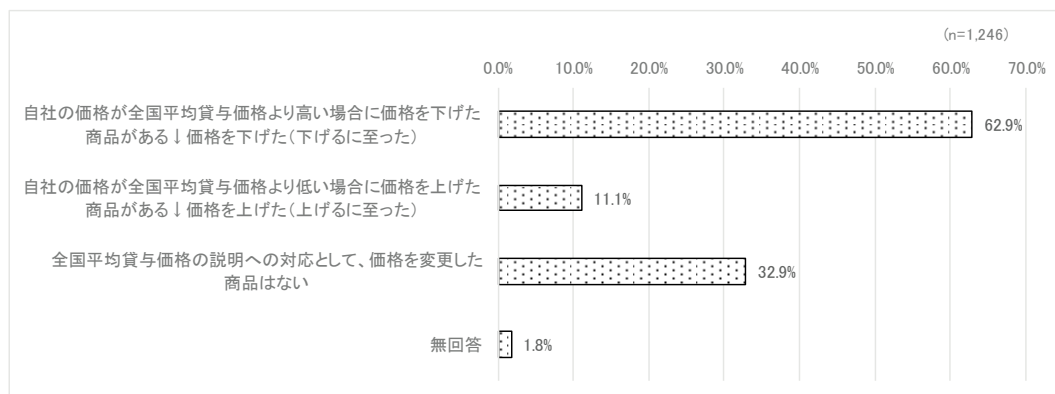
図表 2-4 福祉用具貸与計画書をケアマネジャーに交付することによる効果・影響
(複数選択)



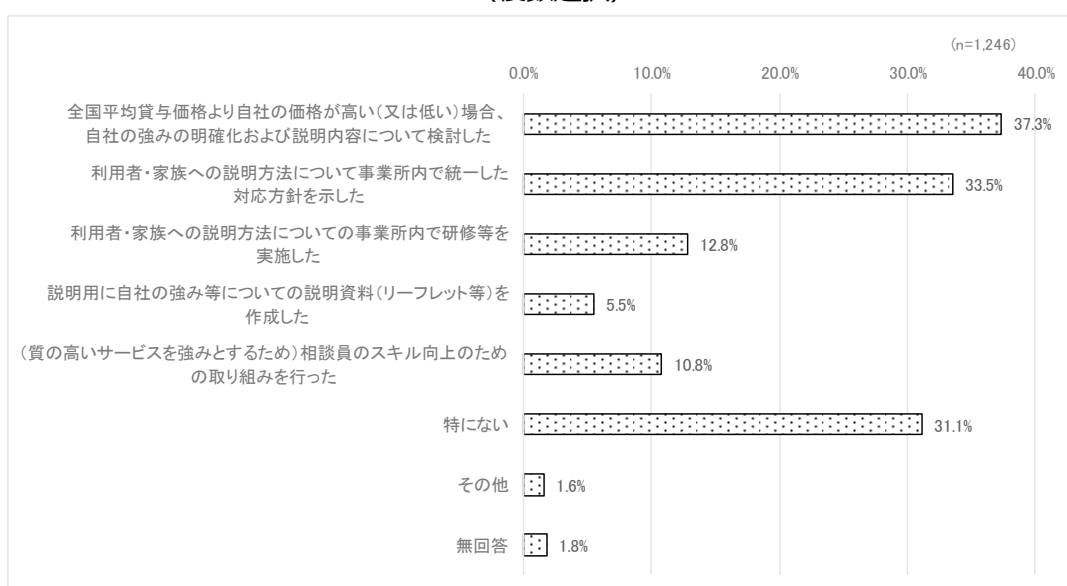
(3) 全国平均貸与価格の提示

平成 30 年 10 月より、全国平均貸与価格の説明が求められることについて、利用者に自社の価格についての理解を得るために、自社の強みの明確化および説明内容について検討する（37.3%）等の利用者に自社の価格についての理解を得るための取り組みを実施している事業所がみられた。全国平均貸与価格の説明が求められることにより期待される効果・影響は、自社の貸与価格が他社と比べて高くないことを証明できるが多かった。福祉用具貸与事業所における問題意識としては、全国平均貸与価格の説明により、価格が優先されがちになり、サービスの質の低下が懸念されるが 7 割以上であった一方で、ケアマネジャーの回答では、福祉用具専門相談員から利用者に対して複数商品を提示し、全国平均貸与価格について説明することによる利用者への効果・影響は、利用者や家族の自己決定・自己選択につながる等の肯定的な回答が多かった。

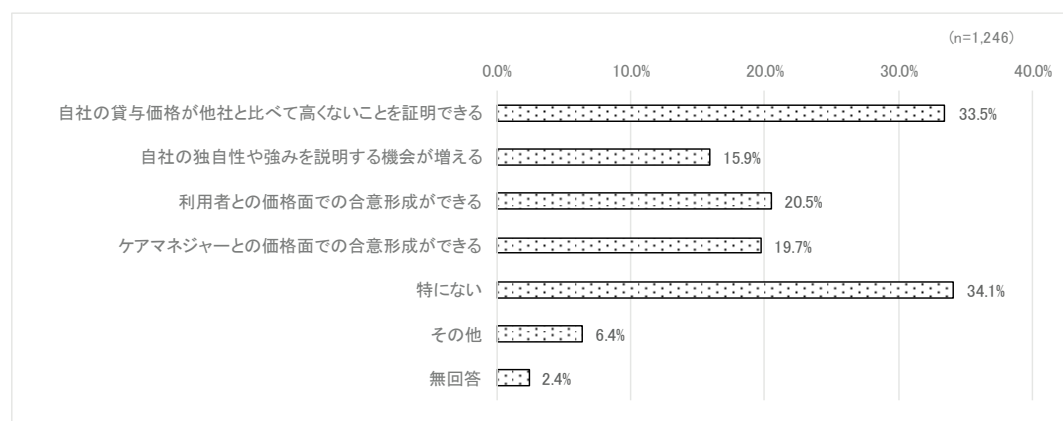
図表 2-5 全国平均貸与価格の説明に対応して、価格を変更したか（複数選択）



図表 2-6 利用者に自社の価格についての理解を得るために、次のような対応をしましたか（複数選択）



図表 2-7 全国平均価格を示すことにより期待される効果・影響（複数選択）



(4) 住宅改修の複数見積

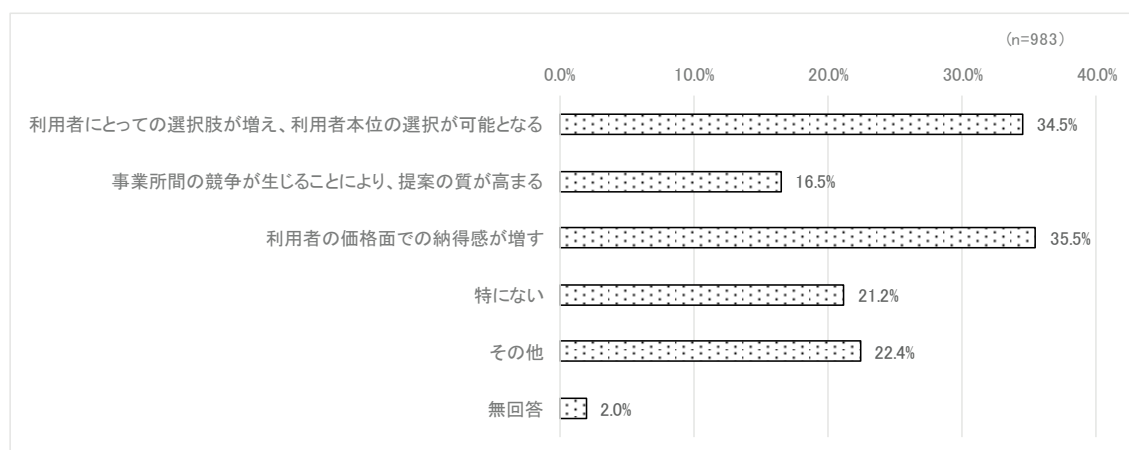
制度改正によりケアマネジャーが利用者に対し、住宅改修の見積を複数事業所から取得するよう、説明すること等とされているが、従来から一定金額以上について複数見積に対応している事業所、平成 30 年度から複数見積に対応している事業所が、いずれも 3 割程度であった。住宅改修について複数見積を取得することによる効果・影響について、利用者の価格面での納得感が増すこと、利用者にとっての選択肢が増え、利用者本位の選択が可能となることが挙げられた。一方、複数見積を取得する上での課題としては、価格が優先されがちになり、質の確保を懸念する事業所が 7 割であった。

住宅改修に関する専門職との連携について、退院・退所に向けた病院・施設のリハ専門職の家庭訪問に同行する（76.4%）、施工に際して関連職員と連携している（66.4%）が多かった。

住宅改修を行っている事業所において、平成 30 年 7 月以降の受注件数の状況（前年度比較）は、以前と変わらない事業所が 66.2%、受注件数が減った事業所が 21.7%であった。

住宅改修の利用に際して、平成 30 年度より、建築専門職、リハビリテーション専門職等が適切に関与する仕組みが保険者において進められているが、保険者による住宅改修支給申請書の審査の際に、建築専門職、リハビリテーション専門職等により点検の取り組みを行っている保険者数は、無し（無回答を含む）が 78.0%、「1～2」が 13.8%であった。また、住宅改修の実施前又は実施の際に、実際に改修を行う住宅をリハビリテーション専門職が訪問し、点検の取り組みを行っている保険者数は、無し（無回答を含む）が 75.7%、「1～2」が 15.2%であった。保険者の取り組みに関連する事業者の取り組みの変化は、変化はない（35.6%）事業者が多く、見積り作成にあたって、施工が必要な根拠（見積内容）を従来以上に意識するようになったが事業所 13.4%であった。

図表 2-8 住宅改修について複数見積を取得することによる効果・影響（複数選択）



図表 2-9 平成 30 年度改正に伴う対応について

	福祉用具貸与事業所	居宅介護支援事業所
複数商品の提示・ 全国平均貸与価格につ いての説明	【実態】 ・従来から複数商品を提示していた（80.3%） ・記録の提示について、なし（提示内容を振り返って確認できる記録がない）（提示していた事業所のうち 63.8%） ・商品についての勉強会を開催または参加した（42.1%） ・利用者に自社の価格についての理解を得るために、全国平均貸与価格より自社の価格が高い（又は低い）場合、自社の強みの明確化および説明内容について検討した（37.3%）	【実態】 ・福祉用具貸与計画書に、提案した複数の商品名が記載されている割合は（平均）58.5% ・提供された福祉用具貸与計画書に、記載されている割合は、「提案した複数の商品の全国平均貸与価格」「最終的に選定された商品の全国平均貸与価格」「貸与価格の上限」のいずれについても、1 割未満が多い（それぞれ 1 割未満の回答が全体の 56.4%、54.3%、67.8%）
	【効果・影響】 ・利用者・家族に対して、サービス利用に対する利用者、家族の納得感が高まる（45.0%） ・福祉用具専門相談員が利用者の自己決定・自己選択を後押しでき、納得感につながる（41.5%） ・全国平均貸与価格を説明することで、自社の貸与価格が他社と比べて高くないことを証明できる（33.5%）	【効果・影響】 ・利用者や家族の自己決定、自己選択につながる（61.3%） ・サービス利用に対する利用者、家族の納得感が高まる（50.8%）
	【課題】 ・複数提案に係る記録（入力）に時間がかかり、福祉用具専門相談員の負担が増える（73.1%） ・全国平均貸与価格の説明により、価格が優先されがちになり、サービスの質の低下が懸念される（71.0%）	【課題】 －
福祉用具貸与計画書の 交付	【実態】 ・従来からケアマネジャーに福祉用具貸与計画書を交付していた（86.4%）	【実態】 ・平成 30 年 4 月の制度改正前から福祉用具貸与計画書を提供されていた（96.2%） ・活用方法は、サービス担当者会議で、福祉用具専門相談員に説明を求める（72.4%）、記載された福祉用具の特徴や選定理由等について福祉用具専門相談員に説明を求める（50.5%）
	【反応／効果・影響】	【効果・影響】

	福祉用具貸与事業所	居宅介護支援事業所
	・ケアマネジャーの反応は、書類を確認・管理するための手間がかかる印象（負担感）を持った（27.0%） ・効果・影響は、ケアマネジャーとのコミュニケーションがとりやすくなる（27.3%）	・福祉用具の種類や特徴についての理解が深まる（67.4%） ・選定の経緯や理由が把握でき、利用者の支援に活用できる（65.7%） ・目標や課題の認識共有が図れる（64.1%）
	【課題】 ・文書が多くなり管理の負担が増大する（57.8%） ・ケアマネジャーが福祉用具貸与計画書を確認してくれているか疑問がある（46.5%）	【課題】 ・文書が多くなり管理の負担が増大する（45.7%） ・受け取りや読み込みの業務負担が増える（30.7%）
住宅改修の 複数見積	【実態】 ・従来から一定金額以上については、複数見積に対応していた（30.1%）、平成30年度から複数見積に対応している（32.1%） ・住宅改修における専門職との連携について、退院・退所に向けた病院・施設のリハ専門職の家庭訪問に同行する（76.4%）、施工に際して関連職員と連携している（66.4%）	【実態】 －
	【効果・影響】 ・利用者の価格面での納得感が増す（35.5%） ・利用者にとっての選択肢が増え、利用者本位の選択が可能となる（34.5%）	【効果・影響】 ・利用者にとっての選択肢が増え、利用者本位の選択が可能となる（53.2%） ・利用者の価格面での納得感が増す（47.9%）
	【課題】 ・価格が優先されがちになり、質の確保が懸念される（71.9%）	【課題】 ・入院中の申請など緊急時の改修に対応できない懸念がある（63.3%） ・価格が優先されがちになり、質の確保が懸念される（53.2%）

3. 先行調査で実施された定点観測調査の対象利用者に対する追跡調査

3.1 振り返り調査の概要

3.1.1 目的

平成 29 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）「福祉用具の利用に関する効果研究事業」（一般社団法人日本福祉用具供給協会）では、全 5 回にわたる定点観測調査を実施した。最終調査である第 5 回目（平成 30 年 1 月実施）において約 3,000 人のデータを収集したところであり、この同一利用者に対して追跡調査を実施することで利用者の状態像の変化や福祉用具利用効果の分析を一層深め、エビデンスに基づく支援の在り方に繋げることを目的として実施した。

3.1.2 調査の方法

調査の方法は以下のとおりとした。

- 調査対象 : 平成 29 年度当協会老健事業「福祉用具の利用に関する効果研究事業」における定点観測調査で最終回答が回収できた約 3,225 人（調査協力福祉用具貸与事業所数は 539 事業所）
- 調査実施時期 : 平成 30 年 9 月～10 月
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- 調査内容 : 以下のとおり

平成 29 年度 定点調査項目	基本情報	年齢、性別、要介護度、中止理由、身長、体重、疾病情報、他サービス利用状況 等
	利用者の状況	指わっかテスト、転倒の回数、Barthel Index、Vitality Index、貸与中の商品及び利用頻度、利用目標の達成状況、日常生活への満足度 等
	介護者の負担感	介護負担の状況、主たる介護者の生活への満足度等
	E-SAS	生活のひろがり、ころばない自信、自宅での入浴動作、休まず歩ける距離、人とのつながり等
平成 30 年度 に追加した 調査項目	前回調査以降の変化	福祉用具利用頻度、操作の慣れ 介助内容の変化 目標と目標達成の状況 専門職との連携の状況 利用中止の場合の具体的な理由 等
	その他自由記述	福祉用具に対して、制度に対して

3.1.3 回収状況

回収状況は、以下のとおりであった。

	合計	新規利用者 平成 29 年 9 月 利用開始	継続利用者 平成 29 年 3 月 利用開始
回収数	2,121 件	—	—
うち 29 年度調査と紐づけができた件数	1,624 件	872 件	752 件
うち福祉用具の利用が継続していた件数	1,236 件	663 件	573 件

3.2 分析の考え方

以下の考え方に沿って、分析を行った。

<分析対象>

- ・平成 29 年度調査の調査対象利用者について、追跡調査時点まで福祉用具貸与サービスにより福祉用具の利用を継続している利用者、すなわち新規利用者では 12 カ月、継続利用者では 18 カ月間、福祉用具を利用しているデータについて分析した。¹

<分析の前提>

- ・「福祉用具の利用効果」については、同じ状態や環境の利用者が福祉用具を利用した場合と利用していない場合との比較によって検証することは困難であり、平成 29 年度調査では、一般的な高齢者の ADL の低下の状況を傍証とするため、在宅生活を送る高齢者の ADL 変化に関する研究事例を参照した。本調査においても、一般に、高齢化により ADL、QOL が一定程度低下することが想定される中で、本調査における福祉用具利用者の ADL、QOL の維持、改善、または悪化の程度について確認した。
- ・平成 29 年度調査では、福祉用具の利用開始後から 4 カ月目までは、ADL

・¹平成 29 年度の調査終了時点から追跡調査時点の間に、自立や ADL の向上により福祉用具を中止している事例（45 事例；利用中止している 321 事例の 14.0%）があり、福祉用具を効果的に利用することにより自立度が向上した可能性が考えられるが、経過を把握することができないため、分析対象としていない。また、平成 29 年度の調査終了時点以降に、入院・入所等により福祉用具の利用を一時中断し、追跡調査時点までに再開した 63 事例については、利用者の状況に応じて必要な期間に必要な福祉用具が利用されていることが想定されるが、状態の変化と福祉用具利用の中止、再開の時期について把握できず、福祉用具の利用期間別の集計ができないため、分析対象としていない。

や利用者の生活や社会との交流への意欲の向上が期待され、6 カ月目以降は維持されること、ADL については特に自立度の低い人では、その効果がより期待できる可能性があることが示唆された。本調査では、さらに 8 カ月経過した時点までの変化について確認した。

<分析の指標>

- ・ 平成 29 年度調査と同様に、利用者の ADL、利用者の QOL、介護者の負担という 3 つの側面から、「状態が改善、維持していること」、あるいは「悪化の程度が小さいこと」を以下の指標に着目して分析した。

ADL : Barthel Index

QOL : 「意欲の指標 (Vitality Index)」、E-SAS(生活のひろがり、人とのつながり)

介護者の負担 (NFU (日本福祉大学 (Nihon Fukushi University)) 版介護負担感得点)

<分析の視点>

- ・ それぞれの指標について調査期間を通じた平均値の推移を確認した。
- ・ さらに、調査開始時点と比較して、状態が「維持または改善している利用者」の割合の推移、および「改善している利用者」の割合の推移を示した。
- ・ 上記の ADL や QOL、介護者の負担の変化について、調査開始時点の Barthel Index 得点により区分して比較した。
- ・ さらに、疾患の状況や、福祉用具を導入したきっかけ、福祉用具の利用状況、リハビリテーションの状況別に比較し、どのような利用者に対して、どのような福祉用具が貸与され、どのように利用するかによって、ADL や QOL の変化がどのように異なるかを分析した。
- ・ 特に、ADL が改善した群については、維持、悪化した群と比較し、ADL の改善につながりやすい特性について考察した。

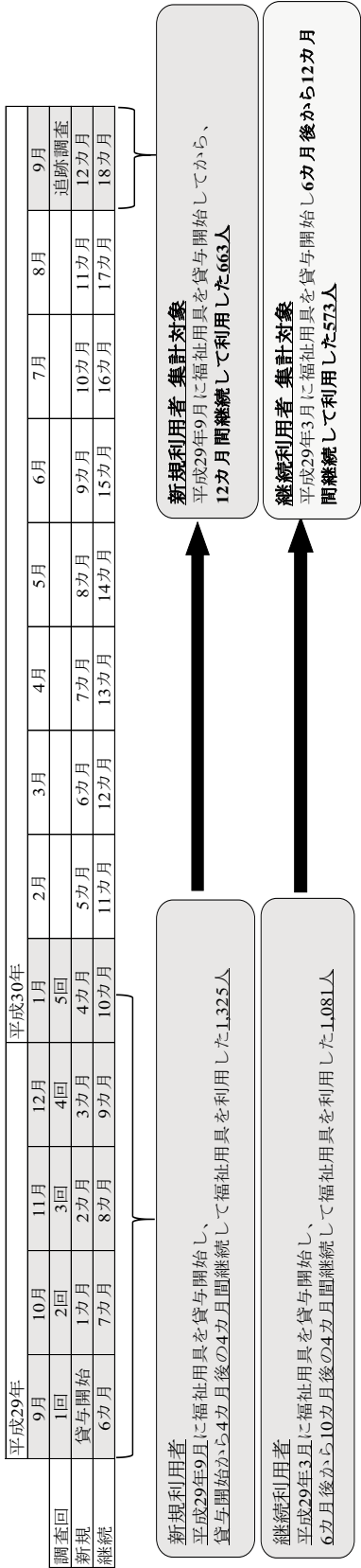
3.3 分析結果

3.3.1 利用者の状態の変化に関する分析

(1) 集計対象

平成 29 年 9 月から福祉用具の貸与を開始した「新規利用者」のうち、平成 30 年 9 月(貸与開始から 12 カ月後)まで 12 カ月間福祉用具を利用した **663 人の新規利用者を集計対象**とした。また、平成 29 年 9 月の時点で福祉用具を貸与してから 6 カ月間経過した「継続利用者」についても同様に、平成 30 年 9 月（貸与開始から 18 カ月後）まで 12 カ月間福祉用具を利用した **573 人の継続利用者を集計対象**とした。

図表 3-1 集計対象



(2) Barthel Index について

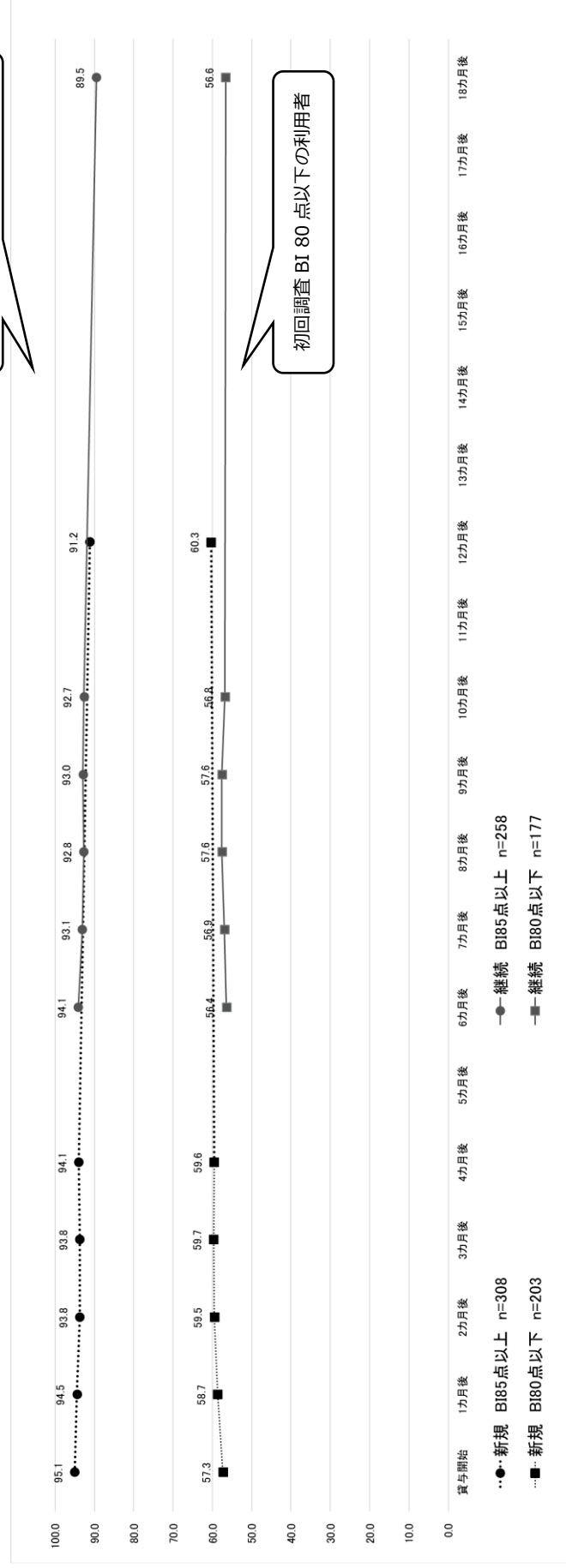
1) Barthel Index 平均値の推移（初回調査の Barthel Index 点数群別）

初回調査（新規利用者は貸与開始時点、継続利用者は貸与開始 6 カ月後。）の Barthel Index 得点を「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別にし、各回調査時点の Barthel Index の平均値の推移を示した。

「80 点以下」の新規利用者の Barthel Index の平均値は、12 カ月後にやや上昇した。「85 点以上」についてはやや低下した。「80 点以下」の継続利用者の 18 カ月後の Barthel Index の平均値はほとんど変わらず、「85 点以上」についてはやや低下した。

図表 3-2 Barthel Index 平均値推移（初回調査の Barthel Index 点数群別）

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

2) Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移（初回調査の Barthel Index 点数群別）

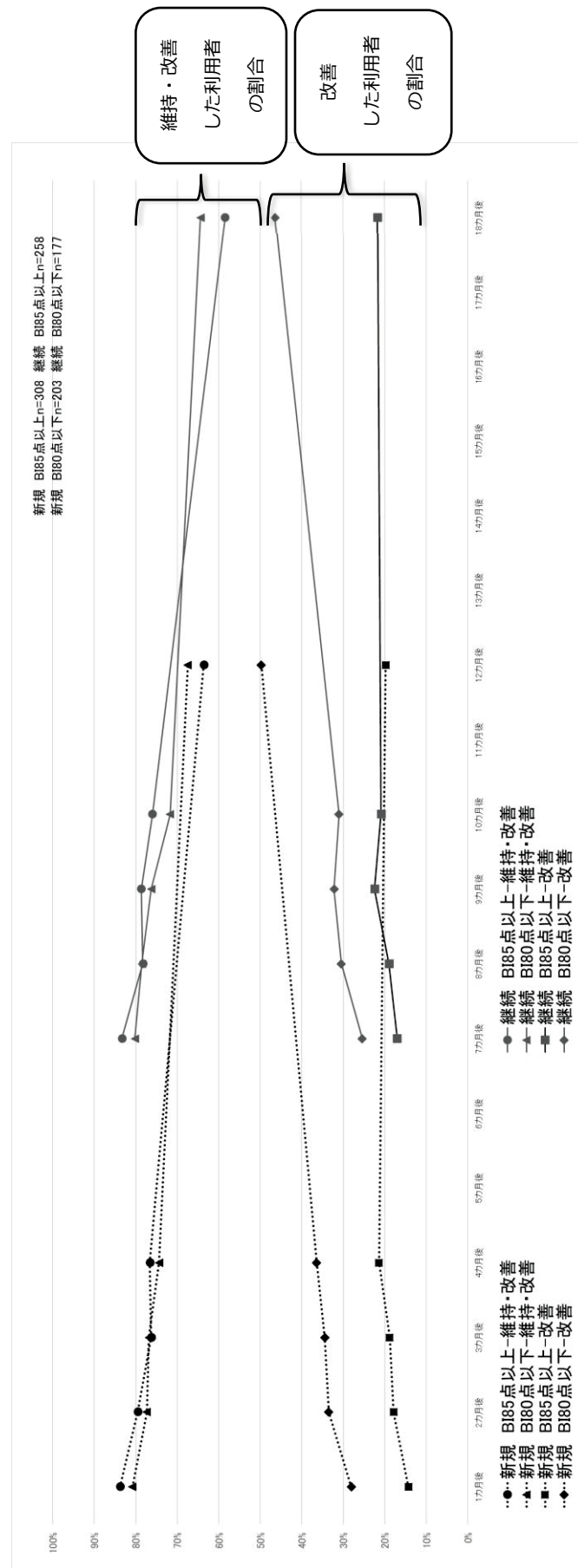
初回調査の Barthel Index と各回の調査の Barthel Index を比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を、初回調査の Barthel Index を「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

新規利用者、継続利用者共に、初回調査の Barthel Index「85 点以上」の群は初回調査時点で得点が高いため、「維持・改善」した利用者の割合の低下幅が大きい。「80 点以下」の群は、新規利用者では貸与開始 12 カ月後に Barthel Index の改善した利用者の割合は 49.8%、継続利用者では貸与開始 18 カ月後に Barthel Index が改善した利用者の割合は 46.3%であった。福祉用具の利用開始時点で ADL が低かった群では利用開始から 12 カ月後、18 カ月後に半数程度の利用者の Barthel Index が改善していた。

図表 3-3 Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移

※初回調査時点と比較した維持・改善

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

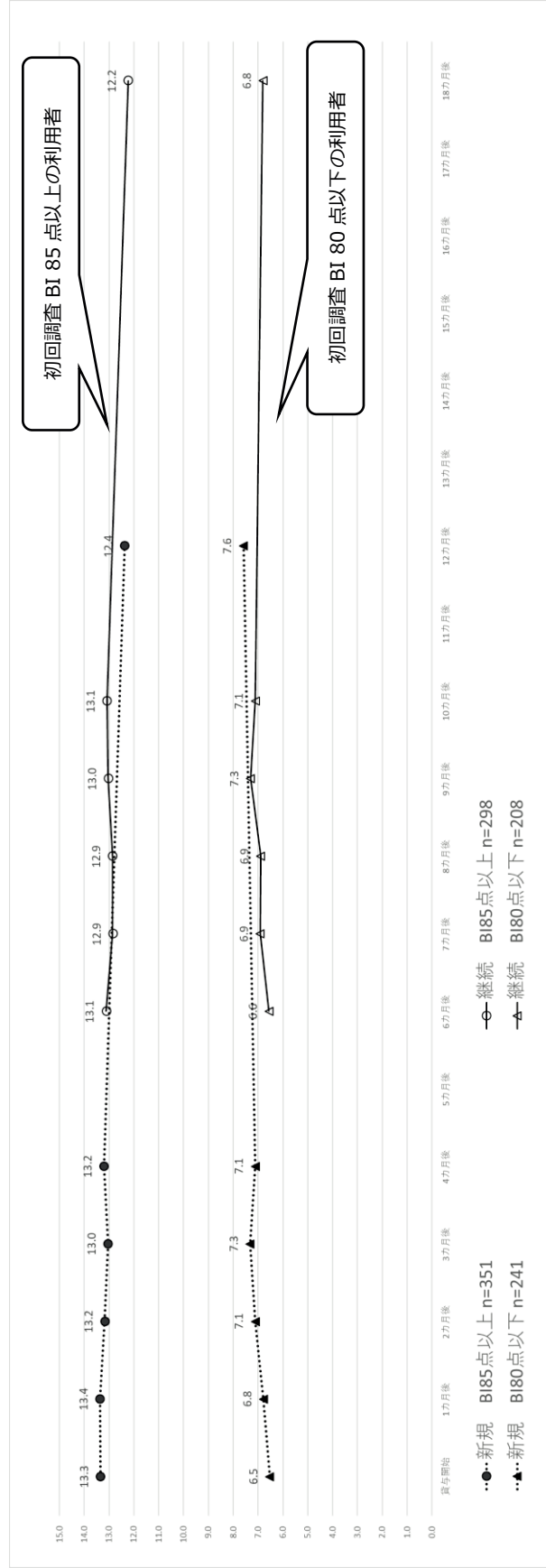
3) 「歩行」の平均値の推移

Barthel Index のうち「歩行」の得点の平均値の推移を、初回調査の Barthel Index（各動作得点の合計）が「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

「80 点以下」の新規利用者は、約 7 点程度を推移し、貸与開始 12 カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。「85 点以上」の新規利用者は、約 13 点程度を推移し、貸与開始 12 カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。継続利用者についても、同様であった。

図表 3-4 「歩行」の得点の平均値推移

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

4) 「歩行」が維持・改善した利用者の割合の推移

Barthel Index のうち「歩行」の得点について、初回調査と各回の調査時点と比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を、初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「85 点以上」の群については、新規利用者は貸与開始から 4 カ月後まで、継続利用者は貸与開始 10 カ月後までは、約 90% 程度の利用者が「歩行」の得点を維持・改善しており、その後、その割合は低下するが、それぞれ 12 カ月後、18 カ月後も 70% 以上の利用者が維持・改善していた。そのうち改善した利用者の割合は、約 10% を推移した。

初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80 点以下」の群については、新規利用者、継続利用者ともに、時間が経過しても約 80% 程度の利用者が「歩行」の得点を維持・改善している。そのうち改善した利用者の割合を見ると、新規利用者では貸与開始 1 カ月後の約 10% から徐々に上昇し、12 カ月後に改善している割合は約 30% であった。継続利用者については、貸与開始 7 カ月後の約 10% から徐々に上昇し、18 カ月後に改善している割合は約 20% であった。

「歩行」の得点は、福祉用具を利用している期間を通じて高い割合で維持、改善され、特に利用開始時点で ADL が低かった群では改善する割合が高いことが確認された。

図表 3-5 「歩行」の得点が維持・改善した利用者の割合の推移

※初回調査時点と比較した維持・改善

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

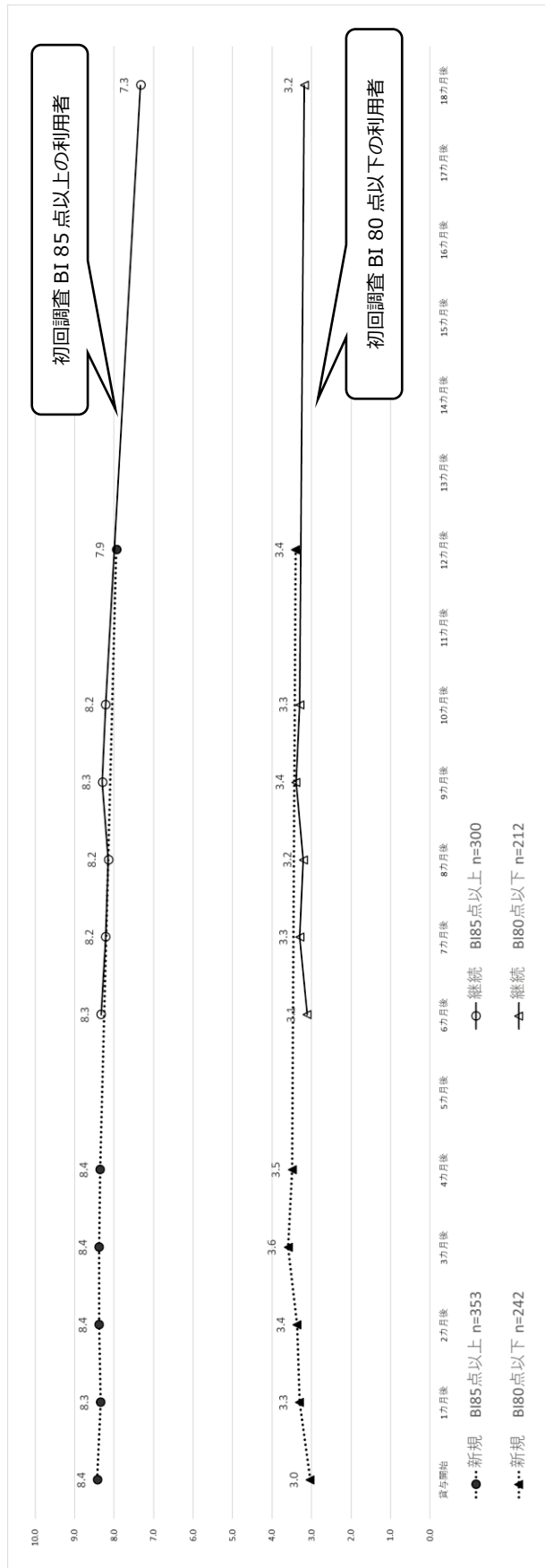
5) 「階段昇降」の平均値の推移

Barthel Index のうち「階段昇降」の得点の平均値の推移を、初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

「80 点以下」の新規利用者は、約 3 点程度を推移し、貸与開始 12 カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。「85 点以上」の新規利用者は、約 8 点程度を推移し、貸与開始 12 カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。継続利用者についても、同様であった。

図表 3-6 「階段昇降」の得点の平均値推移

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

6) 「階段昇降」が維持・改善した利用者の割合の推移 (初回調査の Barthel Index 点数群別)

Barthel Index のうち「階段昇降」の得点について、初回調査と各回の調査時点と比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を、初回調査の Barthel Index 得点 (各動作得点の合計) が「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

初回調査の Barthel Index 得点 (各動作得点の合計) が「85 点以上」の群については、新規利用者は貸与開始から 4 カ月後まで、継続利用者は貸与開始 10 カ月後までは、約 90% 程度の利用者が階段昇降の得点を維持・改善しており、その後、その割合は低下するが、新規利用者は 80% 以上、継続利用者は 70% 以上利用者が維持・改善していた。そのうち改善した利用者の割合は、約 10% を推移した。

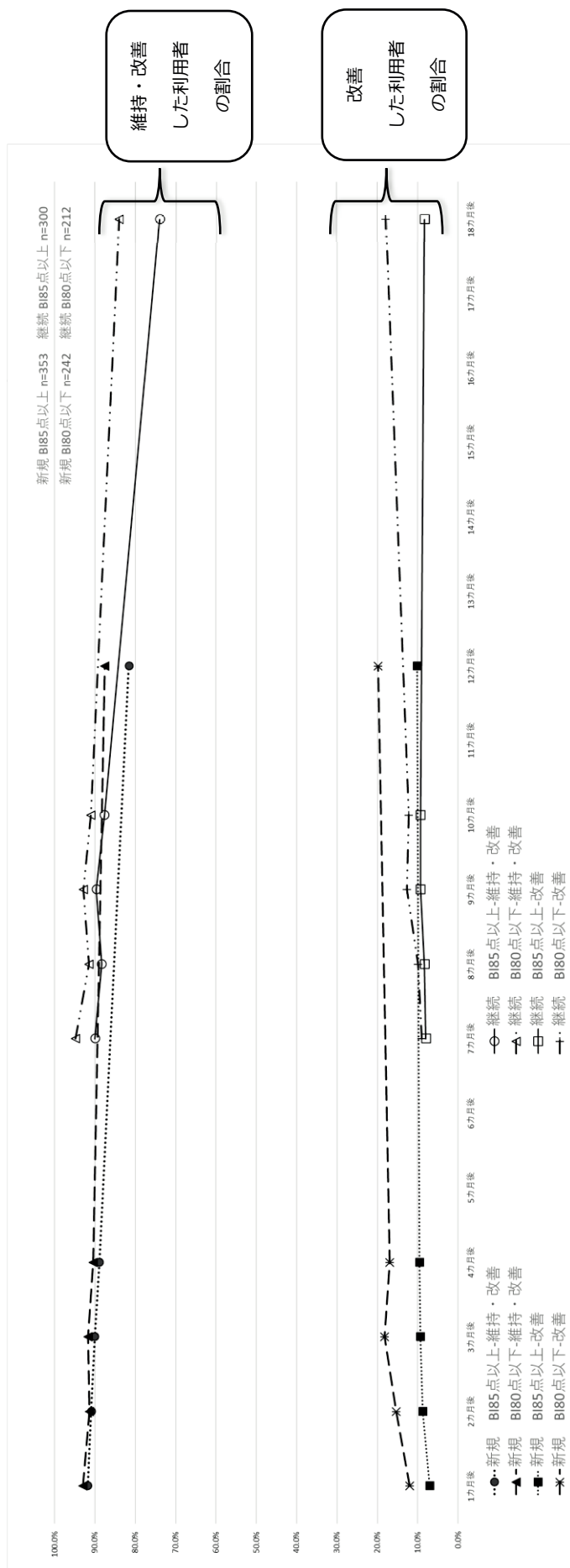
初回調査の Barthel Index 得点 (各動作得点の合計) が「80 点以下」の群については、新規利用者、継続利用者ともに、時間が経過しても約 80% 程度の利用者が階段昇降の得点を維持・改善している。そのうち改善した利用者の割合を見ると、新規利用者では貸与開始 1 カ月後の約 10% から徐々に上昇し、12 カ月後に改善している割合は約 20% であった。継続利用者についても同様であった。

階段昇降の得点は、福祉用具を利用している期間を通じて高い割合で維持、改善され、特に利用開始時点で Barthel Index 得点が低かった群では改善する割合が高いことが確認された。

図表 3-7 「階段昇降」の得点が維持・改善した利用者の割合の推移

※初回調査時点と比較した維持・改善

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

(3) 疾患状況別の Barthel Index の変化

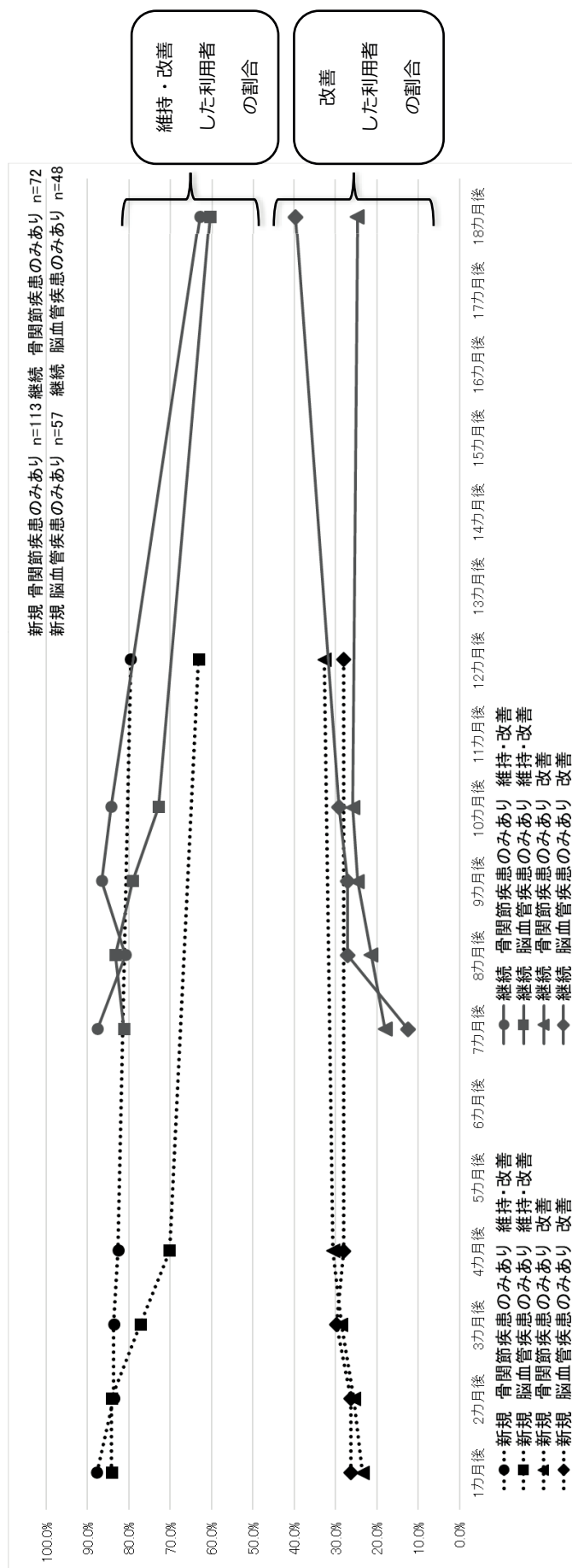
調査対象において比較的多い疾患である「骨関節疾患のみあり」と「脳血管疾患のみあり」について、Barthel Index の変化を分析した。次の図表は、初回調査の Barthel Index と各回調査の Barthel Index を比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を示した。

「骨関節疾患のみあり」の新規利用者は、貸与開始 1 カ月後から 4 カ月後まで Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は 80%以上を保っており、12 カ月後も同様に約 80%であった。改善した利用者の割合は、貸与開始 1 カ月後から 4 カ月後まで徐々に上昇し、4 カ月後には 28.1%で、12 カ月後には 32.7%となった。高齢者のため徐々に Barthel Index は低下するものの、骨関節疾患があっても 12 カ月後も約 80%が維持・改善している。また、その中でも改善している利用者は、徐々に多くなっており、骨関節疾患がある場合の福祉用具の利用が、ADL の維持・改善に有効であることが推測される。

継続利用者のについても同じ傾向が見られ、貸与開始 6 カ月後の状態を 10 カ月後まで維持・改善している利用者の割合は、80%以上だった。しかし、福祉用具貸与 18 カ月後と時間が経過した時点では、Barthel Index を維持・改善した利用者の割合は約 60%と低くなった。

新規、継続共に「脳血管疾患のみあり」の利用者は少ないが、Barthel Index の維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 12 カ月後には 63.2%に低下した。継続利用者についても同様の傾向で、貸与開始 6 カ月後の状態を 9 カ月後まで維持・改善している利用者の割合は 80%程度、貸与開始 18 カ月後には 60.4%であった。継続利用者のうち改善した利用者の割合は、貸与開始 18 カ月後には 39.6%であった。

図表 3-8 疾患状況別 Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移
※初回調査時点と比較した維持・改善



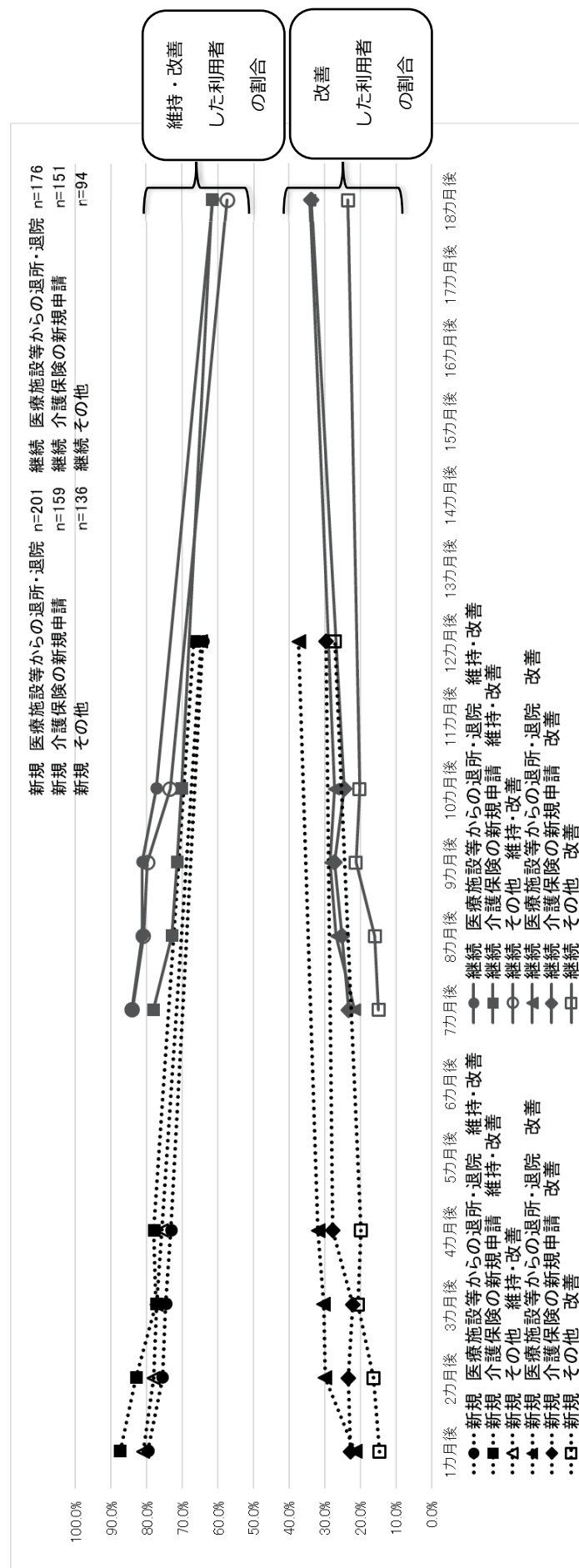
(4) 福祉用具導入のきっかけ別の Barthel Index の変化

福祉用具導入のきっかけ別に、初回調査の Barthel Index と各回調査の Barthel Index を比較し、維持・改善した利用者の割合とその他の改善の割合の推移を示した。

「医療施設からの退所・退院」がきっかけで福祉用具を貸与した新規利用者は、貸与開始 1 カ月後よりも 2 カ月後の Barthel Index の改善割合が高く 29.9%、その後も同割合程度の利用者が改善しており、12 カ月後には 37.3%となった。医療施設からの退所・退院後は、日常生活の動作についての改善割合が比較的高く、福祉用具を利用することが改善の一つの助けになっていると推測される。

図表 3-9 福祉用具導入のきっかけ別

Barthel Index 得点が維持・改善した利用者の割合の推移 ※初回調査時点と比較した維持・改善



(6) 「E-SAS（人とのつながり）」が維持・改善した利用者の割合の推移（Barthel Index の維持改善・悪化別）

「E-SAS（人とのつながり）」について、追跡調査の Barthel Index が初回調査より維持・改善した利用者と悪化した利用者の 2 群に分け、初回と各回調査の「E-SAS(人とのつながり)」を比較して維持・改善した利用者の割合と、そのうち改善した利用者の割合の推移を示した。

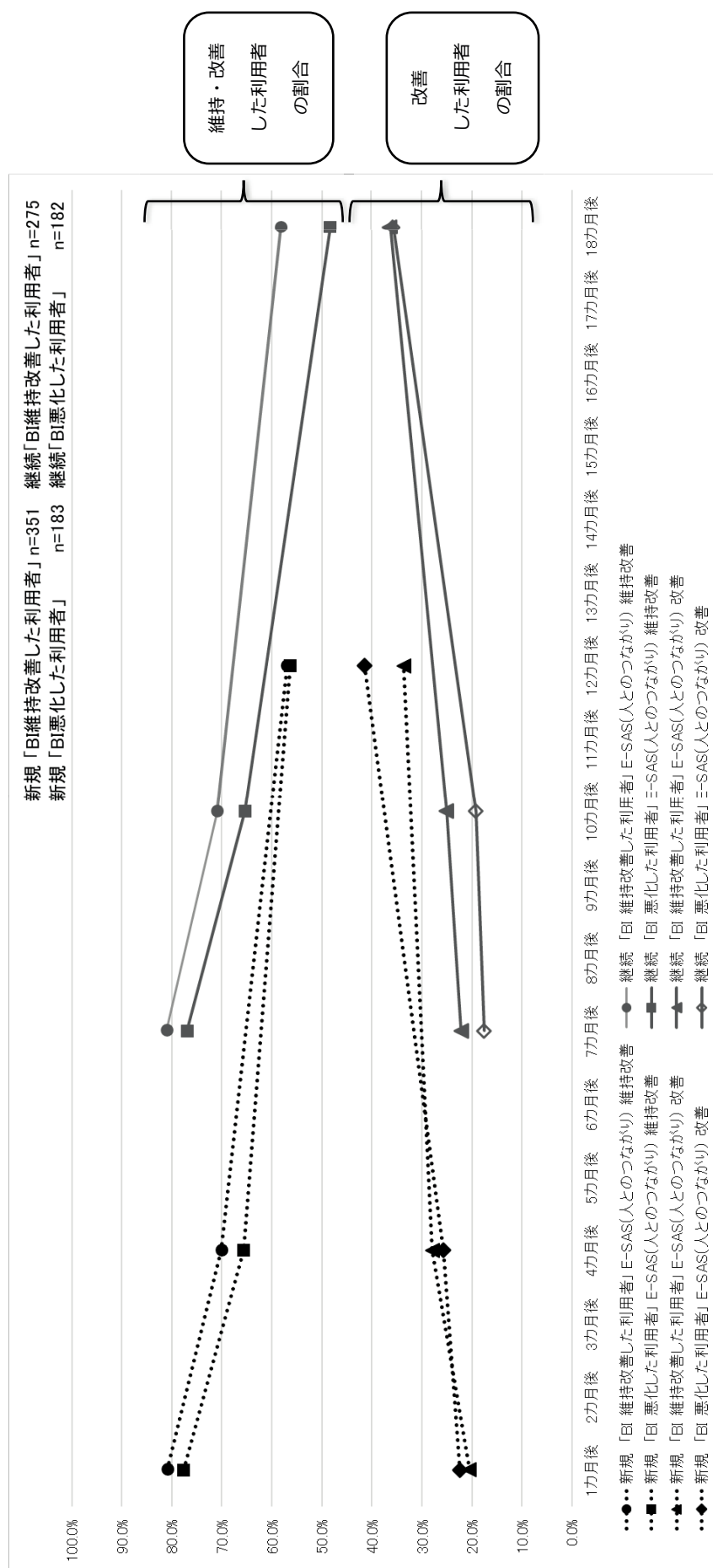
Barthel Index が維持・改善した新規利用者も、Barthel Index が悪化した新規利用者も同程度で、時間が経過するにつれ、「E-SAS（人とのつながり）」は低下した。しかし「E-SAS(人とのつながり)」が改善した利用者の割合は、新規利用者については、Barthel Index が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も時間が経過するにつれ上昇しており、特に貸与開始 12 カ月後には、Barthel Index が維持・改善した新規利用者より、Barthel Index が悪化した利用者の方が、「E-SAS（人とのつながり）」が改善した利用者の割合が高かった。（継続利用者については、貸与開始 18 カ月後は、Barthel Index が維持・改善した継続利用者より Barthel Index が悪化した継続利用者の方が、「E-SAS(人とのつながり)」が維持・改善した利用者の割合は低かった。「E-SAS(人とのつながり)」が改善した利用者の割合は、Barthel Index が維持・改善した利用者とは差がなかった。）

福祉用具の利用が、Barthel Index が悪化しても、「人とのつながり」を維持・改善する効果があると推測される。

図表 3-11 「Barthel Index の維持改善・悪化」別 「E-SAS（人とのつながり）」が維持・改善した利用者の割合

※「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較

※「E-SAS（人とのつながり）」の維持改善は、初回調査時点と各回調査時点の比較



図表のBIは、Barthel Index

(7) 「介護者の負担感」が維持・改善した利用者の割合の推移（Barthel Index の維持改善・悪化別）

「介護者の負担感」について、追跡調査の Barthel Index が初回調査より維持・改善した利用者として悪化した利用者の 2 群に分け、初回と各回調査の「E-SAS(人とのつながり)」を比較して維持・改善した利用者の割合と、そのうち改善した利用の割合の推移を示した。

新規利用者については、Barthel Index が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も、共に時間が経過するにつれ、「介護者の負担感」が維持・改善した利用者の割合は低下した。「介護者の負担感」が改善した利用者の割合は、Barthel Index が維持・改善した利用者の方が、Barthel Index が悪化した利用者も同程度で、時間が経過するにつれ高くなった。また、Barthel Index が維持・改善した利用者の方が、Barthel Index が悪化した利用者より、「介護者の負担感」が改善した利用者の割合が貸与開始 4 カ月後には高くなったが、貸与開始 12 カ月後には、ほぼ同程度となった。

継続利用者については、Barthel Index が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も共に、貸与開始 7 カ月後には「介護者の負担感」の維持・改善した利用者の割合は同程度であったが、貸与開始 10 カ月後、18 カ月後には、Barthel Index が維持・改善した利用者の方が、高くなった。「介護者の負担感」が改善した利用者の割合は、貸与開始 10 カ月後には、Barthel Index が悪化した利用者の方が、Barthel Index が維持・改善した利用者より高くなったが、18 カ月後には同程度となった。

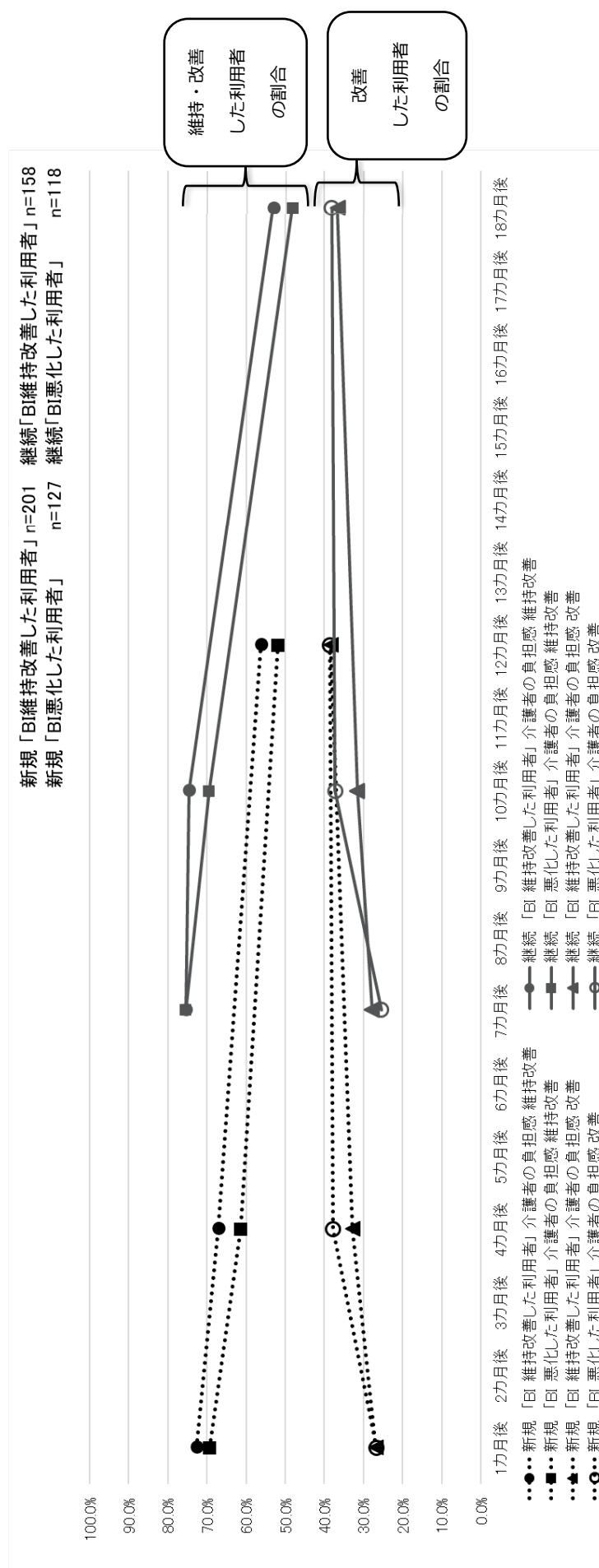
**福祉用具を利用し続けることで、使用方法にも慣れ、12 カ月後に Barthel Index が悪化した場合でも、大幅に介護者の負担感が悪化すること
がなく、また一部は改善する効果もあると推測される。**

図表 3-12 「Barthel Index の維持改善・悪化」別 「介護者の負担感」が維持・改善した利用者の割合

※ 「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較

※ 「介護者の負担感」の維持改善は、初回調査時点と各回調査時点の比較

※ 「介護者の負担感」の維持改善は、初回調査時点と各回調査時点の比較



3.3.2 ADL が改善した利用者に関する分析

平成 29 年度に実施した定点観測調査の初回調査時点と、追跡調査時点での Barthel Index の得点を比較すると、「改善」「維持」「悪化」の 3 群に分類することができる。

このうち改善すなわち Barthel Index の得点が向上した利用者に着目し、その特徴について分析するため、新規利用者、継続利用者それぞれについて初回調査時点の Barthel Index に基づいて 2 群に分け、以下の 4 つに区分して、集計を行った。

- ① 新規利用者 初回 Barthel Index 85 点以上 （以降「①新規 85 点以上」と称する）
- ② 継続利用者 初回 Barthel Index 85 点以上 （以降「②継続 85 点以上」と称する）
- ③ 新規利用者 初回 Barthel Index 80 点以下 （以降「③新規 80 点以下」と称する）
- ④ 継続利用者 初回 Barthel Index 80 点以下 （以降「④継続 80 点以下」と称する）

また、比較対象とするため、初回調査と追跡調査時点で、Barthel Index の得点の変化がなかった「維持」群、得点が下がった「悪化群」についても集計を行った。

(1) 基本情報

1) 用具導入のきっかけ

用具導入のきっかけについては、「医療施設等からの退所・退院」が改善群は 43.3%であり、維持群 31.2%、悪化群 35.3%よりも高かった。改善群のうち、新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index の得点が 80 点以下の利用者の場合、医療機関等からの退院・退所時から福祉用具を利用し始める割合が高かった。医療機関等からの退院・退所後、ADL が下がっている状態から、福祉用具を有効に利用することで、ADL を向上させることができると考えられる。

図表 3-13 用具導入のきっかけ

調査対象	調査数	退か医 所らの療 ・の施設 退等	新介 規護 申保 請險 の	そ の 他	無 回 答
総数	946	346	410	138	52
	100%	36.6%	43.3%	14.6%	5.5%
改善	300	130	119	32	19
	100%	43.3%	39.7%	10.7%	6.3%
①新規85点以上	61	16	34	6	5
	100%	26.2%	55.7%	9.8%	8.2%
②継続85点以上	56	18	25	11	2
	100%	32.1%	44.6%	19.6%	3.6%
③新規80点以下	101	57	29	9	6
	100%	56.4%	28.7%	8.9%	5.9%
④継続80点以下	82	39	31	6	6
	100%	47.6%	37.8%	7.3%	7.3%
維持	298	93	143	49	13
	100%	31.2%	48.0%	16.4%	4.4%
悪化	348	123	148	57	20
	100%	35.3%	42.5%	16.4%	5.7%

2) 疾患

疾患については、改善群のうち初回の Barthel Index の得点が 85 点以上の利用者では、「骨関節疾患」の割合が悪化群よりも高く、80 点以下の利用者では「脳血管疾患」の割合が維持群、悪化群よりも高かった。骨関節疾患を有する Barthel Index85 点以上の利用者や、脳血管疾患を有する Barthel Index80 点以下の利用者は、福祉用具を利用して ADL が改善する割合が高かった。

図表 3-14 疾患（複数回答）

調査対象	調査数	骨 関 節 疾 患	脳 血 管 疾 患	心 疾 患	パ ー キ ン ソン 病	が ん	そ の 他 進 行 性 疾 患	呼 吸 器 系 疾 患	そ の 他	も 無 回 答 （ 疾 病 な し ）
総数	946	196	141	72	45	34	22	30	205	78
	100%	20.7%	14.9%	7.6%	4.8%	3.6%	2.3%	3.2%	21.7%	8.2%
改善	300	61	51	20	16	9	6	7	73	78
	100%	20.3%	17.0%	6.7%	5.3%	3.0%	2.0%	2.3%	24.3%	26.0%
①新規85点以上	61	16	5	4	2	0	0	0	15	24
	100%	26.2%	8.2%	6.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	24.6%	39.3%
②継続85点以上	56	14	7	4	2	0	2	1	18	15
	100%	25.0%	12.5%	7.1%	3.6%	0.0%	3.6%	1.8%	32.1%	26.8%
③新規80点以下	101	15	23	3	6	4	2	4	23	25
	100%	14.9%	22.8%	3.0%	5.9%	4.0%	2.0%	4.0%	22.8%	24.8%
④継続80点以下	82	16	16	9	6	5	2	2	17	14
	100%	19.5%	19.5%	11.0%	7.3%	6.1%	2.4%	2.4%	20.7%	17.1%
維持	298	74	40	22	9	9	7	7	71	0
	100%	24.8%	13.4%	7.4%	3.0%	3.0%	2.3%	2.3%	23.8%	0.0%
悪化	348	61	50	30	20	16	9	16	61	0
	100%	17.5%	14.4%	8.6%	5.7%	4.6%	2.6%	4.6%	17.5%	0.0%

(2) 利用者の状況について

1) 平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更

平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更については、改善群のうち新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、他と比較すると利用目標を変更した割合が高かった。

図表 3-15 平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更

調査対象	調査数	な 利 用 目 標 の 変 更	あ り 用 目 標 の 変 更	無 回 答
総数	946	822	94	30
	100%	86.9%	9.9%	3.2%
改善	300	263	30	7
	100%	87.7%	10.0%	2.3%
①新規85点以上	61	59	2	0
	100%	96.7%	3.3%	0.0%
②継続85点以上	56	47	5	4
	100%	83.9%	8.9%	7.1%
③新規80点以下	101	86	14	1
	100%	85.1%	13.9%	1.0%
④継続80点以下	82	71	9	2
	100%	86.6%	11.0%	2.4%
維持	298	264	23	11
	100%	88.6%	7.7%	3.7%
悪化	348	295	41	12
	100%	84.8%	11.8%	3.4%

2) 平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更の理由

平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更の理由については、改善群のうち新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、「利用目標を達成した」割合が高かった。

図表 3-16 変更ありの場合の理由

調査対象	調査数	し 利 用 目 標 を 達 成	が 利 用 目 標 の 水 準	そ の 他
総数	200	152	6	42
	100%	76.0%	3.0%	21.0%
改善	60	49	0	11
	100%	81.7%	0.0%	18.3%
①新規85点以上	12	11	0	1
	100%	91.7%	0.0%	8.3%
②継続85点以上	11	10	0	1
	100%	90.9%	0.0%	9.1%
③新規80点以下	23	19	0	4
	100%	82.6%	0.0%	17.4%
④継続80点以下	14	9	0	5
	100%	64.3%	0.0%	35.7%
維持	63	51	1	11
	100%	81.0%	1.6%	17.5%
悪化	77	52	5	20
	100%	67.5%	6.5%	26.0%

注) 回答者を対象者数として集計表を作成

3) 利用目標におけるキーワード毎の目標達成度

a. 立ち上がり

立ち上がりについて、目標を達成した割合は、改善群は 86.4%、維持群は 82.5%、悪化群は 72.8%であった。

図表 3-17 立ち上がり

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	358	287	67	4
	100%	80.2%	18.7%	1.1%
改善	125	108	17	0
	100%	86.4%	13.6%	0.0%
①新規85点以上	19	16	3	0
	100%	84.2%	15.8%	0.0%
②継続85点以上	21	18	3	0
	100%	85.7%	14.3%	0.0%
③新規80点以下	47	42	5	0
	100%	89.4%	10.6%	0.0%
④継続80点以下	38	32	6	0
	100%	84.2%	15.8%	0.0%
維持	97	80	14	3
	100%	82.5%	14.4%	3.1%
悪化	136	99	36	1
	100%	72.8%	26.5%	0.7%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

b. 移乗

移乗について目標を達成した割合は、改善群は 86.6%、維持群は 74.4%、悪化群は 66.7%であった。

図表 3-18 移乗

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	216	164	48	4
	100%	75.9%	22.2%	1.9%
改善	82	71	11	0
	100%	86.6%	13.4%	0.0%
①新規85点以上	10	9	1	0
	100%	90.0%	10.0%	0.0%
②継続85点以上	9	9	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	34	29	5	0
	100%	85.3%	14.7%	0.0%
④継続80点以下	29	24	5	0
	100%	82.8%	17.2%	0.0%
維持	50	37	10	3
	100%	74.0%	20.0%	6.0%
悪化	84	56	27	1
	100%	66.7%	32.1%	1.2%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

c. 屋内歩行

屋内歩行について目標を達成した割合は、改善群は 79.8%、維持群は、80.7%、悪化群は 72.1%であった。特に改善群のうち、初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、新規利用者、継続利用者ともに目標を達成した割合が高かった。

図表 3-19 屋内歩行

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	291	225	50	16
	100%	77.3%	17.2%	5.5%
改善	104	83	18	3
	100%	79.8%	17.3%	2.9%
①新規85点以上	19	17	2	0
	100%	89.5%	10.5%	0.0%
②継続85点以上	15	15	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	39	30	9	0
	100%	76.9%	23.1%	0.0%
④継続80点以下	31	21	7	3
	100%	67.7%	22.6%	9.7%
維持	83	67	8	8
	100%	80.7%	9.6%	9.6%
悪化	104	75	24	5
	100%	72.1%	23.1%	4.8%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

d. 屋外歩行

屋外歩行については、改善群のうち、初回の Barthel Index が 85 点以上であった継続利用者において、目標を達成した割合が高かった。

図表 3-20 屋外歩行

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	249	179	41	29
	100%	71.9%	16.5%	11.6%
改善	83	56	17	10
	100%	67.5%	20.5%	12.0%
①新規85点以上	18	14	4	0
	100%	77.8%	22.2%	0.0%
②継続85点以上	16	16	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	27	13	10	4
	100%	48.1%	37.0%	14.8%
④継続80点以下	22	13	3	6
	100%	59.1%	13.6%	27.3%
維持	78	62	6	10
	100%	79.5%	7.7%	12.8%
悪化	88	61	18	9
	100%	69.3%	20.5%	10.2%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

(3) 前回調査以降の変化について

1) 福祉用具の操作の慣れ、利用頻度

a. 手すり

操作の慣れについては、改善群のうち初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者および維持群では、慣れたと回答する割合が高かった。利用頻度については、群による差は見られなかった。

図表 3-21 操作の慣れ 手すり

調査対象	調査数	慣れた	やや慣れた	変わらない	慣れていない
総数	522	427	26	68	1
	100%	81.8%	5.0%	13.0%	0.2%
改善	175	141	7	27	0
	100%	80.6%	4.0%	15.4%	0.0%
①新規85点以上	45	39	2	4	0
	100%	86.7%	4.4%	8.9%	0.0%
②継続85点以上	34	29	1	4	0
	100%	85.3%	2.9%	11.8%	0.0%
③新規80点以下	47	35	0	12	0
	100%	74.5%	0.0%	25.5%	0.0%
④継続80点以下	49	38	4	7	0
	100%	77.6%	8.2%	14.3%	0.0%
維持	163	141	7	15	0
	100%	86.5%	4.3%	9.2%	0.0%
悪化	184	145	12	26	1
	100%	78.8%	6.5%	14.1%	0.5%

図表 3-22 利用頻度 手すり

調査対象	調査数	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った
総数	516	80	40	393	3	0
	100%	15.5%	7.8%	76.2%	0.6%	0.0%
改善	173	24	13	135	1	0
	100%	13.9%	7.5%	78.0%	0.6%	0.0%
①新規85点以上	44	8	4	32	0	0
	100%	18.2%	9.1%	72.7%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	34	3	2	29	0	0
	100%	8.8%	5.9%	85.3%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	47	4	3	40	0	0
	100%	8.5%	6.4%	85.1%	0.0%	0.0%
④継続80点以下	48	9	4	34	1	0
	100%	18.8%	8.3%	70.8%	2.1%	0.0%
維持	159	31	9	118	1	0
	100%	19.5%	5.7%	74.2%	0.6%	0.0%
悪化	184	25	18	140	1	0
	100%	13.6%	9.8%	76.1%	0.5%	0.0%

b. 車いす・付属品

操作の慣れについては、「慣れた」と回答した割合は、改善群は 75.6%、維持群は 64.3%、悪化群は 67.6%であった。利用頻度については、「増えた」と回答した割合は、改善群は 13.4%、維持群は 16.4%、悪化群は 20.0%であった。

図表 3-23 操作の慣れ 車いす・付属品

調査対象	調査数	慣れた	やや慣れた	変わらない	慣れていない
総数	249	173	35	41	0
	100%	69.5%	14.1%	16.5%	0.0%
改善	82	62	8	12	0
	100%	75.6%	9.8%	14.6%	0.0%
①新規85点以上	2	2	0	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	5	3	1	1	0
	100%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
③新規80点以下	45	31	6	8	0
	100%	68.9%	13.3%	17.8%	0.0%
④継続80点以下	30	26	1	3	0
	100%	86.7%	3.3%	10.0%	0.0%
維持	56	36	10	10	0
	100%	64.3%	17.9%	17.9%	0.0%
悪化	111	75	17	19	0
	100%	67.6%	15.3%	17.1%	0.0%

図表 3-24 利用頻度 車いす・付属品

調査対象	調査数	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った
総数	247	42	24	169	9	3
	100%	17.0%	9.7%	68.4%	3.6%	1.2%
改善	82	11	11	52	6	2
	100%	13.4%	13.4%	63.4%	7.3%	2.4%
①新規85点以上	2	0	1	1	0	0
	100%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	6	1	1	2	2	0
	100%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	0.0%
③新規80点以下	44	8	5	26	4	1
	100%	18.2%	11.4%	59.1%	9.1%	2.3%
④継続80点以下	30	2	4	23	0	1
	100%	6.7%	13.3%	76.7%	0.0%	3.3%
維持	55	9	7	39	0	0
	100%	16.4%	12.7%	70.9%	0.0%	0.0%
悪化	110	22	6	78	3	1
	100%	20.0%	5.5%	70.9%	2.7%	0.9%

c. 歩行器

操作の慣れについては、改善群のうち継続利用者、および維持群で「慣れた」と回答する割合が高かった。利用頻度については、群による差は見られなかった。

図表 3-25 操作の慣れ 歩行器

調査対象	調査数	慣れた	やや慣れた	変わらない	慣れていない
総数	329	255	34	39	1
	100%	77.5%	10.3%	11.9%	0.3%
改善	109	82	11	16	0
	100%	75.2%	10.1%	14.7%	0.0%
①新規85点以上	25	19	3	3	0
	100%	76.0%	12.0%	12.0%	0.0%
②継続85点以上	26	21	1	4	0
	100%	80.8%	3.8%	15.4%	0.0%
③新規80点以下	35	23	6	6	0
	100%	65.7%	17.1%	17.1%	0.0%
④継続80点以下	23	19	1	3	0
	100%	82.6%	4.3%	13.0%	0.0%
維持	99	84	8	7	0
	100%	84.8%	8.1%	7.1%	0.0%
悪化	121	89	15	16	1
	100%	73.6%	12.4%	13.2%	0.8%

図表 3-26 利用頻度 歩行器

調査対象	調査数	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った
総数	325	54	44	213	10	4
	100%	16.6%	13.5%	65.5%	3.1%	1.2%
改善	107	18	9	76	4	0
	100%	16.8%	8.4%	71.0%	3.7%	0.0%
①新規85点以上	24	4	3	17	0	0
	100%	16.7%	12.5%	70.8%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	26	4	0	21	1	0
	100%	15.4%	0.0%	80.8%	3.8%	0.0%
③新規80点以下	35	6	5	21	3	0
	100%	17.1%	14.3%	60.0%	8.6%	0.0%
④継続80点以下	22	4	1	17	0	0
	100%	18.2%	4.5%	77.3%	0.0%	0.0%
維持	99	19	14	61	4	1
	100%	19.2%	14.1%	61.6%	4.0%	1.0%
悪化	119	17	21	76	2	3
	100%	14.3%	17.6%	63.9%	1.7%	2.5%

(4) リハビリテーション専門職との連携

連携している専門職は、全体として「理学療法士」の割合が高かった。特に改善群のうち初回の Barthel Index が 80 点以下であった新規利用者は、理学療法士、作業療法士と連携している割合が、他の利用者よりも高かった。

連携している専門職の所属は、全体として「通所リハビリテーション」の割合が高かった。特に改善群のうち初回の Barthel Index が 80 点以下であった新規利用者は、「通所リハビリテーション」に所属しているリハ専門職と連携している割合が、他の利用者よりも高かった。

図表 3-27 連携している専門職（複数回答）

調査対象	調査数	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他	無回答（連携していないも含む）
総数	946	192	72	4	71	640
	100%	20.3%	7.6%	0.4%	7.5%	67.7%
改善	300	60	25	3	23	200
	100%	20.0%	8.3%	1.0%	7.7%	66.7%
①新規85点以上	61	9	2	0	2	48
	100%	14.8%	3.3%	0.0%	3.3%	78.7%
②継続85点以上	56	8	1	0	9	38
	100%	14.3%	1.8%	0.0%	16.1%	67.9%
③新規80点以下	101	27	15	1	5	61
	100%	26.7%	14.9%	1.0%	5.0%	60.4%
④継続80点以下	82	16	7	2	7	53
	100%	19.5%	8.5%	2.4%	8.5%	64.6%
維持	298	54	19	0	21	211
	100%	18.1%	6.4%	0.0%	7.0%	70.8%
悪化	348	78	28	1	27	229
	100%	22.4%	8.0%	0.3%	7.8%	65.8%

図表 3-28 連携している専門職の所属（複数回答）

調査対象	調査数	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所リハビリテーション	病院	その他	無回答（連携していないも含む）
総数	946	74	55	140	33	72	610
	100%	7.8%	5.8%	14.8%	3.5%	7.6%	64.5%
改善	300	23	21	51	10	19	188
	100%	7.7%	7.0%	17.0%	3.3%	6.3%	62.7%
①新規85点以上	61	0	2	8	2	3	46
	100%	0.0%	3.3%	13.1%	3.3%	4.9%	75.4%
②継続85点以上	56	3	2	8	1	4	38
	100%	5.4%	3.6%	14.3%	1.8%	7.1%	67.9%
③新規80点以下	101	9	10	21	6	4	58
	100%	8.9%	9.9%	20.8%	5.9%	4.0%	57.4%
④継続80点以下	82	11	7	14	1	8	46
	100%	13.4%	8.5%	17.1%	1.2%	9.8%	56.1%
維持	298	19	13	38	7	19	210
	100%	6.4%	4.4%	12.8%	2.3%	6.4%	70.5%
悪化	348	32	21	51	16	34	212
	100%	9.2%	6.0%	14.7%	4.6%	9.8%	60.9%

リハ専門職との連携のタイミングは、全体として「サービス担当者会議の際」と回答する割合が高く、改善群は 28.7%、維持群は 17.4%、悪化群は 25.9%であった。また、改善群のうち初回の Barthel Index が 80 点以下であった新規利用者は、「用具の選定、見直しの際」と回答する割合が、他の利用者よりも高かった。

図表 3-29 連携のタイミング（複数回答）

調査対象	調査数	アセスメントの際	用具の選定・見直しの際	搬入・設置の際	利用指導・適合調整の際	モニタリングの際	サービス担当者会議の際	その他	無回答（連携していないも含む）
総数	946	42	72	18	33	48	228	20	655
	100%	4.4%	7.6%	1.9%	3.5%	5.1%	24.1%	2.1%	69.2%
改善	300	9	23	6	8	20	86	6	201
	100%	3.0%	7.7%	2.0%	2.7%	6.7%	28.7%	2.0%	67.0%
①新規85点以上	61	1	1	0	1	3	12	1	47
	100%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	4.9%	19.7%	1.6%	77.0%
②継続85点以上	56	2	4	0	1	3	15	0	41
	100%	3.6%	7.1%	0.0%	1.8%	5.4%	26.8%	0.0%	73.2%
③新規80点以下	101	3	12	3	3	7	36	3	60
	100%	3.0%	11.9%	3.0%	3.0%	6.9%	35.6%	3.0%	59.4%
④継続80点以下	82	3	6	3	3	7	23	2	53
	100%	3.7%	7.3%	3.7%	3.7%	8.5%	28.0%	2.4%	64.6%
維持	298	10	16	6	14	9	52	7	225
	100%	3.4%	5.4%	2.0%	4.7%	3.0%	17.4%	2.3%	75.5%
悪化	348	23	33	6	11	19	90	7	230
	100%	6.6%	9.5%	1.7%	3.2%	5.5%	25.9%	2.0%	66.1%

注）無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

3.4 追跡調査結果のまとめ

<分析対象について>

- ・ 追跡調査では、12 カ月または 18 カ月間、福祉用具の利用を継続している利用者 1236 人を対象として分析した。
- ・ なお、平成 29 年度調査以降、利用中止した利用者（471 人）のうち、自立、あるいは ADL が改善したことにより利用終了した利用者は 68 人であった。

<ADL の変化について>

- ・ 平成 29 年度調査では、全体として利用開始後 ADL が向上し、その後維持または緩やかな低下という変化が見られたが、12 カ月後、18 カ月後の状態を把握することにより、その後の利用においても同様の変化が継続していることが確認された。特に、利用開始時点で Barthel Index が 80 点以下であった利用者の Barthel Index 平均値は、利用開始時点で 57.3 点、4 カ月後は 59.6 点、12 カ月後は 60.3 点と向上していた（P16・図表 3-2）。
- ・ 疾患別では骨関節疾患、導入のきっかけ別では、医療機関等からの退院・退所の場合に、Barthel Index の維持・改善の割合が高かった。「骨関節疾患のみあり」の新規利用者では、貸与開始 1 カ月後から 12 カ月後も維持・改善した利用者の約 80% であり、改善した利用者の割合は徐々に高まり 12 カ月後は 32.7% であった（P22・図表 3-8）。「医療施設からの退所・退院」がきっかけで福祉用具を貸与した新規利用者についても、Barthel Index が改善した利用者の割合が高まり、12 カ月後には 37.3% であった（P23・図表 3-9）。これらの結果から、骨関節疾患等により入院し、退院時に福祉用具を利用開始し、在宅生活の中で使用することで機能が回復し ADL を向上させることができることを示していると考えられる。

<QOL について>

- ・ QOL(意欲の指標や人とのつながり)については、ADL が維持、改善した場合、QOL の維持・改善割合が高かった（P24・図表 3-10）。
- ・ 一方、ADL が低下している場合でも、一定数の利用者は QOL が維持、改善されていた。特に人とのつながりについては、ADL が悪化しても維持されている割合が高かった（P26・図表 3-11）。
- ・ Barthel Index が維持・改善した利用者において、「意欲の指標」が維持・改善した利用者の割合は、新規利用者、継続利用者共に 80%～90% 程度であった（P24・図表 3-10）。

<介護負担について>

- ・ 介護者の負担の平均値は、ADL の改善、悪化によらず大きな変化がみられなかった（P28・図表 3-12）。ADL が悪化しても、福祉用具を利用することにより、大幅に介護者の負担が悪化することがなく、また一部は改善する効果もあると推測される。

<ADL が改善した利用者の特徴について>

- ・福祉用具利用のきっかけについては、初回の ADL が低い群では医療機関からの退院の割合が高く、初回の ADL が高い群（初回の Barthel Index が 85 点以上）では介護保険の新規申請の割合が高かった（P30・図表 3-13）。疾患については、初回の ADL が高い群では骨関節疾患を有する利用者、初回の ADL が低い群では脳血管疾患を有する利用者の割合が高かった（P30・図表 3-14）。
- ・ADL が改善した利用者のうち特に初回の ADL が高い群では、目標を達成し、変更した割合が高かった（P31・図表 3-16）。動作別にみると、立ち上がり、移乗では改善群は全体的に達成した割合が高く（P32・図表 3-17、図表 3-18）、屋内歩行や屋外歩行については、初回の ADL が高い群で達成した割合が高かった（P33・図表 3-19、図表 3-20）。
- ・前回調査以降の変化については、福祉用具の操作に対して改善群、維持群で「慣れた」「やや慣れた」と回答する割合が高かった（P34・図表 3-21）（P35・図表 3-23）（P36・図表 3-25）。
- ・リハビリテーション専門職との連携については、新規利用者と初回の ADL が低い群では、理学療法士や作業療法士と連携している割合がやや高かった（P37・図表 3-27）。リハ専門職との連携のタイミングは、全体として「サービス担当者会議の際」と回答する割合が高く、改善群のうち初回の ADL が低かった新規利用者は、「用具の選定、見直しの際」と回答する割合が、他の利用者よりも高かった（P38・図表 3-29）。

4. 調査結果のまとめと課題

4.1 調査結果のまとめ

4.1.1 実態調査について

アンケートより、以下の点について確認された。

平成 30 年制度改正により、利用者への複数商品の提案やケアマネジャーへの計画書交付が義務付けられたが、多くの福祉用具貸与事業所では、制度改正以前から、福祉用具の選定プロセスにおいて複数商品の提案を行っており、ケアマネジャーに対して計画書を交付していた。複数商品の提示が義務化されたことに伴い、多くの福祉用具貸与事業所における福祉用具の選定プロセス自体が大きく変化したわけではないが、商品についての勉強会の開催または参加や、説明会や講習会の受講などにより、複数商品提案を適切に実施するための対応を前向きに行っていることが分かった。

全国平均貸与価格の説明が義務付けられたことに対応し、全国平均貸与価格より自社の価格が高い場合に価格を下げた事業所が 6 割以上であり、価格を下げた事業所のうち〇割は、コスト削減の方策としてレンタル卸費用を下げるための交渉等を行っていた。これに対し、全国平均貸与価格の説明への対応として、価格を変更した商品はないと回答している事業所は約 3 割であった。ケアマネジャーや利用者・家族に対して価格について説明する上で、自社の価格についての理解を得るための対応としては、自社の強みの明確化および説明内容についての検討や、利用者・家族への説明方法について事業所内で統一した対応方針の提示、説明方法についての事業所内で研修等の実施が行われていた。全国平均貸与価格を示すことで、価格が優先されがちになり、サービスの質の低下を懸念する事業所もみられたが、自社の貸与価格が高くないことの証明や、自社の独自性や強みを説明する機会が増えることについて期待している事業所もみられた。

住宅改修の複数見積について多くの事業所が対応している。住宅改修において、退院・退所に向けた病院・施設のリハ専門職の家庭訪問への同行や、施工に際して関連職員（リハ専門職・建築関係者）との連携等、専門職との連携を多くの事業所が行っており、住宅改修において重要かつ有効であることがわかった。複数見積取得について、価格が優先されがちになり、質の確保を懸念する事業所もあったが、平成 30 年 7 月以降の受注件数の状況は前年度比較で変わっていない事業所多かった。また、利用者の価格面での納得感が増す等の肯定的なとらえ方の事業所もみられた。建築専門職やリハ専門職等が適切に関与するための保険者の取り組みに関連した事業者の取り組みの変化はまだ少ないものの、一部で施工が必要な根拠を従来以上に意識するようになってきている。

以上より、調査時期は平成 30 年度改正に伴う制度施行後 8 カ月が経過した平成 30 年 12 月時点であったが（全国平均貸与価格の説明については 2 カ月経過）、各福祉用具貸与事業所において、制度改正に対しての取り組みが進められていることが確認された。全国平均貸与価格の説明に対しては、価格が優先されがちになることを一部懸念する声はあるものの、利用者・家族の理解の促進やサービスへの納得性の向上、自己決定に資するといった効

果や事業所の特徴についての説明の機会となるなど、ポジティブな効果・影響があることも期待されていた。また、ケアマネジャーへの計画書の交付は連携促進に資するなど、制度改正の効果や影響について全般的に肯定的に捉えられていることが確認された。30 年度制度改正によって全般的に利用者・家族のためになることが期待されるといった結果が出た一方で、福祉用具貸与事業所の負担が増えることが課題として挙げられたことから、サービスの質の維持及び向上を前提として、例えば福祉用具貸与事業所における ICT の更なる活用、先行取組事例の共有等、業務効率化を中心とした事業所の負担軽減を図ることが求められる。

4.1.2 追跡調査について

本事業では、平成 29 年度の定点観測調査の調査対象利用者に対する追跡調査を行い、新規利用者については 12 カ月、継続利用者については 18 カ月間、福祉用具貸与サービスを利用し、身体機能や生活環境等に応じた福祉用具の利用を継続している利用者について、調査開始時点からの ADL や QOL の経時的な変化や、調査開始時点と追跡調査時点の状態の比較を行った。

ADL については、Barthel Index を指標とし、合計得点ならびに「歩行」「階段昇降」について分析した。平均得点は、ほぼ維持されており、一部には改善している利用者も見られた。一般に、高齢化に伴い身体機能の低下傾向がみられる中で、福祉用具を継続している利用者については、一定程度、ADL が維持されていること、利用者の状態に応じた福祉用具を利用することで ADL が改善していることが確認された（参考 P169）。

QOL の指標としては、意欲や E-SAS の人とのつながりに着目したが、いずれも一定割合で維持、改善されていた。さらに、ADL が低下している利用者であっても、福祉用具を継続して利用することで QOL が低下せず、行動範囲や社会参加を維持できていることも推察された。

また、調査開始時点と比較して、Barthel Index 得点が改善している利用者の特徴について分析したところ、主に、医療機関等からの退院退所時、Barthel Index の低い状態で福祉用具の利用を開始している利用者において、改善している場合が多かった。また、疾患については、骨関節疾患を有するが比較的 ADL が高い状態で福祉用具の利用を開始する場合、脳血管疾患を有し比較的 ADL が低い状態で福祉用具の利用を開始する場合において、改善する割合が高かった。

また一定期間、福祉用具貸与サービスを利用継続することにより、目標が達成され、必要に応じて変更されていること、福祉用具の操作に慣れ、使いこなすことができていることが推察された。

リハビリテーション専門職との連携場面としては、用具の選定時やサービス担当者会議のほか、訪問リハや通所リハにおけるリハビリテーションの内容や機能向上の状況について共有したり、通所介護のリハビリテーション専門職と連携して通所時の状況について情報提供を受けるなど事例が見られた。

以上より、約 1000 人の 12 カ月間の追跡調査のデータに基づいて、福祉用具貸与サービ

スの利用者における ADL や QOL の維持、改善の状況を分析することにより、福祉用具の利用効果として「利用者の状態に適した福祉用具が選定され、利用を開始した後にも継続的に福祉用具専門相談員がリハビリテーション専門職とともに関与し、適切に使い続けることを支援することにより、ADL の維持、改善や QOL の維持、向上に資することができる」と考えられる。

4.2 今後の課題

4.2.1 平成 30 年度改正への対応とサービスの質の向上について

- 利用者・家族やケアマネジャーへの説明機会が増えることにより、福祉用具貸与事業所においては自己研鑽を目的とした研修（例えば当協会が実施する福祉用具選定士認定研修会等）や勉強会等の機会提供、OJT 等の検討が求められる。
- 全国平均貸与価格の提示や住宅改修の複数見積もりについては、利用者本位の選択に資する取組となる一方で、価格優先によるサービスの質の低下につながる恐れもあることから、価格についての理解を得る方法について、事業所内での説明方法の統一や自社の強みの明確化等の対応が求められる。
- 他職種との連携について、事業所による連携状況に差があり、今後、必要なプロセスについては、さらなる連携強化が望ましい場面における職種ごとの役割の明確化および連携の強化が求められる。例えば役割の面では、リハビリテーション専門職が人体構造に基づく動作支援や予後予測等を行い、福祉用具専門相談員は福祉用具の特長や機能に基づく評価を行う事等が考えられ、連携強化の面では、病院・施設からの退院・退所時を中心とした福祉用具利用検討場面（アセスメント）及びモニタリング時におけるリハビリテーション専門職との連携強化のための働きかけ等が考えられ、これを促進していくためのリハビリテーションや介護技術等に関する資質向上を事業所として更に取り組んでいく事が考えられる。
- 住宅改修については、今後、保険者による専門職との連携強化の取り組みが進められる中で、さらなる連携のための取り組みが求められる。具体的には、病院・施設からの退院・退所に向けた病院・施設のリハ専門職に対する働きかけ等が考えられ、これを促進していくためには福祉住環境コーディネーター検定試験に向けた取り組みや、事業所内における住宅改修勉強会の開催等、住環境整備に関する資質向上を事業所として更に取り組んでいく事が考えられる。

4.2.2 エビデンスに基づく福祉用具貸与サービス提供について

- 福祉用具貸与事業所では、複数商品の提案や全国平均貸与価格の説明、ケアマネジャーへの計画書交付など、30 年度改正への対応に取り組まれており、多職種の連携の促進や利用者本位の考え方に基づく選定に資するなど、取り組みの効果が期待されている。
- また、追跡調査の結果を分析した結果、福祉用具貸与サービスにおいて福祉用具を利用することにより、ADL や QOL の維持・改善、悪化の防止や介護負担の軽減に一定

の効果があると考えられる。

- 追跡調査では、ADL 指標として Barthel Index、QOL 指標として意欲、E-SAS、および介護負担に着目して福祉用具の利用効果について分析を行い、一定の結果を得た。これらのデータは、利用者の状態をモニタリングし、福祉用具の利用の効果を把握することにより、利用者の身体機能や生活環境に応じて適切な福祉用具が適切に利用されていることを評価する指標として活用可能と考えられる。
- 福祉用具貸与事業所等においては、今回の追跡調査の結果も参考としつつ、福祉用具の適切な提供に向けて、利用効果や利用者の状態の変化などを把握・検証していくことにより、状態の変化に即した福祉用具の選定につなげていくことが望まれる。福祉用具貸与事業所等においては、今回の追跡調査の結果も参考としつつ、福祉用具の適切な提供に向けて、モニタリングで得た利用者の状態の変化や目標設定の達成状況などを把握、適切に管理していくことにより、状態の変化に即した福祉用具の選定につなげていくことが望まれる。

こうした取り組みを進めていくことにより、利用者本人や家族も含め、福祉用具貸与の更なる「見える化」に資するものと考えられる。

福祉用具及び住宅改修に関するエビデンス構築に向けた研究事業
調査結果の概要

平成31年3月 発行

発行者 一般社団法人日本福祉用具供給協会

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-15

TEL 03-6721-5222

FAX 03-3434-3414

本事業は、平成30年度 老人保健事業推進費等補助金の助成を受け、行ったものです。

福祉用具及び住宅改修に関するエビデンス構築に向けた研究事業

報告書

平成31年3月 発行

発行者 一般社団法人日本福祉用具供給協会

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-15

TEL 03-6721-5222

FAX 03-3434-3414

本事業は、平成30年度 老人保健事業推進費等補助金の助成を受け、行ったものです。

